平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

不二ノ腰遺跡

2000

埼玉県熊谷市教育委員会

平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

不二ノ腰遺跡

ふじのこしいせき

2000

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土熊谷は、原始・古代の集落跡等の埋蔵文化財が、数多く分布することで知られています。こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。

しかしながら近年は、様々な開発にともない、日々郷土の景観は変化しております。このような状況において、失われつつある文化財を保護し、次世代に伝えていくことは現在に生きる私たちにとって大きな課題であり、責務であると考えます。

さて、不二ノ腰遺跡は熊谷市大字広瀬字不二ノ腰に所在する古代の遺跡であります。付近一帯に古代の集落が広く分布することが確認されております。

この遺跡の一部に、携帯電話の通信用鉄塔が建設される計画がもちあがりました。遺跡の保護と保存について、熊谷市教育委員会と開発業者との間で協議を重ねてまいりましたが、事業計画の変更が難しいことから、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、平成11年４月から５月にかけて実施された記録保存のための発掘調査成果をまとめたものでございます。

本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行にいたるまで御協力いただきましたエヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社をはじめ、ドコモエンジニアリング株式会社、電気興業株式会社、並びに地元関係者各位に厚くお礼申しあげます。

平成12年２月

熊谷市教育委員会
教育長 **飯塚誠一郎**

例　言

1　本書は，埼玉県熊谷市大字広瀬字不二ノ腰106番の一部に所在する不二ノ腰遺跡（埼玉県遺跡番号59－118）の発掘調査報告書である。

2　本調査は，携帯電話通信用鉄塔建設に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、Ⅰ章のとおりである。

4　発掘調査期間は、平成11年４月７日から平成11年５月28日である。
　整理・報告書作成期間は，平成11年６月７日から平成12年３月31日である。

5　発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会吉野　健・越前谷　理が、本書の執筆・編集は、吉野　健が行った。

6　写真撮影は、発掘調査は吉野・越前谷が、遺物は、吉野が行った。

7　出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。

8　本書の作成にあたり、村松　篤、大里郡市文化財担当者会の方々から御教示、御協力を賜った（敬称略）。記して感謝いたします。

凡　例

1　本文中、遺構の表記記号は、次のとおりである。

ＳＪ……住居跡、ＳＫ……土坑、Ｐ……ピット、ＳＤ……溝跡

2　各遺構の番号は、整理作業の段階で変更した。ただし、一部は発掘調査時に付したものを用いた。新旧対照表については、第１表に示した。

3　土層断面図中の表記記号は、次のとおりである。

Ｓ……川原石、Ｐ……土器、

4　遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。

遺構全測図……１／200、住居跡・土坑・ピット……１／60、溝跡……１／80、
住居跡カマド……１／30

5　遺構土層断面図及びエレベーション図のポイントの標高は、原則としてその都度表記して示した。但し、同一図中において標高が同じ場合は、原則として図の一番上のポイントに表記して示した。

6　遺物実測図の縮尺は、すべて１／４である。

7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にはできる限り残存率を記した。また、土師器の断面は白抜き、須恵器の断面は黒塗りで示し、スクリーントーンについてはその都度示した。

8　遺物分布図中の遺物番号は、遺物実測図中の番号と一致している。

9　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、cm である。また、推定値は括弧付けで示した。

色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997年版）に照らし最も近似した色相を示した。

第１表　遺構番号新旧対照表（左：新番号、右：旧番号）

住居跡		土坑				ピット	
01	SX01、SX02	01	07	12	04-2	01	01
02	SX03	02	01-4	13	13	02	08
03	SJ03、SX05	03	03-3	14	02-2	03	07
		04	04-1	15	21	04	10
		05	05	16	22	05	09
		06	02-1	17	28	溝跡	
		07	01-5	18	23	01	SD01、SX04
		08	01-1	19	24	02	02
		09	01-2	20	27		
		10	03-1	21	25		
		11	01-3	22	26		
				23	29		
				24	06		

目　次

序 …… I
例　言 …… II
凡　例 …… III
目　次 …… IV
挿図目次 …… V
表 目 次 …… V
図版目次 …… V

I　発掘調査の概要 …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　発掘調査・報告書作成の経過 …… 1
　3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織 …… 2
II　遺跡の立地と環境 …… 3
III　遺跡の概要 …… 11
　1　調査の方法 …… 11
　2　検出された遺構と遺物 …… 11
IV　遺構と遺物 …… 11
　1　住居跡 …… 11
　2　土坑 …… 27
　3　ピット …… 38
　4　溝跡 …… 39
　5　表土剥ぎ・グリッド一括遺物 …… 56
V　調査のまとめ …… 57

挿　図　目　次

第１図　埼玉県の地形……3
第２図　周辺遺跡分布図……4
第３図　不二ノ腰遺跡位置図……9
第４図　不二ノ腰遺跡全測図……10
第５図　第１号住居跡……12
第６図　第１号住居跡カマド……13
第７図　第１号住居跡遺物分布図……14
第８図　第１号住居跡出土遺物(1)……16
第９図　第１号住居跡出土遺物(2)……17
第10図　第２号住居跡……19
第11図　第２号住居跡カマド……20
第12図　第２号住居跡出土遺物……21
第13図　第３号住居跡……22
第14図　第３号住居跡カマド(1)……22
第15図　第３号住居跡カマド(2)……23
第16図　第３号住居跡出土遺物(1)……24
第17図　第３号住居跡出土遺物(2)……25
第18図　第１・15～17・18～22号土坑、第５号ピット……30
第19図　第２～14号土坑、第３・４号ピット…31
第20図　第23・24号土坑……33
第21図　土坑出土遺物……33
第22図　第24号土坑出土遺物……35
第23図　第１・２号ピット……39
第24図　第１・２号溝跡……40
第25図　溝跡出土遺物(1)……42
第26図　溝跡出土遺物(2)……43
第27図　溝跡出土遺物(3)……44
第28図　溝跡出土遺物(4)……45
第29図　溝跡出土遺物(5)……46
第30図　表土剥ぎ・グリッド一括遺物……56

表　目　次

第１表　遺構新旧対照表……Ⅲ
第２表　第１号住居跡出土遺物観察表……15
第３表　第２号住居跡出土遺物観察表……21
第４表　第３号住居跡出土遺物観察表……23
第５表　土坑出土遺物観察表……34
第６表　第24号土坑出土遺物観察表……36
第７表　溝跡出土遺物観察表……41
第８表　表土剥ぎ・グリッド一括遺物観察表…56

図　版　目　次

図版１　不二ノ腰遺跡全景（西から）
　　不二ノ腰遺跡全景（北から）
図版２　第１号住居跡
　　第１号住居跡遺物出土状況(1)
　　第１号住居跡遺物出土状況(2)
　　第１号住居跡遺物出土状況(3)
　　第１号住居跡カマド
　　第１号住居跡カマド遺物出土状況
図版３　第２号住居跡
　　第３号住居跡

図版３　第３号住居跡遺物出土状況
第１号土坑
第２～14号土坑、第３・４号ピット
第15～17号土坑、第５号ピット
第18～22号土坑
第23号土坑
図版４　第24号土坑
第24号土坑遺物出土状況
第１号ピット
第２号ピット
第１・２号溝跡（北から）
第１号溝跡（北から）
第１号溝跡遺物出土状況(1)
第１号溝跡遺物出土状況(2)
図版５　土師器坏
（第１・３号住居跡、第24号土坑、第１号溝跡）
図版６　土師器坏、須恵器坏
（第１号溝跡、第１号住居跡、第24号土坑）
図版７　須恵器坏
（第24号土坑、第１号溝跡）
図版８　須恵器坏・埦
（第１号溝跡）
図版９　須恵器埦・蓋、土師器甕・台付甕
（第１号溝跡、第１・３号住居跡）
図版10　須恵器甕・壺、砥石、刀子
（第１号溝跡、第３号住居跡、第24号土坑）

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成10年９月24日、市内大字広瀬字不二ノ腰において携帯電話の通信用鉄塔建設予定があるため埋蔵文化財所在の有無の照会があった。この際、熊谷市教育委員会は、当該地は遺跡の存在する可能性が高い地域であり、埋蔵文化財の詳しい所在を確認するための試掘調査の協力依頼とともに協議書の提出をお願いした。

平成10年10月12日付けで、エヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社設備建設部長から熊谷市教育委員会教育長あてに、当該地、鉄塔建設予定地内における埋蔵文化財の所在及び取扱いについての協議があり、埋蔵文化財の所在を確認するための試掘調査を必要とする旨、回答した。

そして、その回答を受けて再び同開発業者から平成10年10月20日付けで埋蔵文化財の所在を確認するための試掘調査依頼を受けた。そこで、平成10年10月30日に試掘調査を実施したところ、奈良時代から平安時代の土師器・須恵器片が検出され、埋蔵文化財の所在が確認された。本教育委員会は確認調査の結果を受け、不二ノ腰遺跡（県遺跡番号59-118）として、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードに追加した。

遺跡登録を受け、平成10年11月５日付け熊教社収第730号でエヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社設備建設部長あてに下記のとおり回答した。

当該地は、現状で保存するか、または埋蔵文化財に影響を及ぼさない方法での開発が望ましい。やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、文化財保護法第57条の２の規定により事前に文化庁へ埋蔵文化財発掘届出を提出し、記録保存のための発掘調査が必要である。

その後、保存策についての協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成11年４月１日にエヌ・ティ・ティ移動通信網株式会社・熊谷市教育委員会間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を締結し実施することとなった。

発掘調査に先立ち、事業者から文化財保護法第57条の２第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が平成11年３月19日付けで提出され、埼玉県教育委員会教育長から平成11年４月９日付け教文３－４号で発掘調査の実施の指示通知があった。そして、熊谷市教育委員会教育長は、文化財保護法第98条の２第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を平成11年４月27日付け熊教社発第114号で提出した。

発掘調査は、平成11年４月７日から開始した。

2　発掘調査･報告書作成の経過

（1）発掘調査

不二ノ腰遺跡の発掘調査は、平成11年４月７日から平成11年５月28日にかけて行われた。調査面積は、遺跡面積 1,100㎡の内通信用鉄塔建設工事によって破壊をうける367.52㎡であった。

平成11年４月７日に遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行い、４月９日から遺構精査作業を行った。その際、多数の土坑、ピット、溝跡、焼土・炭化物集中分布する箇所等が存在することが確認され、順次遺構の調査に着手した。遺構の検出は、遺跡の地山が礫混じりの砂層の上堅くしまっていたため、非

常に困難を極め、遺構の把握に手間取り、住居跡のプランは最初からはっきりとつかめず非常に苦労を強いられた。

平成11年５月28日には、調査のすべてを終了した。

（２）整理・報告書作成作業

整理作業は、平成11年６月７日から始めた。遺物の洗浄・注記・復元を行い、それと同時に遺構の図面整理作業を行った。12月までに順次、遺物の実測・拓本取り・写真撮影を行い、遺構の最終的な図面整理を行った。12月から平成12年２月にかけて遺構・遺物図面のトレース、遺構図・遺物図版組を行い、２月下旬には、原稿執筆、割付をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、３月31日に本報告書を刊行した。

３　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者　熊谷市教育委員会

教育長	飯塚誠一郎
教育次長	坂巻　篤
社会教育課課長	氏家　保男
副参事	浅野　晴樹
課長補佐	北　俊明
主幹兼係長	金子　正之
主　任	寺社下　博
主　任	渡邉　操
主　任	吉野　健
主　事	松田　哲
発掘調査員	市川　康弘
発掘調査員	小林　貴郎
発掘調査員	越前谷　理

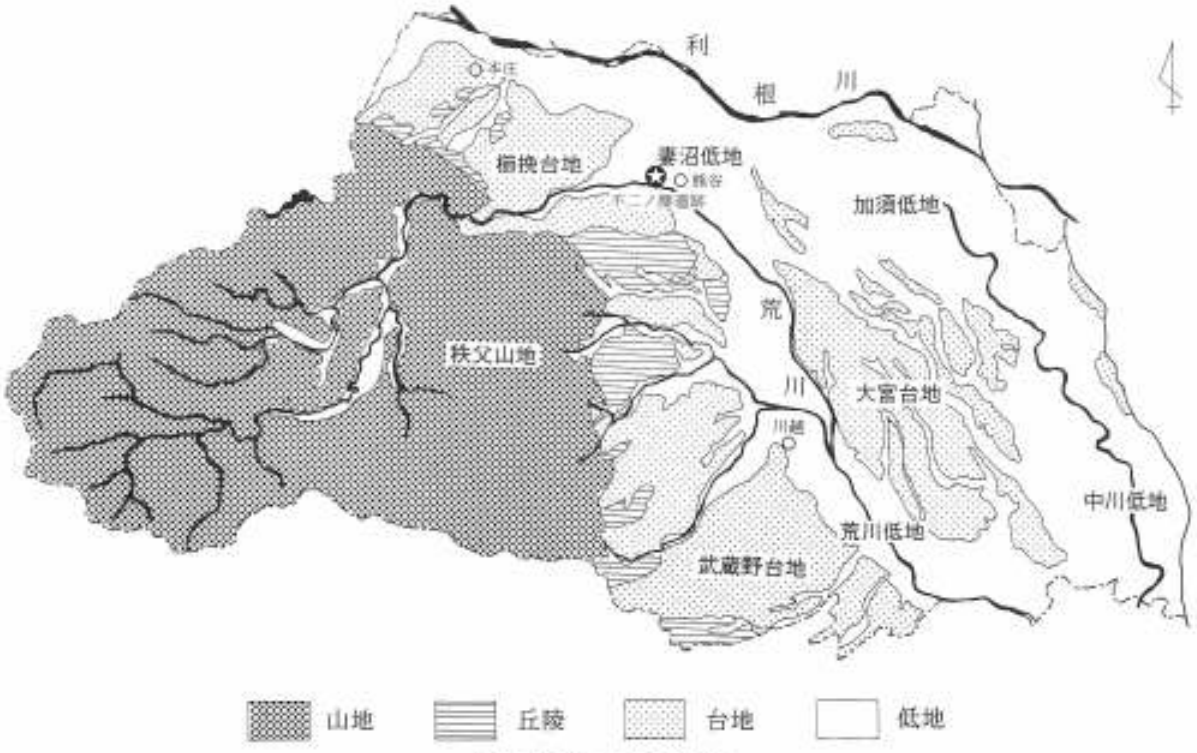
Ⅱ　遺跡の立地と環境

不二ノ腰遺跡は、熊谷市大字広瀬字不二ノ腰106番地他に所在し、ＪＲ高崎線熊谷駅の北西約3.5km、荒川から北へ約1.5km、利根川から南へ約10.0kmに位置する。

不二ノ腰遺跡の所在する広瀬地区は、熊谷市の中央西部にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地にある。櫛挽台地は、寄居町末野付近を扇頂に、荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地の荒川左岸側の一帯が浸食されてできたものである。そして、本遺跡が立地する妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地の新荒川扇状地（熊谷扇状地）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、その荒川左岸の新荒川扇状地上、標高約36.5m前後に立地し更地となっていた。遺跡を覆っていた土は、関東造盆地運動による地盤の沈降及び荒川の度重なる河川氾濫の影響で、おおよそ50cmの厚さをもっていた。

次に、本遺跡を中心に櫛挽台地及び妻沼低地における歴史的環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、平安時代の住居跡の覆土中から出土した籠原裏遺跡の黒曜石製の尖頭器が唯一の例である。縄文時代になると、櫛挽台地上さらには妻沼低地上にも発見例が少々増える。寺東遺跡では前期関山式土器が、三ヶ尻遺跡内の林遺跡でも前期黒浜式期の集落が発見されている。そして、同じく三ヶ尻遺跡内の天王遺跡では中期から後期の集落が発見されており、妻沼低地には石田遺跡も存在する。後期に至っては、前述の寺東遺跡で称名寺式期の埋甕を伴う土坑等が発見されており、豊富な土器群が検出された入川遺跡や深町遺跡も知られる。また、深谷市に目を転じてみると、自然堤防上で



第１図　埼玉県の地形

第２図　周辺遺跡分布図

発掘調査された中期後葉から後期の遺跡が存在する。本郷前東遺跡・原遺跡・上敷免遺跡・前遺跡等である。このことから，熊谷市だけに限らず深谷市においても妻沼低地の自然堤防上に生活の場を展開していったことが窺える。

一方，縄文時代晩期から弥生時代前半にかけての熊谷市内の発見例はほとんどなく，縄文時代晩期の深谷市の妻沼低地では，前述の遺跡を継承した位置に再び集落が営まれたようである。

次に熊谷市内において本格的展開の知られる遺跡は，現段階では弥生時代中期まで待つことになる。須和田式期の再葬墓が16基（うち３基は県埋蔵文化財調査事業団平成２年度調査）発見された横間栗遺跡，同じく須和田式期の壺が発見されている三ヶ尻遺跡内の上古遺跡が知られる。再葬墓群や土器を伴う土坑が検出されている遺跡は，深谷市上敷免遺跡・明戸東遺跡，妻沼町飯塚遺跡・飯塚南遺跡が知られる。上敷免遺跡では包含層から県内初の前期遠賀川式土器が出土している。地図には示していないが，北島遺跡・平戸遺跡・前中西遺跡も同時期の遺跡として挙げられ，北島遺跡でも再葬墓や土壙墓群が，前中西遺跡では再葬墓と方形周溝墓の２タイプの葬送形態が近接して発見されていて特異である。また，行田市小敷田遺跡では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が検出されている。一方，同時期の集落や住居跡が検出されている遺跡としては，関下遺跡・飯塚南遺跡・池上遺跡（地図中未掲載）が存在する。中期後半のものは深谷市宮ヶ谷戸遺跡・清水上遺跡で中部高地系櫛描文土器が出土している。後期には妻沼低地の各地に遺跡が見られ始め，深谷市明戸東遺跡・妻沼町弥藤吾新田遺跡・東沢遺跡・行田市池守遺跡（後者２遺跡は地図中未掲載）が存在する。明戸東遺跡・東沢遺跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が，弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

第２図掲載遺跡一覧表

１不二ノ腰遺跡　２寺東遺跡　３別府氏館跡　４別府城跡　５別府条里遺跡　６石田遺跡
７関下遺跡　８横間栗遺跡　９根絡遺跡　10深町遺跡　11入川遺跡　12西別府館跡
13西方遺跡　14西別府廃寺　15西別府祭祀遺跡　16原遺跡　17玉井陣屋跡　18新ヶ谷戸遺跡
19奈良東耕地遺跡　20水押下遺跡　21稲荷木上遺跡　22下河原上遺跡　23奈良氏館跡
24天神下遺跡　25土用ヶ谷戸遺跡　26一本木前遺跡　27中耕地遺跡　28西通遺跡
29東通遺跡　30横塚山古墳　31在家遺跡　32籠原裏遺跡　33拾六間後遺跡　34堂西遺跡
35樋の上遺跡　36東遺跡　37黒沢館跡　38黒沢遺跡　39若松遺跡　40三ヶ尻遺跡
41庚申塚遺跡　42松原遺跡　43社裏北遺跡　44社裏遺跡　45社裏南遺跡　46臺遺跡
47高根遺跡　48天神前遺跡　49兵部裏屋敷跡　50御蔵場跡　51弥藤吾新田遺跡
52道ヶ谷戸遺跡　53飯塚遺跡　54飯塚南遺跡　55清水上遺跡　56前遺跡　57居立遺跡
58城北遺跡　59柳町遺跡　60砂田遺跡　61ウツギ内遺跡　62原遺跡　63明戸東遺跡
64新田裏遺跡　65新屋敷東遺跡　66本郷前東遺跡　67上敷免北遺跡　68上敷免遺跡
69八日市遺跡　70幡羅太郎館跡　71宮ヶ谷戸堀ノ内遺跡　72東川端遺跡　73城下遺跡
74東方城跡　75庁鼻和城跡
Ⅰ別府古墳群　Ⅱ在家古墳群　Ⅲ玉井古墳群　Ⅳ籠原裏古墳群　Ⅴ三ヶ尻古墳群
Ⅵ広瀬古墳群　Ⅶ坪井古墳群　Ⅷ石原古墳群　Ⅸ上増田古墳群　Ⅹ木の本古墳群

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・根絡遺跡・別府条里遺跡・一本木前遺跡・中耕地遺跡・東沢遺跡・北島遺跡・天神遺跡（後半３遺跡は地図中未掲載）、深谷市清水上遺跡・明戸東遺跡・東川端遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡、弥藤吾新田遺跡、小敷田遺跡等がある。横間栗遺跡では住居跡が３軒、根絡遺跡では住居跡が13軒、北島遺跡では21軒検出されており、根絡遺跡、北島遺跡さらには弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。小敷田遺跡では畿内や東海地方等の外来系の土器が多数出土していて、東沢遺跡とあわせて河川跡から鋤・鍬をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られている。また、北島遺跡からも当該期の木製農具が出土している。

墓域の存在としては、上敷免遺跡・東川端遺跡・小敷田遺跡等で方形周溝墓群検出されていて、各々９基・５基・17基である。特に東川端遺跡第２号方形周溝墓からは、パレススタイルの大型壺が出土している。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。北島遺跡・中条遺跡内の権現山遺跡・常光院東遺跡（後者２遺跡は地図中未掲載）等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甕を模倣した土師器小型壺が、権現山遺跡では出現期の竈をもつ住居跡が検出されている。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認されていて、遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また、古墳に目を転じてみると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防上に横塚山古墳が存在する。これは、Ｂ種横刷毛の埴輪をもつ前方後円墳（後円部は一部欠損）である。

そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地上及び新荒川扇状地上では、樋の上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が90軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは14軒以上を数える。また同遺跡内の上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居跡が50軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡や中学校遺跡でも後期の集落が検出されている。一方妻沼低地の自然堤防上では、一本木前遺跡・天神下遺跡・根絡遺跡・原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・城北遺跡・居立遺跡・飯塚南遺跡・妻沼町道ヶ谷戸遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。一本木前遺跡では後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が60軒以上検出されており、当該期の祭祀跡も発見され、折り重なるように土師器坏等が出土し、それとともに白玉も出土している。城北遺跡では住居跡157軒が検出され、住居跡内から人、馬・牛等の獣骨が多数出土し、特に人骨が住居跡から検出された例はあまり知られていない。

一方、古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地上の別府古墳群・在家古墳群・籠原裏古墳群・三ヶ尻古墳群・深谷市木の本古墳群、新荒川扇状地上の玉井古墳群・広瀬古墳群・坪井古墳群・石原古墳群・肥塚古墳群、妻沼低地上の深谷市上増田古墳群・中条古墳群・上之古墳群等が分布する。これらは概ね６世紀から７世紀ないしは８世紀初頭にかけて形成された古墳群である。

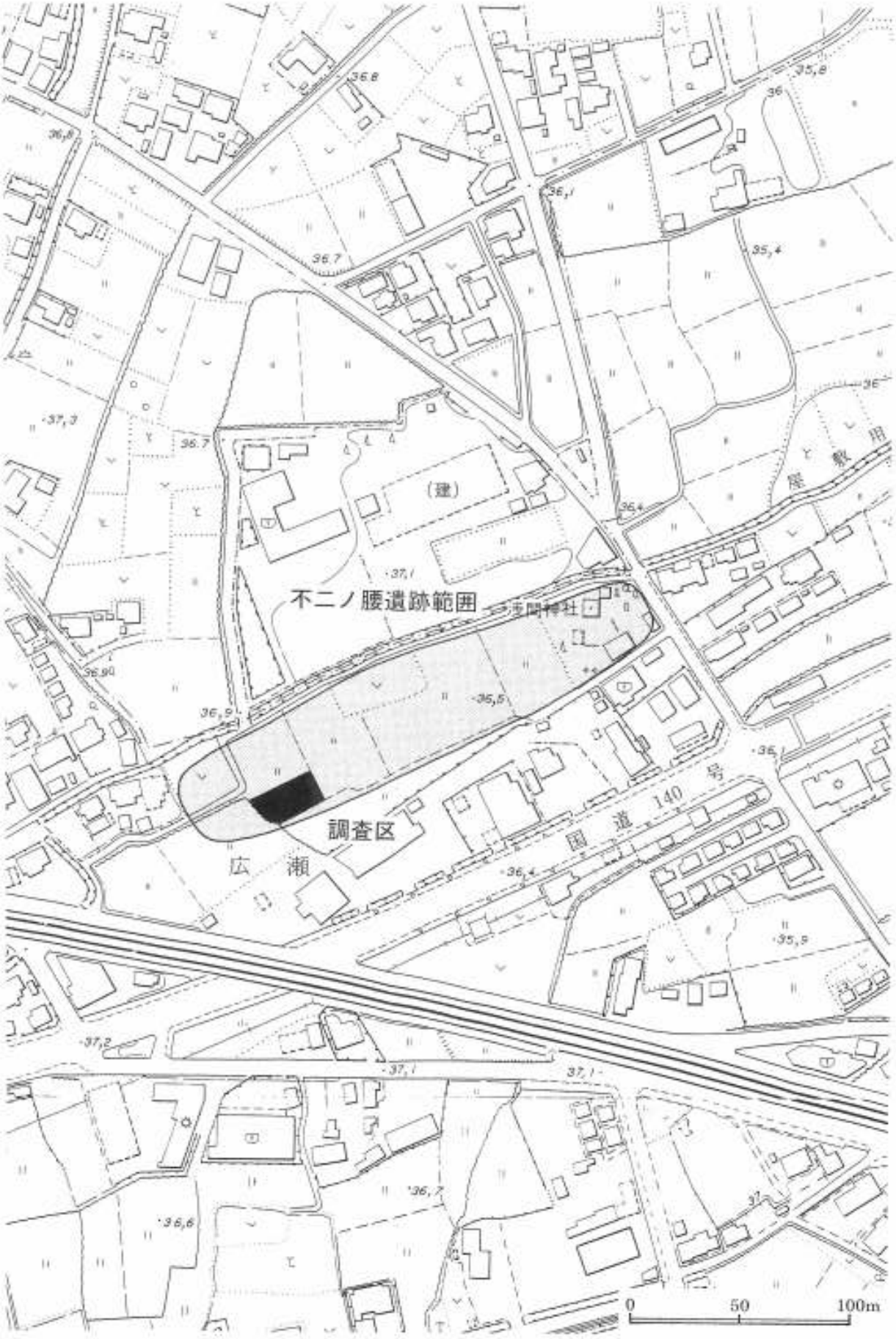
別府古墳群は、農夫の埴輪を出土している。籠原裏古墳群は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有す

る古墳群であるが、７世紀末の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており、終末期の古墳の様相さらには後述する８世紀初頭創建の西別府廃寺という初期寺院との関係においても見逃すことのできない発見である。三ヶ尻古墳群は、前方後円墳の二子山古墳を盟主墳とする100基以上の古墳で構成される大古墳群であるが、現在でも61基の所在が確認されている（消滅・半壊を含める）。玉井古墳群に含まれると考えられる新ヶ谷戸遺跡１号墳でも川原石使用の胴張型横穴式石室が発掘調査によって発見されている。また、本遺跡も分布の範囲に含まれる広瀬古墳群中の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し、熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。

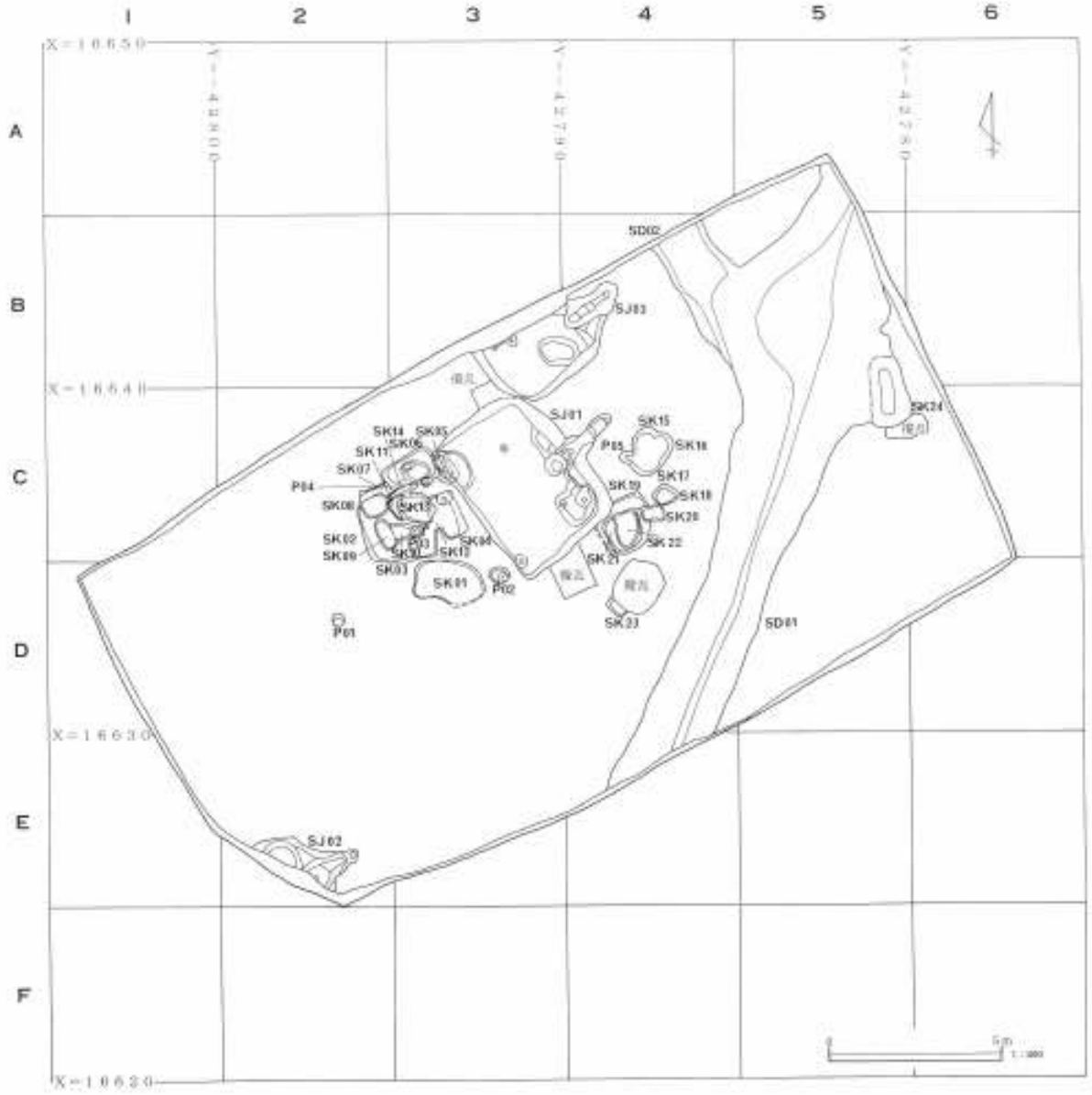
古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は、竪穴式住居を主体に少量の掘立柱建物で構成された集落である。他に上敷免遺跡・柳町遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡等が挙げられる。奈良時代には、この地域も律令制体制に組み込まれていき、別府条里遺跡等が見られる。このころの中心的遺跡は櫛挽台地上に見られ、この地域には幡羅郡が設置され、台地上に「原郷」の地名が残り、前述のとおり西別府廃寺が存在する。二度の発掘調査によって寺域を区画する大溝、伽藍配置は不明であるが基壇跡、瓦溜まり状遺構等とともに軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が多量に出土し、瓦は８世紀初頭から９世紀後半のものまで確認されており、県内でも滑川町寺谷廃寺に次いで最も古い建立の寺院の一つとして認識されている。また、その北西約200ｍの湯殿神社裏の湧水箇所には西別府祭祀遺跡が所在し、奈良時代を中心にする古墳時代後期から平安時代までの土師器・須恵器と伴に馬形・櫛形・勾玉形・有孔円板形・有線円板形・剣形等の滑石製模造品が約160点発見されており、県内でも類例がほとんどない水辺の祭祀の実態を考える上で貴重な遺跡である。西別府廃寺は、この祭祀遺跡との関係を考慮に入れれば、幡羅郡の郡寺的な機能を有すると考えることもできるし、周辺の古墳群を形成した有力氏族との関係も想定できる。奈良・平安時代の集落遺跡としては、広瀬地区には本遺跡の他、すぐ北側に高根遺跡がある。この高根遺跡は試掘調査および分布調査の結果、当該期の比較的大規模な集落と考えられる。他には在家遺跡・籠原裏遺跡・拾六間後遺跡・堂西遺跡・飯塚南遺跡・新ヶ谷戸遺跡・奈良東耕地遺跡・北島遺跡がある。特に北島遺跡は７世紀から12世紀の大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な堀立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等興味深い発見がされている。一本木前遺跡の11世紀初頭の住居跡からは、瑞花鴛鴦八稜鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷、深谷市東方城跡・庁鼻和城跡・幡羅太郎館跡等であるが、いずれの居館も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の東に所在する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀を良く残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって出枡形に張り出して台形に全周する堀・土塁の一部・２箇所の虎口・柱穴跡・土壙・集石遺構等が検出され、渡辺崋山の記した『訪瓢録』に残る「黒沢館跡」の記載と遺構が合致した貴重な例である。遺物としては、14～15世紀の年号が記載された板石塔婆や15～16世紀の瀬戸・美濃焼の陶器・内耳土器・土師質土器等が出土している。北側に所在する樋の上遺跡でも、15～16世紀の土壙・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられている。墓域としては、三ヶ尻遺跡内の天王遺跡・樋

の上遺跡・若松遺跡・社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡・西方遺跡等があげられ、櫛挽台地及びそれを仰ぐ新荒川扇状地上に分布する。樋の上遺跡・若松遺跡では土葬墓・火葬墓等が検出されており、内耳土器・土師質土器・白磁、青磁、常滑、瀬戸等の陶磁器・板石塔婆・石臼等が出土している。また、黒沢館跡及び樋の上遺跡の南西に位置する社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡では土壙墓群が、台地上の天王遺跡でも墓地群が、さらに台地の縁辺部に位置する西別府地区の西方遺跡では中世から近世にかけての150基以上もの土壙墓がも幾重にも重なり合って検出されている。しかし、中世以降の歴史的実態はまだまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。



第3図　不二ノ腰遺跡位置図



第４図　不二ノ腰遺跡全測図

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

発掘調査の方法は、１辺５ｍのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として南へＡ・Ｂ・Ｃ・・・、東へ１・２・３・・・とし、Ａラインは西から東へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３・・・と呼称した。Ｂライン以南もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

発掘調査は、重機による遺構確認面までの表土剥ぎを行った後、上記のグリッド設定を行った。なお、座標は国家座標Ⅸ系に基づく基準点測量による。表土剥ぎ後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手堀りを行った。原則として遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構は写真撮影した後、実測を行った。そして最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

2 検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、調査区の中央部および北西部に分布し、唯一第２号住居跡が離れて南端部に所在した。古代（奈良～平安時代）の住居跡３軒、土坑24基、ピット５基、溝跡２条の遺構、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・蓋・甕・壺、砥石、鉄製刀子等の遺物が検出され、コンテナ５箱分の出土量であった。遺物量は比較的少なく、住居跡および溝跡から出土したものが主体で、土坑・ピット等からの出土は少なかった。

Ⅳ 遺構と遺物

1 住居跡

住居跡は総数で３軒確認された。第１号住居跡と第３号住居跡は各々隣接して検出され、重複関係にあった。第２号住居跡は、調査区南西隅に単独で検出された。深さは、すべて確認面から70cmから80cmの間に収まる。第１号住居跡はプランのすべてが、第２・３号住居跡は、部分的に確認されたにすぎなかった。遺物の出土量は、前述の影響か第１号住居跡が群を抜いて多かった。次いで第３号住居跡、第２号住居跡という順である。全般的に土師器の占める割合が高いが、第３号住居跡は、須恵器の甕破片が目立っていた。また、第２号住居跡は、ほとんどが土師器の甕破片であった。時期は、概ね８世紀後半代から９世紀後半に収まるものと考えられる。

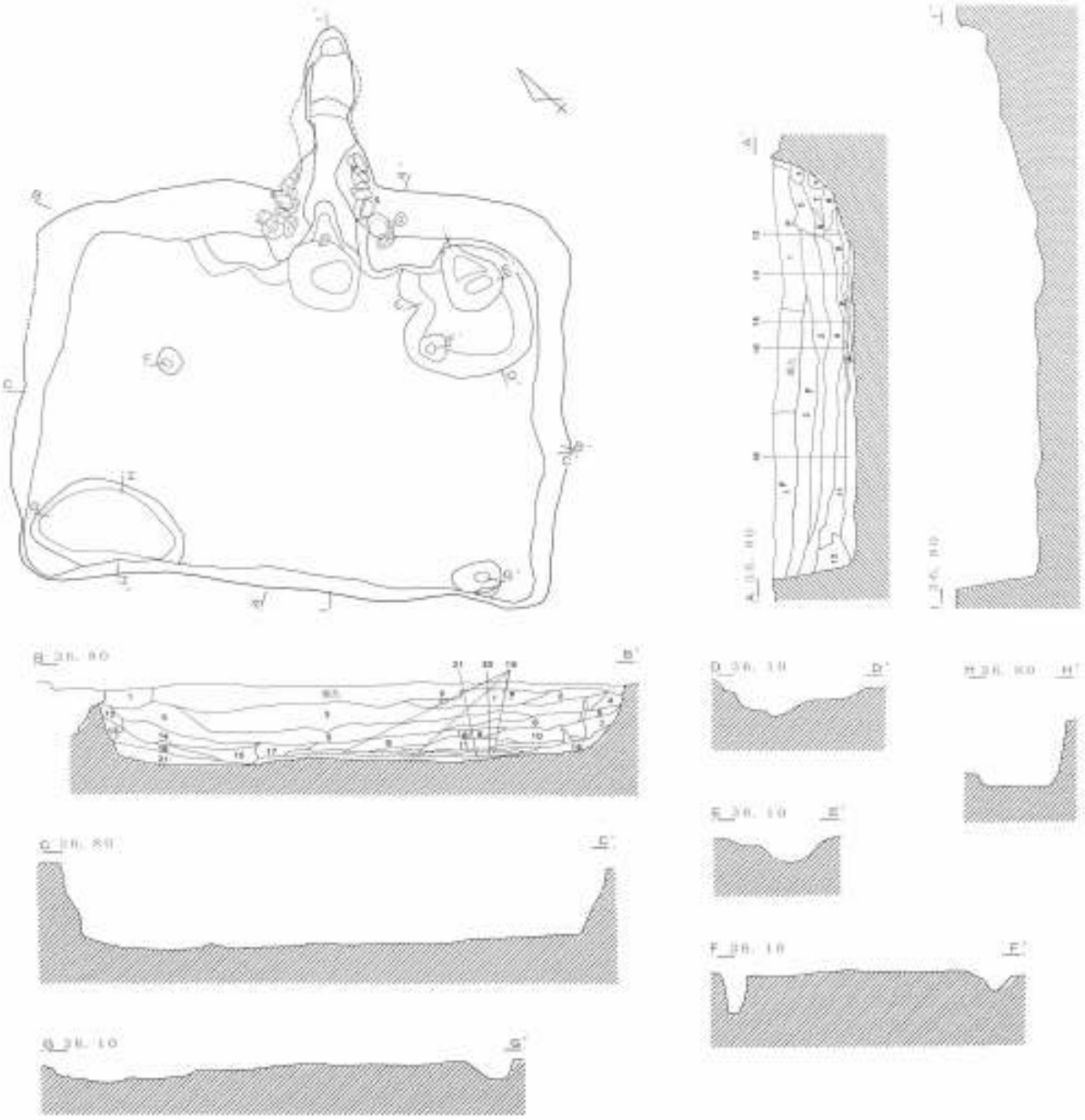
以下各住居跡ごとに詳細を記載する。

第１号住居跡（第５～９図、第２表）

Ｃ－３・４、Ｄ－３グリッドから検出した。遺構は第３号住居跡と重複しており、第３住居跡に壊されていた。

平面プランは方形で、規模は長軸4.93m、短軸4.78m、深さ0.70mであった。主軸方向は、Ｎ－47°－Ｅである。壁溝は検出されなかった。柱穴と貯蔵穴と思われるピットが検出された。

住居跡の覆土は、大形の川原石など、多量の礫混じりの砂質土や粘質土で、床面も多量の小礫や砂利

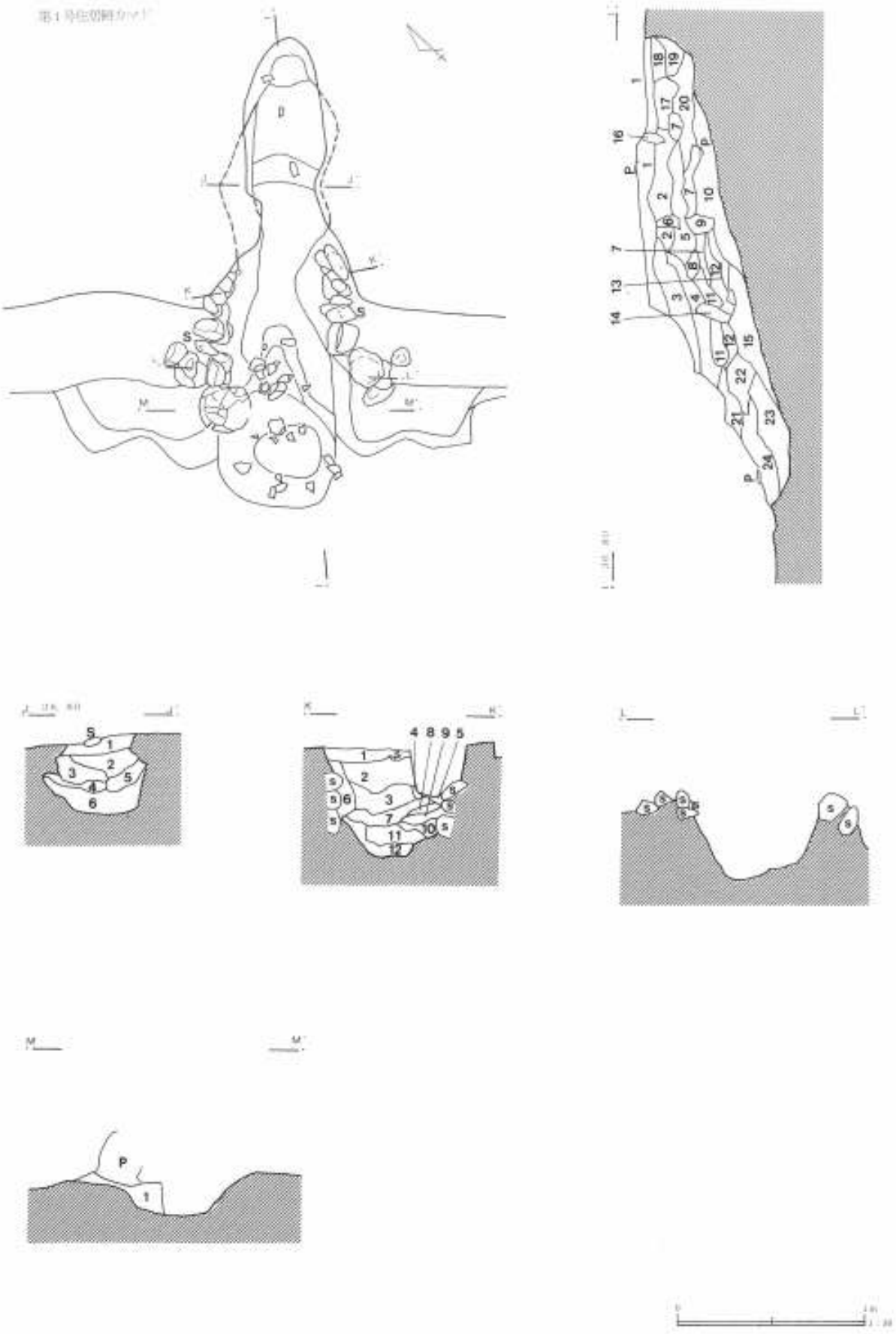


第1号住居跡（A－A'）
1 黒褐色砂質土 10YR-3/2（焼土、炭化物、大小礫少量、土器含む）
2 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（砂・礫多量、土器含む）
3 黒褐色粘質土 10YR-3/2（焼土・炭化物少量、砂多量に含む）
4 暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2（焼土少量、砂・礫多量、土器含む）
5 にぶい黄色砂質土 2.5Y-6/3（焼土、炭化物、火山灰多量、砂多量、礫含む）
6 灰黄褐色粘質土 10YR-4/2（シルト質、炭化物、火山灰若干含む）
7 にぶい黄褐色土 10YR-5/3（砂・礫含む）
8 灰黄褐色粘質土 10YR-4/2（灰白色土 5Y-7/2 ブロック多量、砂・小礫少量、土器含む）
9 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2（ややシルト質、焼土、炭化物含む）
30 黒褐色砂質土 10YR-3/2（やや粘性あり、焼土、炭化物含む）
31 黒褐色粘質土 10YR-4/2（砂質感つよい、焼土多量、礫含む）
32 黒褐色粘砂土 2.5Y-3/2（砂質感つよい）
33 黒褐色粘質土 10YR-3/2（にぶい黄褐色粘質土 10YR-6/3 ブロック無数に混じる）
34 にぶい黄褐色粘質土 10YR-5/3
35 褐灰色粘質土 7.5YR-4/1（やや砂質、焼土、炭化物、土器含む）
36 砂

第1号住居跡（B－B'）
1 黒褐色砂質土 10YR-3/2（焼土、炭化物、大小礫少量、土器含む）
2 黄褐色砂質土 2.5Y-5/3（砂・礫多量に含む）
3 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（砂・礫多量、土器含む）
4 暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2（砂多量、礫含む）
5 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（砂・礫多量、焼土・炭化物少量含む）
6 黄褐色砂質土 2.5Y-5/3（砂・礫多量に含む）
7 暗灰黄色砂質土 2.5Y-5/2（黒褐色土 10YR-3/2 ブロック、砂多量に含む）
8 灰黄褐色粘質土 10YR-4/2
9 黒褐色粘質土 2.5Y-3/2（焼土少量、砂・礫少量含む）
10 黒褐色砂質土 2.5YR-3/2（砂非常に多く含む）
11 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（やや粘性あり、焼土、炭化物含む）
12 暗灰黄色砂質土 7.5YR-4/2（砂・礫少量含む）
13 にぶい黄褐色砂質土 10YR-4/3（砂多量に含む）
14 黒褐色砂質土 10YR-3/2（焼土、炭化物、砂・礫多量に含む）
15 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（灰色土 5/7ブロック無こり、焼土、炭化物含む）
16 黒褐色粘質土 2.5Y-3/2
17 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（砂少量含む）
18 にぶい黄褐色砂質土 10YR-5/3（砂質感非常につよい）
19 褐灰色粘質土 7.5YR-4/1（やや砂質、焼土、炭化物、土器含む）
20 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2（焼土、炭化物含む）
21 砂

0　2M
1:80

第5図　第1号住居跡



第6図　第1号住居跡カマド

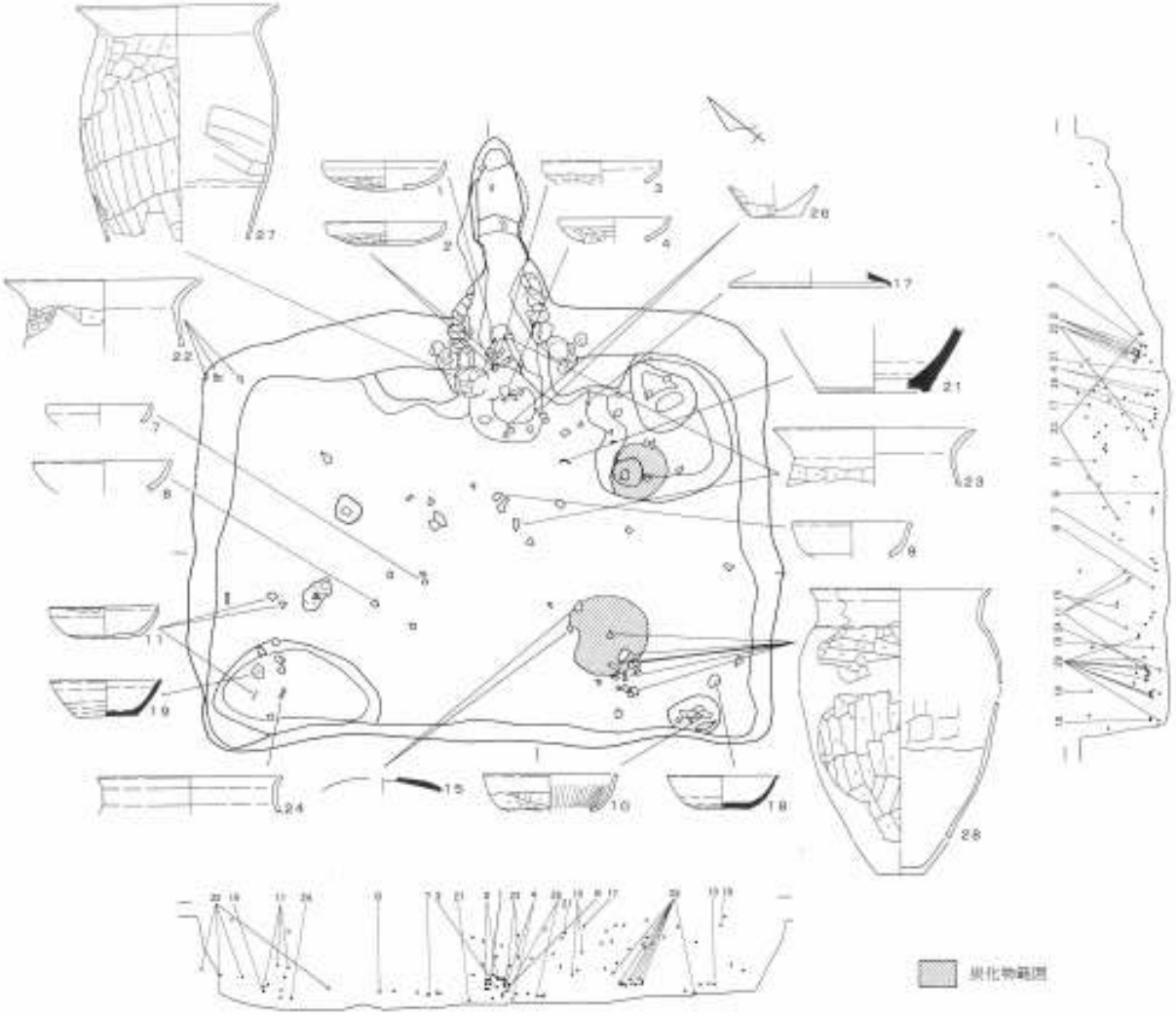
第1号住居跡　カマド土層註

カマド（1～1'）
1 暗灰黄褐色砂質土 2.5Y-4/2（焼土、火山灰若干、炭小粒多量、土器含む）
2 黒褐色粘質土 2.5Y-3/2（火山灰若干）
3 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（焼土、炭化物、砂多量、礫含む）
4 黒褐色砂質土 2.5Y-3/2（焼土、砂・小礫若干含む）
5 暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2（焼土多量、炭化物若干、小礫若干含む）
6 暗灰黄色砂質土 2.5Y-3/2
7 焼土層（明灰黄色砂質土 2.5Y-4/2 ベース、炭化物若干含む）
8 灰色砂 10Y-4/1
9 黒褐色粘土 2.5Y-3/2（焼土少量含む）
10 暗灰黄色砂土 2.5Y-5/2（砂質強つよい、焼土・炭化物若干、土器含む）
11 黒褐色砂質土 10YR-3/2（焼土・炭化物若干含む）
12 黒褐色粘土 10YR-3/2（焼土多量に含む）
13 暗灰黄色砂 2.5Y-5/2（焼土少量含む）
14 暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2（焼土、砂多量に含む）
15 黒褐色砂質土 10YR-3/1（砂質強つよい、焼土含む）
16 にぶい黄色砂質土 2.5Y-4/3
17 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（焼土少量、砂多量、土器含む）
18 にぶい黄褐色砂質土 10YR-4/3（火山灰若干含む）
19 黒褐色土 10YR-3/2（焼土、炭化物含む）
20 灰黄褐色土 10YR-4/2（焼土、炭化物、砂多量に含む）
21 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（シルト質、混熟している、炭化物含む）
22 灰黄褐色土 10YR-4/2（焼熟して灰褐色 5YR-4/2 帯びる、焼土多量、炭化物含む）
23 黄褐色砂質土 2.5Y-5/1（焼土、小礫少量含む）
24 褐灰色砂質土 10YR-4/1（粘性あり）

カマド（1～1'）
1 暗灰黄褐色砂質土 2.5Y-4/2（焼土、火山灰若干、炭小粒多量、土器含む）
2 黒褐色粘質土 2.5Y-3/2（灰黄褐色土 10YR-4/2 混じる、火山灰若干、焼土、炭化物含む）
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（シルト質、焼土・炭化物若干、砂多量に含む）
4 焼土層（暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2 ベース）
5 黒褐色土 2.5Y-3/1（焼土、炭化物、火山灰ごくわずか含む）
6 暗灰黄色砂 2.5Y-5/2（砂質強つよい、焼土・炭化物若干、土器含む）

カマド（6～6'）
1 暗灰黄褐色砂質土 2.5Y-4/2（焼土、火山灰若干、炭小粒多量、土器含む）
2 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（砂、礫含む）
3 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（にぶい黄色砂質土 2.5Y-4/3、黒褐色土 10YR-3/2 ブロック、焼土、火山灰ごくわずか含む）
4 黒褐色砂質土 2.5Y-3/2（焼土、砂・小礫若干含む）
5 灰黄褐色土 10YR-4/2
6 暗褐色土 10YR-3/3（シルト質、混熟している、火山灰若干）
7 黒褐色砂質土 10YR-3/2（黄褐色砂質土 2.5Y-5/3 ブロック、焼土・炭化物若干含む）
8 焼土層（黒褐色砂質土 10Y-3/2 ベース、炭化物若干含む）
9 黒褐色粘砂土 10YR-3/2（焼土多量に含む）
10 暗灰黄色砂 2.5Y-5/2（焼土少量含む）
11 黒褐色砂質土 10YR-3/1（砂質強つよい、焼土、炭化物含む）
12 灰黄褐色粘砂土 10YR-4/2（焼土少量含む）

カマド（M～M'）
1 褐色土 10YR-4/4（明赤褐色土 5YR-5/8 粒子少量、土器含む）



第７図　第１号住居跡遺物分布図

が含まれる土層中に作られており、床面直上は砂が堆積していた。

カマドは、住居跡東側の壁のほぼ中央で検出された。袖は地山を少し掘り残し、その上に倒立させた土師器の甕または大形の川原石を補強材に使用して作られていたものと思われる。補強材としての土師器甕は左袖のみの検出であった。また、多量の小礫を含む覆土と地山であったため判別が困難で、袖を明確に検出することができなかった。カマドは煙道が残っており、住居跡の壁面より東方向へ1.44m作り出されていた。

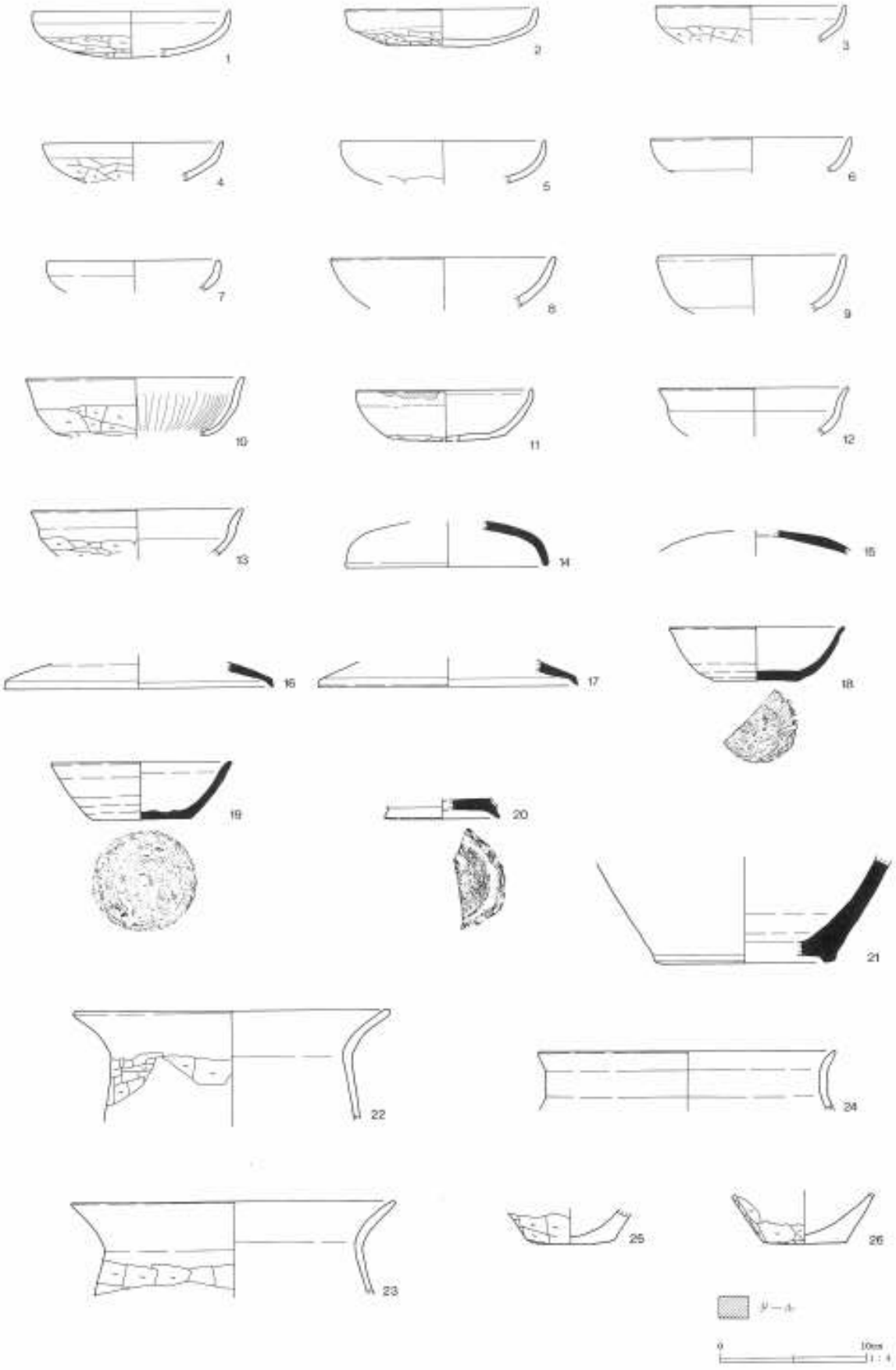
また、カマドの焚き口に近い部分の壁には、拳大以上の川原石がほぼ小口をそろえて約３段に積まれていた。石の表面は、赤く変色しており直接火を受けていたと考えられる。

遺物は、須恵器の坏がほぼ完形で１点出土した以外は完形のものはなかった。おそらく多量の礫混じりの覆土から出土したためと思われる。土器は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕・壺などが出土した。また、住居跡全体に分布して出土したが、特にカマドの焚き口付近、カマド右脇の貯蔵穴、住居の南東および南西に比較的まとまって出土した。

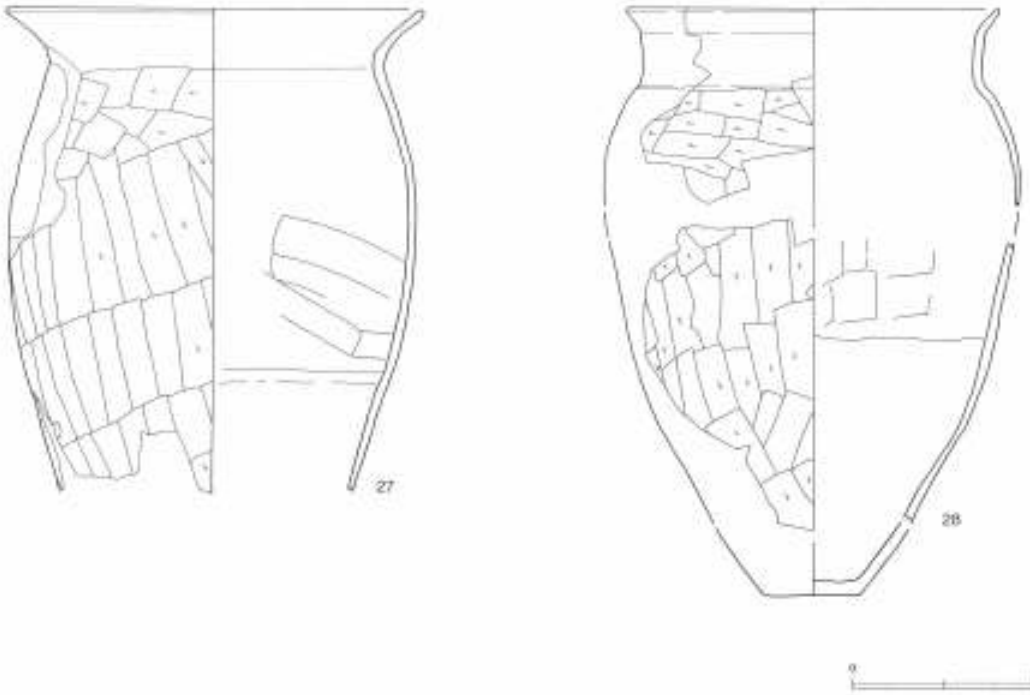
時期は、おおよそ９世紀の前半代と考えられる。

第２表　第１号住居跡出土遺物観察表（第８・９図）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(13.3) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	白色粒子、黒色粒子、雲母含む。	にぶい赤褐色5YR-5/3	良好	40%	
2	坏	口径13.1 器高2.5	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部は若干外傾ぎみに立つ。底部はやや丸底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	にぶい褐色7.5YR-5/3	良好	50%	
3	坏	口径(12.9) 残存高2.5	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はやや丸みを帯び直立して立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	外面：橙色7.5YR-6/6、にぶい黄橙色10YR-5/3 内面：にぶい黄橙色10YR-6/4	良好	口縁の25%	
4	坏	口径(12.1) 残存高2.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部は外傾して立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母、石英含む。	外面：にぶい橙色7.5YR-6/4 内面：にぶい黄橙色10YR-6/4	良好	15% (口縁の20%)	
5	坏	口径(13.8) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4 口縁部：灰褐色5YR-5/2	良好	20% (口縁の15%)	
6	坏	口径(13.6) 残存高2.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや丸みを帯び外傾して立ち上がる。 底部は平底ぎみと思われる。	黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	橙色5YR-6/6、にぶい橙色7.5YR-6/4	やや不良	10% (口縁の20%)	
7	坏	口径(11.6) 残存高2.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部・底部はヘラケズリによる整形と思われるが、摩滅のため不明。 底部内面はナデ。 口縁部はやや丸みを帯び直立して立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、雲母、石英含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4	良好	口縁の10%	
8	坏	口径(15.1) 残存高3.4	口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部は外傾して立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面：明赤褐色2.5YR-5/6、褐灰色7.5YR-4/1 内面：褐灰色7.5YR-4/1、にぶい褐色7.5YR-5/3	普通	口縁の10%	



第８図　第１号住居跡出土遺物（１）



第９図　第１号住居跡出土遺物（２）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
9	坏	口径(12.7) 残存高3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ヘラケズリ。 口縁部は外傾して立ち上がる。底部にかけて丸みをもつ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面:にぶい褐色7.5YR-5/4、にぶい橙色7.5YR-6/4 内面:にぶい褐色7.5YR-5/4	良好	口縁の10%	
10	坏	口径(14.6) 残存高3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部にかけての外面ヘラケズリ、内面ナデ。内面に放射状の暗文が施される。 口縁部はやや外反して立ち上がる。体部は外側にくの字に張り出し底部へと移行する。	白色粒子、黒粒子、雲母含む。	外面:にぶい橙色5YR-6/4 内面:明赤褐色2.5YR-5/6	良好	20% (口縁の30%)	
11	坏	口径(11.8) 器高3.4 底径(8.1)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口唇部端が丸みをもち、口縁部端が直立する。底部は平底。	白色粒子、黒粒子、雲母含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4 口縁端部:黒色N-2/	良好	80%	口縁部端にタール付着
12	坏	口径(12.8) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面上半はナデ。 口縁部は大きく外反する。底部は丸底ぎみと思われる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面:褐灰色7.5YR-5/1、にぶい褐灰色7.5YR-5/3 内面:にぶい褐色7.5YR-5/3	普通	口縁の20%	
13	坏	口径(14.3) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。 口縁部は外反する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母少量、石英含む。	外面:明赤褐色5YR-5/6 内面:にぶい赤褐色5YR-5/4	良好	20%	
14	蓋	口径(13.6) 残存高3.1	口縁部内外面回転ナデ。甲部外面左回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 口縁部は甲部からやや開きぎみに直立して開く。体部は内湾ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、長石、白色針状物質含む。	外面:灰色N-5/・N-4/ 内面:灰色10Y-6/1・10Y-4/1	良好 (堅緻)	20%	南比企産
15	蓋	—	内外面回転ナデ。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母若干含む。	外面:灰色N-6/・N-5/、黄褐色2.5Y-5/3 内面:灰色N-6/	良好	40% (甲部破片)	

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
16	蓋	口径(18.3) 残存高1.7	内外面回転ナデ。中部外面回転ヘラケズリ。 口縁部はくの字に屈曲し、やや開く。	白色粒子、黒色粒子、長石含む。	外面:灰色N-5/ 内面:オリーブ灰色2.5GY-6/1	良好	口縁の10%	
17	蓋	口径(17.5) 残存高1.7	内外面回転ナデ。 口縁部はくの字に屈曲し、やや開く。	白色粒子、白色針状物質わずか含む。	外面:灰色N-6/・N-4/ 内面:にぶい黄色2.5Y-6/4、黄灰色2.5Y-5/1	良好	口縁の10%	南比企産
18	坏	口径11.8 器高3.6 底径5.7	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。 口縁部はやや外反する。底部はやや内湾する。	白色粒子、赤褐色粒子、白色針状物質わずか、雲母含む。	外面:灰色N-6/、明オリーブ色5GY-7/1 内面:明オリーブ灰色5GY-7/1、灰色N-6/、灰白色N-7/	良好	40%	南比企産
19	坏	口径12.0 器高3.9 底径6.3	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。 口縁端部はやや外反するもののほぼ直立する。 体部もほぼ直線を描く。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、長石、雲母少量含む。全体に胎土粗い。	外面:黒褐色10YR-3/1、にぶい赤褐色5YR-4/3、灰褐色5YR-5/2、灰黄色2.5Y-6/2 内面:にぶい赤褐色5YR-5/3、灰褐色7.5YR-6/2、褐灰色10YR-6/1・10YR-4/1	やや不良	95%	末野産 口縁部にかさね焼き痕残る。
20	高台坏	残存高1.3 底径(7.8)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り？(摩滅が著しく調整は不明)。高台ナデツケ。 高台は断面三角形を呈しハの字に開く。	白色粒子、長石、雲母少量、角礫(φ3mm大)含む。	にぶい黄橙色10YR-6/4	不良	底部の40%(底部破片)	
21	蓋	残存高7.2 底径(12.4)	内外面回転ナデ。	白色粒子、長石、雲母少量、白色針状物質わずかに含む。	灰色N-7/ 底部:灰白色5Y-7/1	良好(堅緻)	20%	南比企産
22	甕	口径(21.5) 頸部径(16.4) 残存高7.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面横方向のヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はややくの字状に大きく開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、雲母含む。	外面:明赤褐色5YR-5/6、灰褐色5YR-5/2、にぶい黄褐色10YR-5/3 内面:にぶい黄色2.5Y-6/4、にぶい赤褐色5YR-5/4、黄灰色2.5Y-4/1	良好	口縁の30%	
23	甕	口径(21.7) 頸部径(17.5) 残存高6.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面横方向のヘラケズリ。 口縁部はくの字状を呈する。	白色粒子、雲母含む。	外面:にぶい黄褐色10YR-5/3、にぶい赤褐色5YR-5/4 内面:明赤褐色5YR-5/6、灰褐色7.5YR-5/2	やや不良	口縁の15%	
24	甕	口径(20.2) 残存高4.1	口縁部は内外面ヨコナデ。 口縁部はコの字状を呈する。	白色粒子、赤褐色粒子多量、雲母含む。	橙色5YR-6/6、褐灰色5YR-4/1・7.5YR-6/1	普通	口縁の10%	
25	甕	残存高3.0 底径6.2	胴部・底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母少量、石英含む。	外面:にぶい赤褐色2.5YR-4/4、暗赤灰色2.5YR-3/1、赤灰色2.5YR-4/1 内面:にぶい橙色5YR-6/4	やや不良	底部の25%破片	

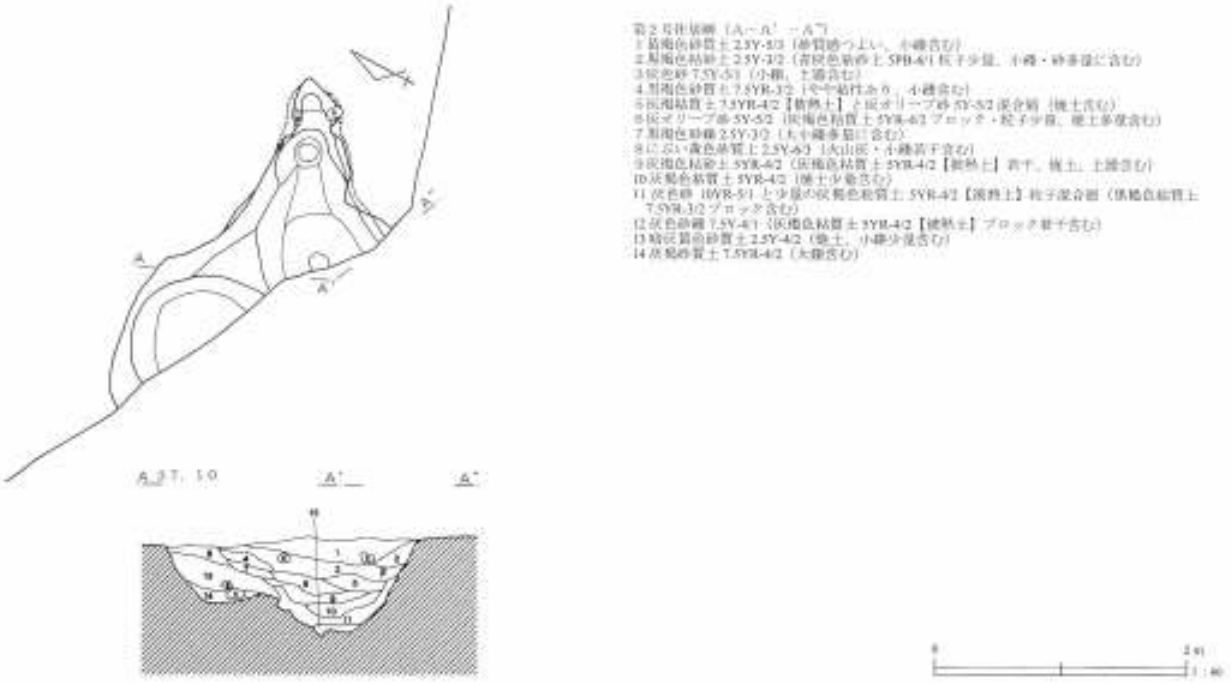
番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
26	甕	残存高3.6 底径5.6	胴部・底部外面ヘラケズリ,内面木口状工具によるナデ。	白色粒子,黒色粒子,赤褐色粒子,長石,雲母含む。	外面:にぶい橙色5YR-6/4,褐灰色5YR-4/1 内面:にぶい黄橙色10YR-7/3,灰黄褐色10YR-6/2,褐灰色10YR-5/1	良好	底部破片	
27	甕	口径21.7 頸部径17.8 胴部最大径 21.6 残存高25.6	口縁部内外面ヨコナデ,胴上半部外面は横及び斜め方向のヘラケズリ,以下斜め縦方向のヘラケズリ,内面は縦方向のナデ,粘土紐継ぎ目痕残る。 口縁部はくの字状を呈し外方へ開く,胴部は上半部から中央部にかけて最大径をもち,なだらかな曲線を描く。	白色粒子,黒色粒子,赤褐色粒子,雲母含む。	外面:橙色7.5YR-6/6,明赤褐色5YR-5/8,赤褐色2.5YR-4/6 内面:赤褐色2.5YR-4/6,暗赤褐色5YR-3/3	普通	60%	少量のススが付着。
28	甕	口径(19.6) 頸部径(18.4) 胴部最大径 22.0 器高(31.2)	口縁部内外面ヨコナデ,胴上半部横方向,中央部以下縦方向のヘラケズリ,内面木口状工具によるナデ。 口縁部はコの字を呈し,胴上半部に最大径をもつやや肩のはった形状。	白色粒子,黒色粒子,赤褐色粒子,長石,黒雲母含む。	外面:明赤褐色2.5YR-5/8,赤褐色2.5YR-4/8,黒褐色5YR-2/1 内面:明赤褐色2.5YR-5/8	良好	口縁部の50%及び胴部破片	

第２号住居跡（第10～12図、第３表）

Ｅ－２グリッドから検出した。住居跡の西および南部分は、調査区域外のため、検出できなかった。

調査できた部分はカマドおよび住居跡の左肩部分のみであるので、平面プランは不明である。残存する規模は、長軸2.60m、短軸2.28m、深さ0.76mであった。主軸方向はＮ－62°－Ｅである。壁溝や柱穴は検出されなかった。

住居跡の覆土は、第１号住居跡と同様に多量の礫や砂利混じりの砂質土や粘質土で、床面も砂利層中に作られている。



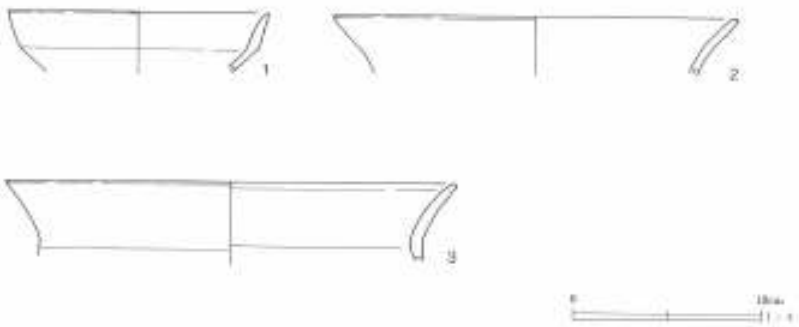
第10図　第２号住居跡

カマドは、住居跡東側の壁で検出された。袖は多量の小礫を含む覆土と地山の判別が困難であったため、明確に検出することができなかった。カマドは煙道が残っており、住居跡の壁面より東方向へ1.0mと短く、比較的深いものであった。煙出部分の住居寄りの両壁には川原石が1つずつ置かれていた。

遺物は、完形のものはなく、出土量も少なかった。土器はほとんどが土師器の甕であり、坏はわずかにしか出土せず、ほとんどが図示可能な遺物ではなかった。

時期は、おおよそ8世紀の後半代と考えられる。

第11図　第2号住居跡カマド



第12図　第２号住居跡出土遺物

第３表　第２号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(13.8) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ？内面ヨコナデ。 口縁部は外方へ直立して開く。	白色粒子，黒色粒子，雲母，石英含む。	外面：にぶい赤褐色5YR-5/4 内面：にぶい褐色7.5YR-5/4	良好	口縁の10%以下	
2	甕	口径(21.4) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部は大きく外反して開く。	白色粒子，黒色粒子，赤褐色粒子，黒雲母含む。	外面：にぶい橙色7.5YR-6/4 内面：明赤褐色5YR-5/6	普通	口縁の10%	
3	甕	口径(23.9) 残存高4.1	口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部はくの字に開く。口縁端部内面に受け状のくぼみがある。	白色粒子，赤褐色粒子，石英，黒雲母少量含む。	外面：明赤褐色5YR-5/6 内面：橙色7.5YR-6/6	良好	口縁の10%以下	

第３号住居跡（第13～17図、第４表）

Ｂ－３・４、Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は第１号住居跡と重複しており、第１号住居跡を壊していた。住居跡のおおよそ北半分は、調査区域外のため、検出できなかった。また、検出時に住居跡のプランがなかなかつかめず困難を極めた。

調査できた部分より、平面プランは方形で、規模は長軸4.50m、残存短軸2.26m、深さ0.78mであった。主軸方向はＮ－56°－Ｅである。壁溝や柱穴は検出されなかった。貯蔵穴と思われる落ち込みがカマド右脇に確認された。

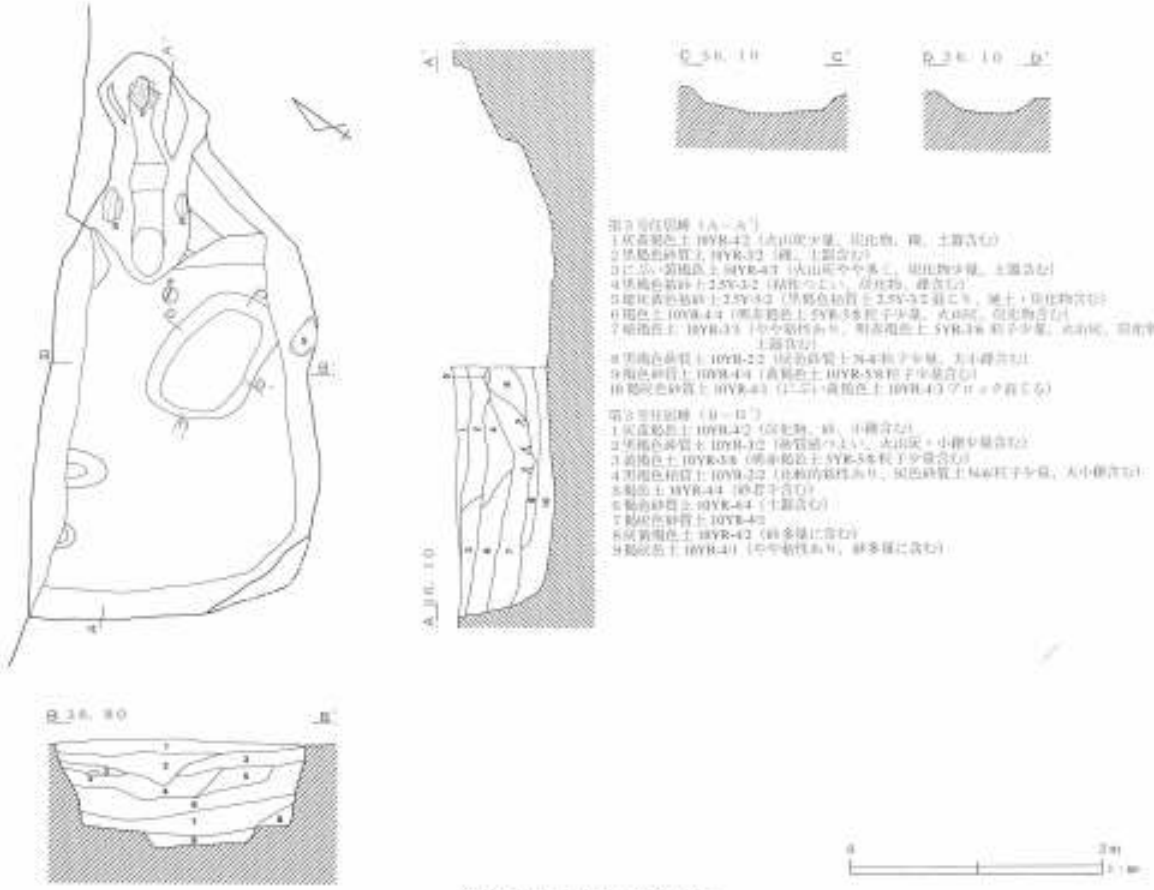
住居跡の覆土は、他の２住居と同様で多量の小礫を含む砂質土で、床面も砂利層中に作られている。

カマドは、住居跡東側の壁の南より角近くで検出された。袖は覆土と地山の判別が困難であったため、明確に検出することは出来なかったが、左右とも地山を掘り残して作られていたことがわずかに見てとれた。カマドは煙道が残っており、住居跡の壁面より東方向へ1.3m作り出されていた。煙出部分では、須恵器の甕破片が折り重なるように落ち込んで検出された。

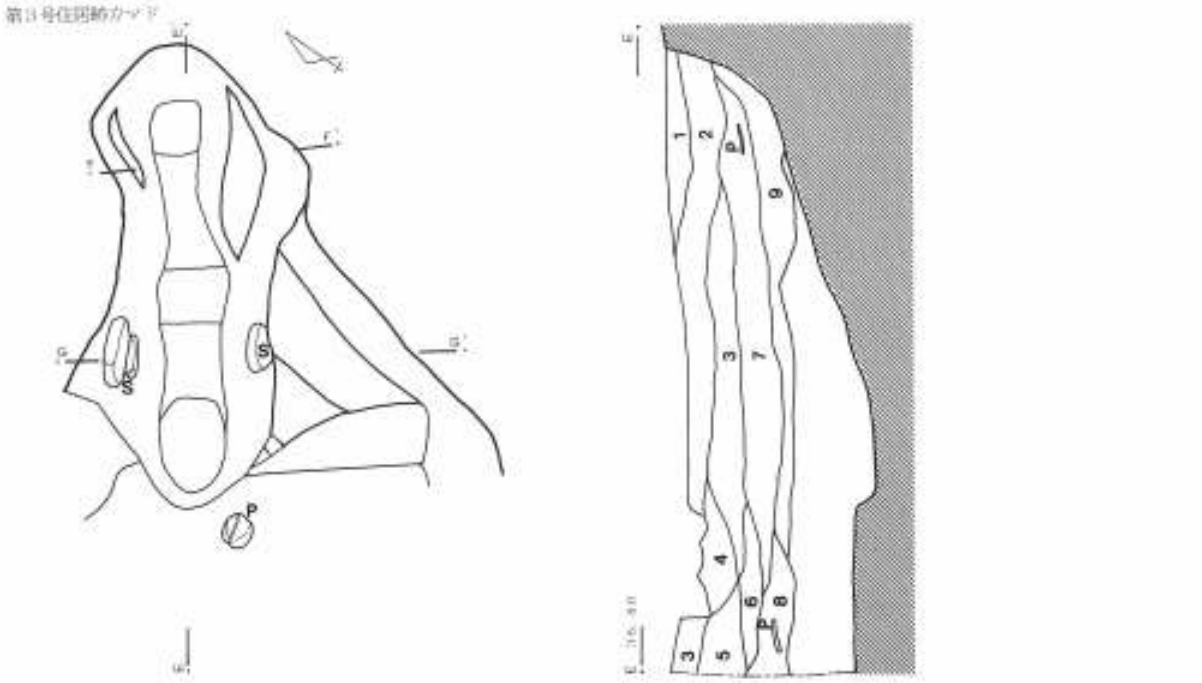
また、カマドの焚き口付近の両壁にわずかであったが、川原石が２段積まれていたのが確認できた。

遺物は、ほぼ完形の土師器坏がカマド焚き口前で出土した以外は、完形のものはなかった。土器は土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・甕などが出土した。また、砥石、鉄製刀子が出土した。

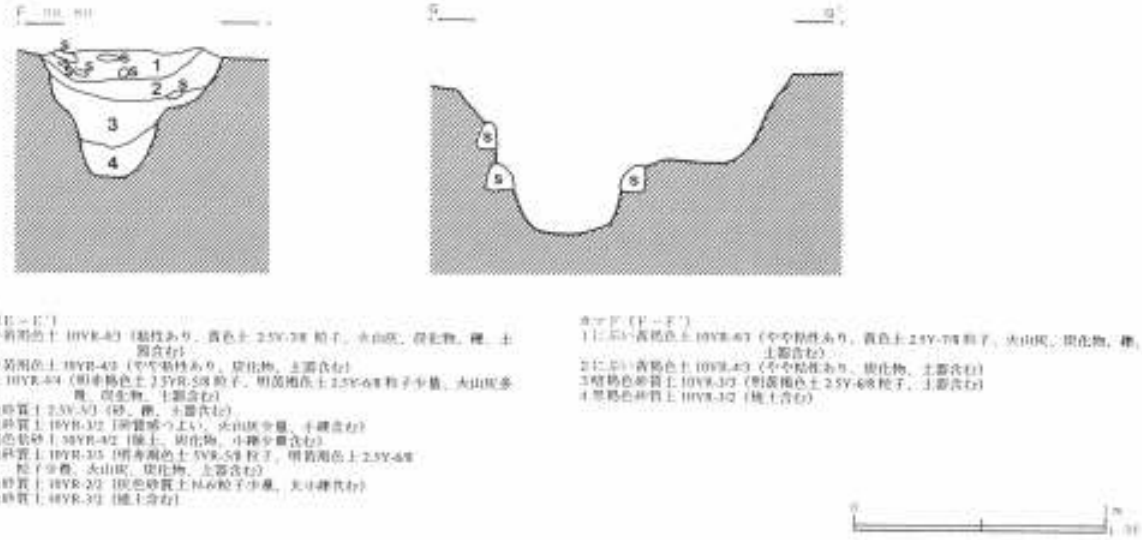
時期は、おおよそ９世紀の後半代と考えられる。



第13図　第３号住居跡



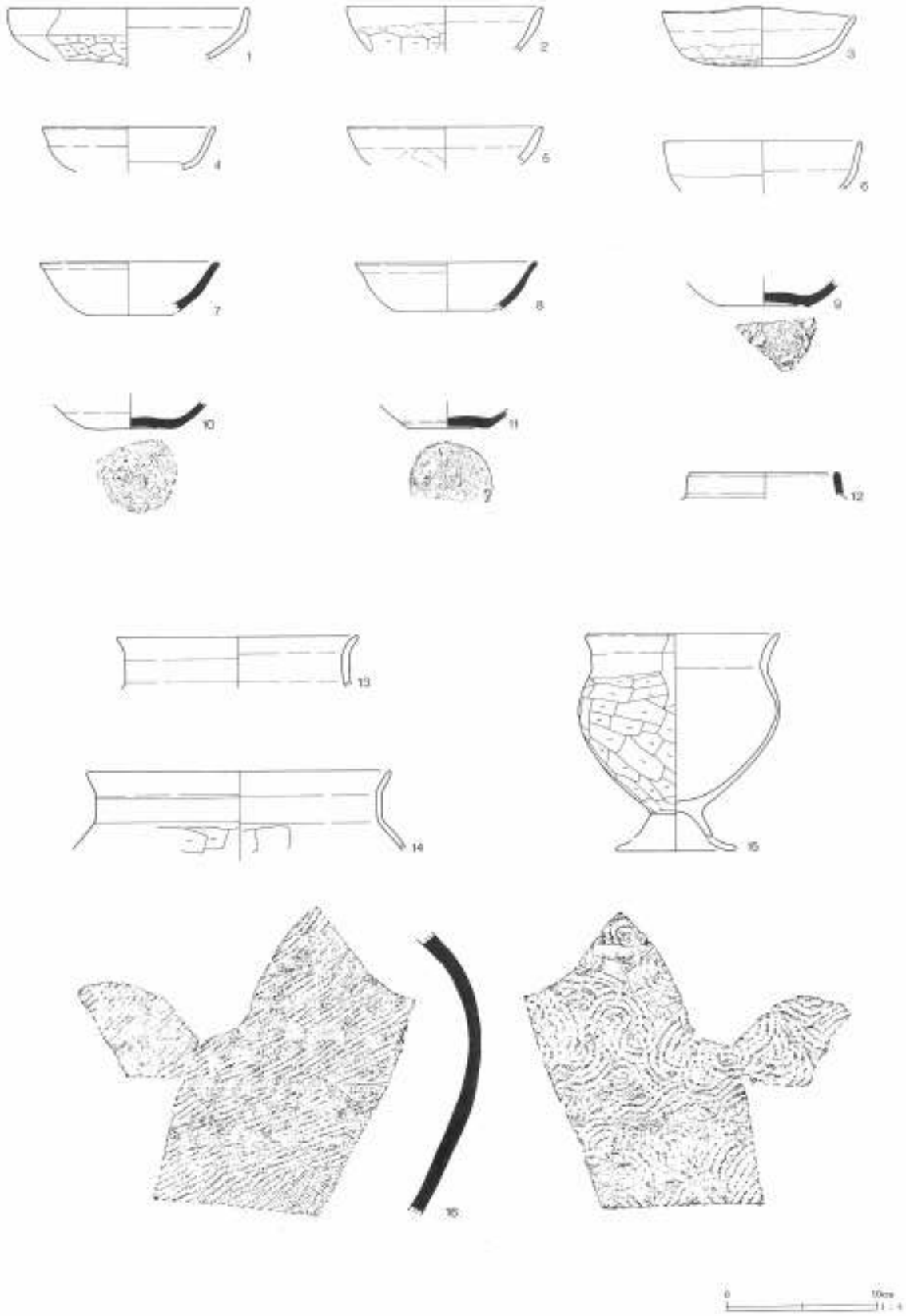
第14図　第３号住居跡カマド（１）



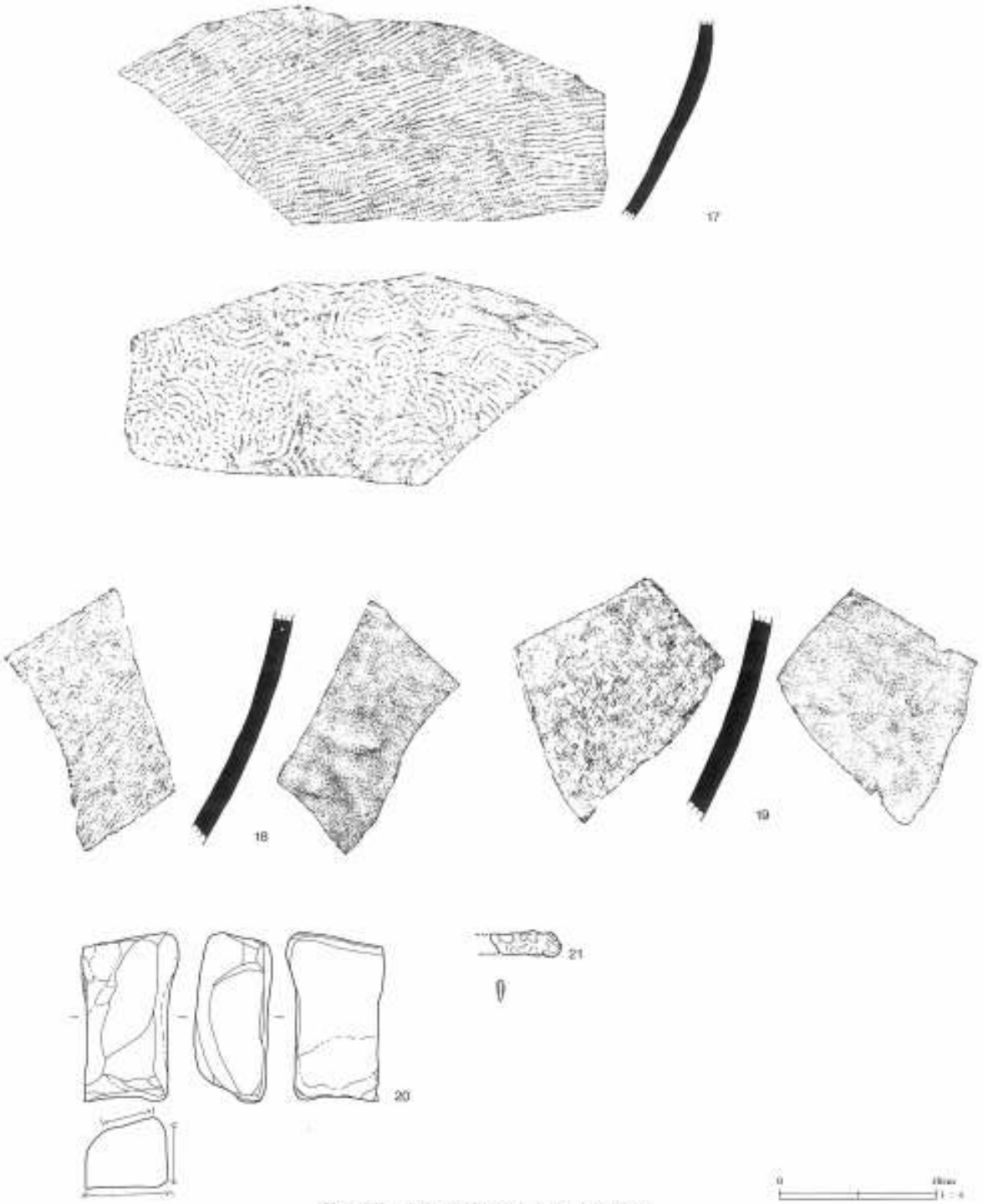
第15図　第３号住居跡カマド（２）

第４表　第３号住居跡出土遺物観察表（第16・17図）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(15.7) 残存高3.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はほぼ直立し、くの字に屈曲して体部へと移行する。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面：にぶい橙色7.5YR-6/4 内面：明赤褐色5YR-5/4 口縁部：灰褐色7.5YR-5/2	普通	20%	
2	坏	口径(12.8) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半は指頭圧痕残り、下半はヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はやや開いて直立する。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母少量含む。	明赤褐色5YR-5/6、にぶい褐色7.5YR-6/3、灰褐色7.5YR-5/2	良好	口縁の10%	
3	坏	口径12.7 器高3.9 底部7.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面は指頭圧痕が残る。底部外面ヘラケズリ、底部内面ヨコナデ。 口縁部はハの字に開く。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、雲母（φ5㎜大）、雲母含む。	外面：橙色5YR-6/6、にぶい赤褐色5YR-5/4 にぶい黄橙色10YR-7/2 内面：明赤褐色5YR-5/6、橙色7.5YR-7/6	やや不良	95%	歪み大きい。
4	坏	口径(11.2) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指ナデ？内面ヨコナデ。 口縁部はやや外反して立つ。底部は平底と思われる。	白色粒子、黒雲母含む。	外面：にぶい黄橙色10YR-6/4 内面：にぶい赤褐色5YR-5/4、にぶい黄橙色10YR-6/4	普通	口縁の10%	
5	坏	口径(12.8) 残存高2.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ（摩滅著しく不明）、内面はヨコナデ。 口縁部はやや外方へ開いて立つ。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母少量含む。	外面：にぶい赤褐色5YR-5/2、黄褐色10YR-5/6 内面：黄褐色10YR-5/6	やや不良	口縁の10%	
6	坏	口径(13.0) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ？体部外面ヘラケズリ？（摩滅著しく不明）、内面ヨコナデ。 口縁部はやや外方に開いて直立する。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母わずか含む。	橙色5YR-6/8・5YR-6/6	不良	口縁の10%	



第16図　第３号住居跡出土遺物（１）



第17図　第３号住居跡出土遺物（２）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
7	坏	口径(11.5) 残存高3.3	内外面回転ナデ。 口縁部は端部が若干外反する。体部はやや内湾ぎみ。	白色粒子、赤褐色粒子、白色針状物質、長石含む。	外面:灰色N-6/-N-4/、灰褐色5YR-5/2 内面:灰褐色5YR-5/2、灰色N-6/	良好(窯焼)	25%	南比企産
8	坏	口径(11.8) 残存高3.1	内外面回転ナデ。 口縁部は若干外反する。底部はやや内湾ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	灰色N-6/	良好	口縁の10%以下	南比企産
9	坏	残存高1.7 底径(6.0)	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。 体部は内湾する。底部はあげ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	外面:灰色N-6/ 内面:灰色N-4/	良好	20% 底部破片	南比企産
10	坏	残存高1.6 底径5.3	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。 体部は内湾する。底部は若干あげ底ぎみ。	白色粒子、白色針状物質若干、長石含む。	灰色N-6/	良好	底部破片	南比企産
11	坏	残存高5.3 底径1.1	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。 底部はややあげ底ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、白色針状物質わずか含む。	外面:黄灰色2.5YR-6/1、灰色5Y-6/1 内面:黄灰色2.5Y-6/1、灰黄色2.5Y-7/2、灰色5Y-5/1	良好	底部60%破片	南比企産
12	短頸壺	口径(9.8) 頸部径10.3 残存高1.8	内外面回転ナデ。 口縁部はハの字にやや内傾して立つ。	白色粒子含む。	灰色N-5/	良好	口縁の10%	
13	甕	口径(15.9) 残存高3.4	口縁部内外面ヨコナデ。 口縁部はゆるやかなコの字状を呈する。	白色粒子、赤褐色粒子少量含む。	外面:褐色7.5YR-4/3 内面:にぶい橙色7.5YR-6/4、褐色7.5YR-4/3	良好	口縁の15%	
14	甕	口径(20.1) 頸部径(19.2) 残存高5.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面横方向のヘラケズリ。内面はヘラ状工具によるナデ。 口縁部はコの字状を呈する。	赤褐色粒子、長石、雲母含む。	外面:灰黄褐色10YR-4/2、灰褐色7.5YR-6/2、にぶい黄褐色10YR-5/3 内面:にぶい黄褐色10YR-6/3	良好	口縁の10%	
15	台付甕	口径12.6 頸部径11.1 胴部最大径13.3 残存高13.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。上半部は横方向のヘラケズリ、中央部以下は斜め方向のヘラケズリ。底部から脚台部にかけてヨコナデ。内面ナデ。 口縁部はややくの字に近いコの字状。胴上半部に最大径をもつ球体に近い形。	白色粒子多量、黒色粒子、雲母含む。	外面:にぶい赤褐色5YR-4/4、明赤褐色5YR-3/4、赤褐色2.5YR-4/6 内面:にぶい赤褐色5YR-4/4	良好	70%	胴上半部～中央部にススが付着。
16	甕	厚さ0.7～1.0	外面は上半の大部分が平行叩き目。下半が長格子叩き目。かき目状に沈線が数条まわる。内面は青海波文。	白色粒子、黒色粒子、細礫少量(φ2～3mm大)含む。	外面:灰色N-4/ 内面:青灰色5PB-6/1	良好	胴部破片	
17	甕	厚さ0.8～0.9	外面は上半が斜格子叩き目。下半が長格子叩き目。内面は青海波文。	白色粒子、黒色粒子、細礫少量(φ2～3mm大)含む。	外面:灰色N-4/ 内面:青灰色5PB-6/1	良好	胴部破片	
18	甕	厚さ1.1～1.2	外面は平行叩き目。内面はナデ。	白色粒子含む。	外面:暗青灰色5PB-4/1 内面:青灰色5PB-5/1	良好	胴部破片	19と同一個体。
19	甕	厚さ1.3	外面は平行叩き目。内面はナデ。	白色粒子、長石含む。	外面:暗青色5PB-4/1 内面:青灰色5PB-5/1	良好	胴部破片	18と同一個体。

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
20	砥石	長さ10.7 幅5.0 厚さ3.5 重さ530g	3面が研ぎ面として使用されている。 石質は砂岩系岩石。					
21	刀子	最大厚1.3 残存長4.5	刀子の一部と思われる。刃部は若干丸みを帯びている。					

2 土坑

土坑は、総数にして24基検出した。土坑は調査区のほぼ中央部に、ほとんどまとまって重複して検出された。第１号土坑・第18号土坑は単独で、第24号土坑は他遺構と重複して、第２～14号土坑・第15～17号土坑・第19～22号土坑は、互いに重複して検出された。平面プランは、方形ないし楕円形を呈するものが多く、深さは、遺構確認面から概ね0.10～0.50mに収まり、0.20mないし0.30m前後が主体をなす。出土遺物は、第24号土坑が圧倒的に多く、他の土坑は少ない。時期は、概ね平安時代（９世紀代）に該当する。

以下各土坑ごとに詳細を記載する。

第１号土坑（第18・21図、第５表）

Ｄ－３グリッドから検出した。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は長軸2.60m、短軸1.17m、深さ0.10mであった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器甕破片が出土した。

時期は、９世紀後半と考えられる。

第２号土坑（第19図）

Ｃ－２グリッドから検出した。遺構は、第８・９号土坑に壊されていた。

平面プランは長方形と推定され、規模は長軸2.00m、短軸は残存長0.56m、深さ0.18mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第３号土坑（第19図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第９・10・12号土坑および第３号ピットに壊されていた。

平面プランは長方形と推定され、規模は長軸は不明、短軸0.92m、深さ0.18mであった。

出土遺物は、土師器坏・甕破片などの細片が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第４号土坑（第19・21図、第５表）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第12号土坑を壊していたと推測される。

平面プランは長方形で、規模は長軸1.34m、短軸0.64m、深さ0.16mであった。土坑内北端にピット状の落ち込みがあった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏破片、鉄製刀子などが出土した。

時期は、10世紀後半と考えられる。

第５号土坑（第19・21図、第５表）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第１号住居跡を壊し、第６号土坑に壊されていた。

平面プランは、隅丸の長方形で、規模は長軸1.10m、短軸0.48m、深さ0.22mであった。

出土遺物は、土師器坏・甕破片が出土した。

時期は、８世紀の中頃と考えられる。

第６号土坑（第19・21図、第５表）

Ｃ－２・３グリッドから検出した。遺構は、第５・14号土坑、第４号ピットを壊していた。

平面プランは長方形で、規模は長軸1.62m、短軸0.70m、深さは最深で0.54mであった。土坑の中央部に平面が楕円形の掘り込みがあった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏破片が出土した。

時期は、９世紀後半から末と考えられる。

第７号土坑（第19図）

Ｃ－２グリッドから検出した。遺構は、第14号土坑を壊し、第８号土坑に壊されていた。

平面プランは長方形と推測され、規模は長軸は不明、短軸0.42m、深さ0.10mであった。

出土遺物は、検出されなかった。

第８号土坑（第19図）

Ｃ－２グリッドから検出した。遺構は、第２・７号土坑を壊していた。

平面プランは正方形に近い長方形で、規模は長軸0.88m、短軸0.70m、深さ0.18mであった。床面は２段であった。

出土遺物は、土師器甕の細片が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第９号土坑（第19図）

Ｃ－２・３グリッドから検出した。遺構は、第２・10号土坑を壊していた。

平面プランは長方形で、規模は残存長で長軸0.88m、短軸0.48m、深さ0.19mであった。

出土遺物は、土師器坏・甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀後半から末と考えられる。

第10号土坑（第19・21図、第５表）

Ｃ－２・３グリッドから検出した。遺構は、第３号土坑を壊し、第９号土坑・第３号ピットに壊されていた。

平面プランは隅丸の三角形で、規模は長軸0.78mと推定され、短軸は残存長0.45m、深さ0.20mであった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏・甕破片が出土した。

時期は、９世紀後半と考えられる。

第11号土坑（第19図）

Ｃ－２・３グリッドから検出した。遺構は、第13・14号土坑に壊されていた。

平面プランはほぼ正方形で、規模は長軸0.75m、短軸は残存長0.65m、深さ0.23mであった。

出土遺物は、土師器甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀代と考えられる。

第12号土坑（第19図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第４・13号土坑に壊されていた。

平面プランは長方形と推定され、規模は一方軸0.97m、深さ0.16mであった。

出土遺物は、土師器坏破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀後半と考えられる。

第13号土坑（第19図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第11・12号土坑を壊していた。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は長軸が残存長で1.10m、短軸0.88m、深さ0.30mであった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀末から10世紀初頭と考えられる。

第14号土坑（第19図）

Ｃ－２・３グリッドから検出した。遺構は、第11号土坑を壊し、第７号土坑に壊されていた。

平面プランは長方形と推定され、規模は一方軸0.50mと推定され、深さ0.09mであった。

出土遺物は、土師器甕の細片が出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第15号土坑（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第16号土坑を壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.82m、短軸は推定0.58m、深さ0.34mであった。

土坑の覆土には、上層に焼土・炭化物が土器とともに含まれていた。

出土遺物は、土師器坏・甕の細片が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第16号土坑（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第17号土坑を壊し、第15号土坑に壊されていた。

平面プランは楕円形で、規模は一方軸が0.88mと推定され、深さ0.36mであった。

土坑の覆土は、全体に焼土・炭化物を含み、上層には炭化物塊がみられた。

出土遺物は、土師器甕の細片が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第17号土坑（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第16号土坑および第５号ピットに壊されていた。

平面プランは円形と推定され、規模は一方軸が0.93mと推定される。深さは0.35mであった。

土坑の覆土には、上層に炭化物が土器とともに含まれていた。

出土遺物は、土師器坏の細片が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第18号土坑（第18図）

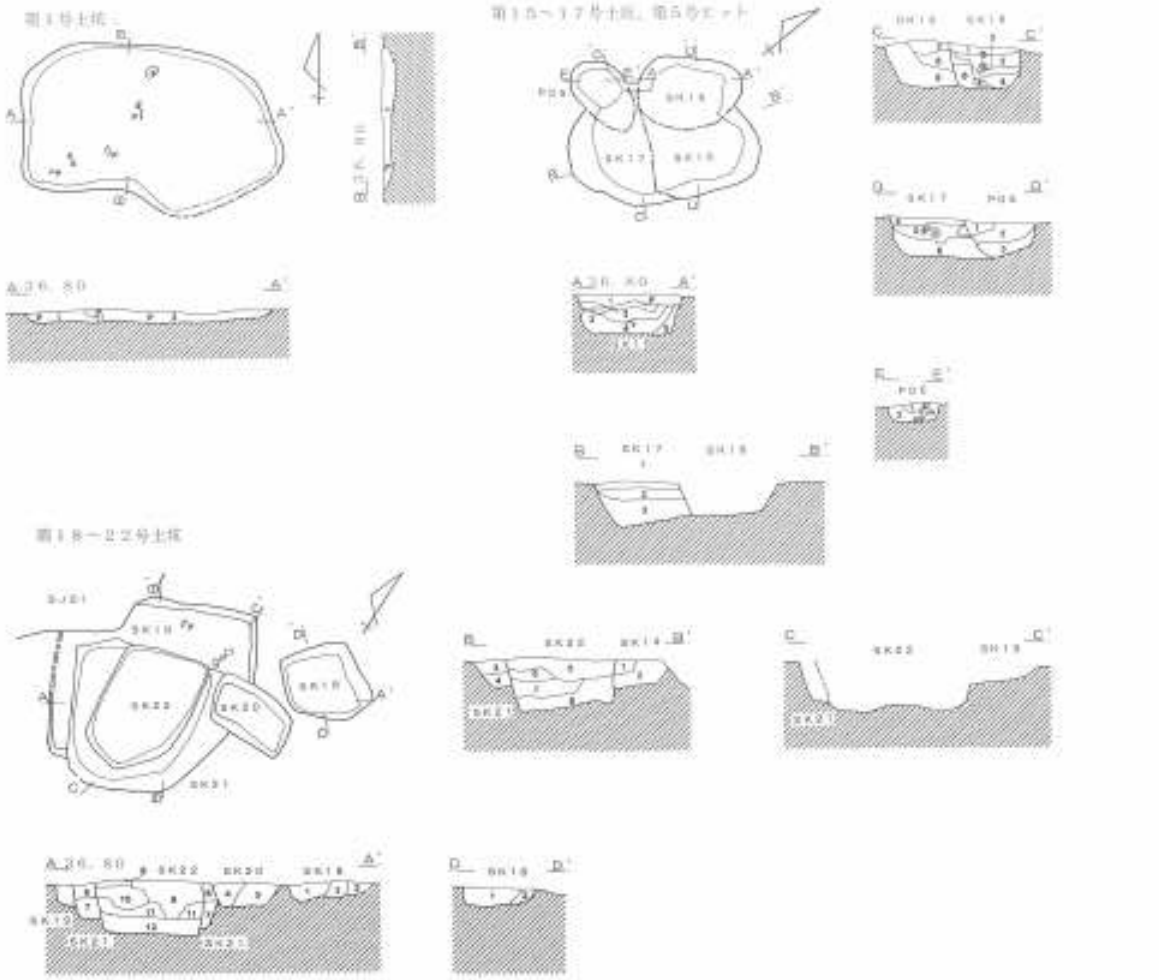
Ｃ－４グリッドから検出した。

平面プランはほぼ正方形で、規模は長軸0.64m、短軸0.61m、深さ0.16mであった。

土坑の覆土には、焼土を含んだ明赤褐色土ブロックが含まれていた。

出土遺物は、須恵器坏、土師器甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀後半と考えられる。



第１号土坑（Ａ－Ａ'）
１にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄色土 2.5Y-8/6 粒子、火山灰、土器含む）
２にぶい黄褐色土 10YR-5/4（ややしまる、火山灰、炭化物含む）
３にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄色土 2.5Y-7/8 粒子、火山灰、炭化物、土器含む）
第１号土坑（Ｂ－Ｂ'）
１にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄色土 2.5Y-8/6 粒子、火山灰、土器含む）

第１５・１６・１７号土坑、第５号ピット
（Ａ－Ａ'）
１褐色土 10YR-4/4（粘土、炭化物少量、土器含む）
２にぶい黄褐色土 10YR-4/3（明赤褐色土 5YR-5/8 ブロック、炭化物多量、火山灰少量含む）
３黄褐色土 10YR-3/2（やや粘性あり、明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック・明赤褐色土 5YR-5/8 粒子多量、火山灰、炭化物若干含む）
４黄褐色土 10YR-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/6 ブロック・明赤褐色土 5YR-5/8 粒子少量、炭化物含む）
５灰褐色土 10YR-4/2（砂質）

（Ｂ－Ｂ'）
１黒褐色土 10YR-3/2（炭化物少量、砂粒子、土器含む）
２褐色土 10YR-4/4（やや粘性あり、暗褐色土 10YR-3/3・灰褐色土 10YR-3/3 ブロック、火山灰少量含む）
３褐灰色土 10YR-4/1（砂質、暗褐色土 10YR-3/3 ブロック少量、炭化物少量含む）

（Ｃ－Ｃ'）
１褐色土 10YR-4/4（粘土、炭化物少量、土器含む）
２灰黄褐色砂質土 10YR-4/3（明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック、明赤褐色土 5YR-5/8・暗褐色土 7.5YR-5/8 粒子少量、火山灰多量、炭化物多量、土器含む）
３黒褐色土 10YR-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/6 ブロック・明赤褐色土 5YR-5/8 粒子少量、炭化物含む）
４にぶい黄褐色土 10YR-5/4（橙色土 10YR-6/8 粒子少量含む）
５褐色土 10YR-4/4（明赤褐色土 5YR-5/8 少量、火山灰、炭化物含む）
６灰黄褐色土 10YR-4/2（砂質、明黄褐色土 10YR-6/8 粒子少量、炭化物含む）
７褐色土 10YR-4/4（明赤褐色土 5YR-5/8 少量、火山灰多量、炭化物含む）
８にぶい黄褐色土 10YR-4/3（やや粘性あり、黄褐色土 10YR-5/6 ブロック・明赤褐色土 5YR-5/8 粒子多量に含む）
９褐色土 10YR-4/4（明褐色土 7.5YR-5/8 ブロック少量、火山灰、炭土、炭化物含む）

（Ｄ－Ｄ'）
１黒褐色土 10YR-3/1（砂質、暗色土 7.5YR-6/8 粒子若干、炭化物ブロック状に含む）
２灰黄褐色土 10YR-4/2（やや粘性あり、明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック、炭化物、礫多量に含む）
３褐灰色土 10YR-5/1（砂質、にぶい黄褐色土 10YR-4/3 ブロック少量、炭化物含む）
４黒褐色土 10YR-3/2（炭化物少量、砂質子、土器含む）
５褐色土 10YR-4/4（粘性あり、火山灰、炭化物少量、礫含む）
６暗褐色土 10YR-3/3（砂質）

（Ｅ－Ｅ'）
１にぶい黄褐色土 10YR-4/3（明黄褐色土 10YR-6/8 粒子少量、火山灰多量、炭化物少量含む）
２褐灰色土 10YR-4/2（砂質、小礫含む）

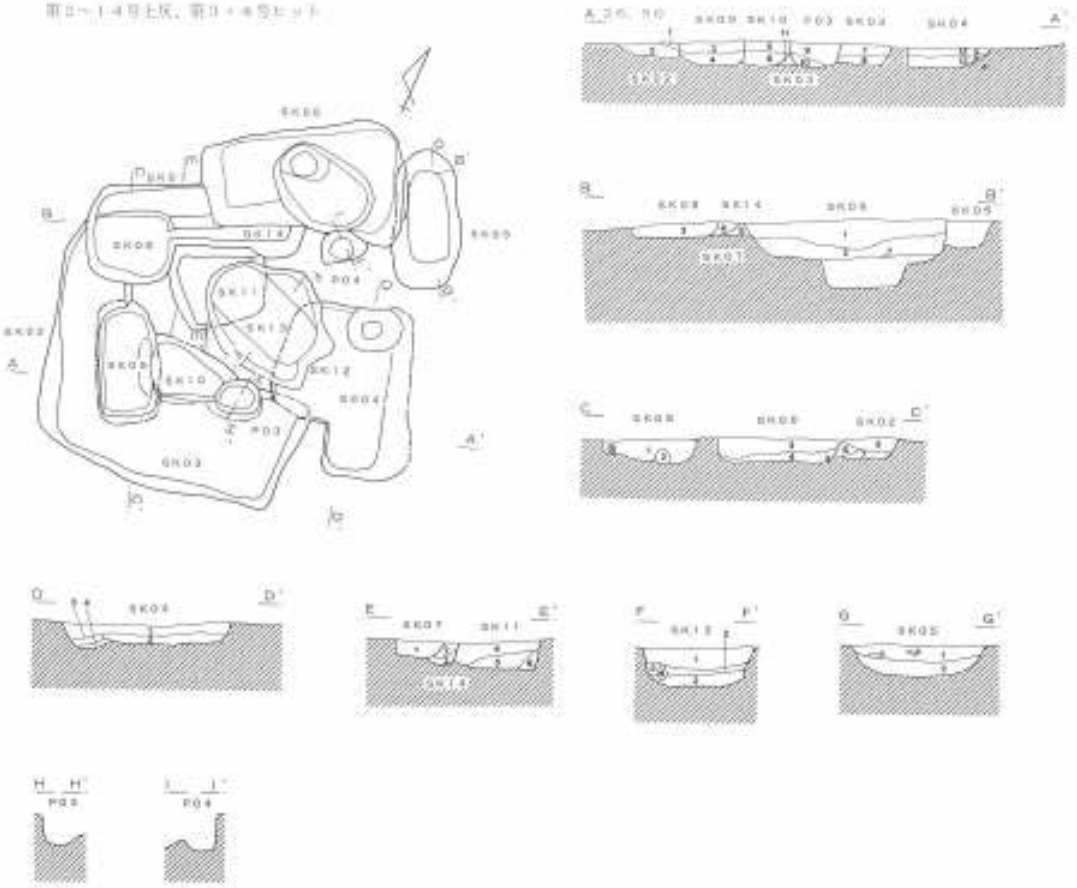
第１８・１９・２０・２１・２２号土坑
（Ａ－Ａ'）
１にぶい黄褐色土 10YR-4/3（明褐色土 7.5YR-5/8 ブロック・粒子少量、赤褐色土 10YR-5/6 粒子少量、明赤褐色土 5YR-6/8 ブロック・粒子、火山灰少量、小礫含む）
２にぶい黄褐色土 10YR-5/4（明褐色土 7.5YR-5/8 ブロック・粒子少量、明赤褐色土 5YR-6/8 ブロック、火山灰多量に含む）
３褐色土 10YR-4/4（ややしまる、火山灰多量、土器含む）
４褐色土 10YR-4/4
５黄褐色砂質土 10YR-5/6（明褐色土 7.5YR-5/8 粒子少量、火山灰少量、炭化物含む。）
６黄褐色土 10YR-5/6（ややしまる、火山灰・炭化物少量含む）
７暗褐色土 10YR-3/3（多質、炭化物少量含む）
８黄褐色土 10YR-5/6（火山灰多量、土器含む）
９褐色土 10YR-4/4（火山灰多量、炭化物含む）
10 褐色土 10YR-4/4（火山灰、炭化物含む）
11 にぶい黄褐砂質土 10YR-4/3（明褐色土 7.5YR-5/8 ブロック、炭化物含む）
12 灰褐色砂質土 10YR-4/2（黒褐色土 5YR-2/2・明赤褐色土 5YR-5/8 ブロック・粒子、炭化物含む）

（Ｂ－Ｂ'）
１褐色土 10YR-4/4（黄褐色土 10YR-5/8 少量、火山灰、炭化物含む）
２暗褐色土 10YR-3/4（ややしまる、明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック少量、炭化物含む）
３にぶい黄褐色土 10YR-4/3（ややしまる、橙色土 5YR-6/8 ブロック少量、火山灰、炭化物少量含む）
４灰黄褐色土 10YR-4/2（明褐色土 7.5YR-5/8 粒子少量、炭化物少量含む）
５褐色土 10YR-4/4（明赤褐色土 5YR-5/8 ブロック・粒子少量、火山灰多量、炭化物少量含む）
６暗褐色土 10YR-3/3（明赤褐色土 5Y-5/8 粒子少量、火山灰多量、炭化物極含む）
７褐色土 10YR-4/4（やや砂質、火山灰少量含む）
８灰褐色砂質土 10YR-4/2（黒褐色土 5YR-2/2・明赤褐色土 5YR-5/8 ブロック・粒子、暗褐色土 7.5YR-5/8 粒子、火山灰多量、炭化物含む）

（Ｄ－Ｄ'）
１暗褐色土 10YR-3/3（やや粘性あり、明赤褐色土 5Y-5/8 ブロック少量、火山灰少量、土器含む）
２にぶい黄褐色土 10YR-4/3（火山灰少量含む）

0　2m

第18図　第１・15～17・18～23号土坑、第５号ピット



第2～14号土坑、第3・4号ピット

（A－A'）

1 褐灰色砂質土 10YR-4/1（ややしまる、火山灰含む）
2 暗褐色砂質土 10YR-3/3（土器含む）
3 黒褐色砂質土 10YR-3/1（ややしまる、黄色土 2.5Y-7/8 粒子、火山灰、土器含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子含む）
5 褐灰色砂質土 10YR-4/1（ややしまる、火山灰含む）
6 暗褐色砂質土 10YR-3/3（土器含む）
7 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄色土 2.5Y-6/8 粒子、炭化物含む）
8 黒褐色土 10YR-3/2（砂質でしまりない、土器含む）
9 黒褐色土 10YR-3/2（火山灰含む）
10 暗褐色砂質土 10YR-3/3（土器含む）
11 褐灰色砂質土 10YR-4/1
12 にぶい黄褐色土 10YR-4/3
13 褐灰色砂質土 10YR-4/1（土器含む）

（B－B'）

1 黒褐色土 10YR-3/2（砂質、明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック、火山灰含む）
2 暗褐色砂質土 10YR-3/3
3 黒褐色土 10YR-3/1（黄色土 2.5Y-7/8 ブロック混入、火山灰含む）
4 暗褐色土 10YR-3/3（黄褐色土 10YR-5/8 粒子・明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子少量、火山灰多量に含む）
5 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（やや粘性あり、黄褐色土 10YR-6/8 粒子少量含む）

（C－C'）

1 黒褐色土 10YR-3/1（黄色土 2.5Y-7/8 ブロック混入、火山灰含む）
2 黒褐色砂質土 7.5YR-3/1
3 黒褐色砂質土 10YR-3/1（ややしまる、黄色土 2.5Y-7/8 粒子、火山灰、土器含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子含む）
5 黒褐色土 10YR-3/1（火山灰含む）
6 暗褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子含む）
7 暗褐色砂質土 10YR-3/3（ややしまる）

（D－D'）

1 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（砂質、火山灰、炭化物含む）
2 褐灰色砂質土 10YR-4/1（土器含む）
3 黒褐色土 10YR-3/1（砂質、黄褐色土 2.5Y-6/8 ブロック混入）
4 黒褐色土 10YR-3/1（砂質）

（E－E'）

1 暗褐色土 10YR-3/3（黄褐色土 10YR-5/8 粒子・明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子少量、火山灰多量に含む）
2 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（やや粘性あり、黄褐色土 10YR-6/8 粒子少量含む）
3 黒褐色砂質土 10YR-3/3（黄褐色土 2.5Y-5/6 ブロック・明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子少量含む）
4 黒褐色土 10YR-3/2（やや粘性あり、黄褐色土 2.5Y-5/6 ブロック含む）
5 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄褐色土 2.5Y-5/6 ブロック含む）
6 黒褐色砂質土 10YR-3/1（暗褐色土 10YR-3/4 ブロック含む）

（F－F'）

1 黒褐色土 10YR-3/1（ややしまる、明黄褐色土 10YR-6/8 ブロック少量、火山灰多量に含む）
2 黒褐色土 10YR-3/2（やや粘性あり、火山灰少量含む）
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（砂質、明黄褐色土 2.5Y-6/8 粒子少量、土器含む）
4 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（ブロック状、火山灰少量含む）

（G－G'）

1 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（砂質、黄色土 2.5Y-8/6 粒子、火山灰含む）
2 黒褐色土 10YR-3/2（砂質、明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子含む）

0　2m
1:100

第19図　第2～14号土坑、第3・4号ピット

第19号土坑（第18・21図、第５表）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第21・22号土坑に壊されていた。また、第１号住居跡および第20号土坑と重複していたが、新旧関係は明らかにできなかった。

平面プランは長方形と推定され、規模は長軸1.62m、短軸は1.30mと推定される。深さは0.20mであった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏・甕破片が出土した。

時期は、８世紀中頃と考えられる。

第20号土坑（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第21号土坑を壊していた。また、第19号土坑と重複していたが、新旧関係は明らかにできなかった。

平面プランは長方形で、規模は長軸0.66m、短軸0.43m、深さ0.18mであった。

出土遺物は、土師器甕の細片がわずかに出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第21号土坑（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第19号土坑を壊し、第20・22号土坑に壊されていた。

平面プランはやや歪んだ正方形で、規模は長軸1.26m、短軸1.20m、深さ0.36mであった。

出土遺物は、須恵器蓋、土師器坏・甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀代と考えられる。

第22号土坑（第18・21図、第５表）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第19・21号土坑を壊していた。

平面プランは砲弾状の長方形で、規模は長軸1.10m、短軸0.70m、深さ0.43mであった。

土坑の覆土には、焼土を含んだ明赤褐色土ブロックと炭化物塊が含まれていた。

出土遺物は、土師器甕等の破片が出土した。

時期は、９世紀後半から末と考えられる。

第23号土坑（第20図）

Ｄ－４グリッドから検出した。遺構は、一部攪乱を受けており不明であった。

平面プランは残存箇所から方形状と推定され、規模は残存長で長軸0.64m、短軸0.28m、深さ0.11であった。

出土遺物は、検出できなかった。

第24号土坑（第20・22図、第６表）

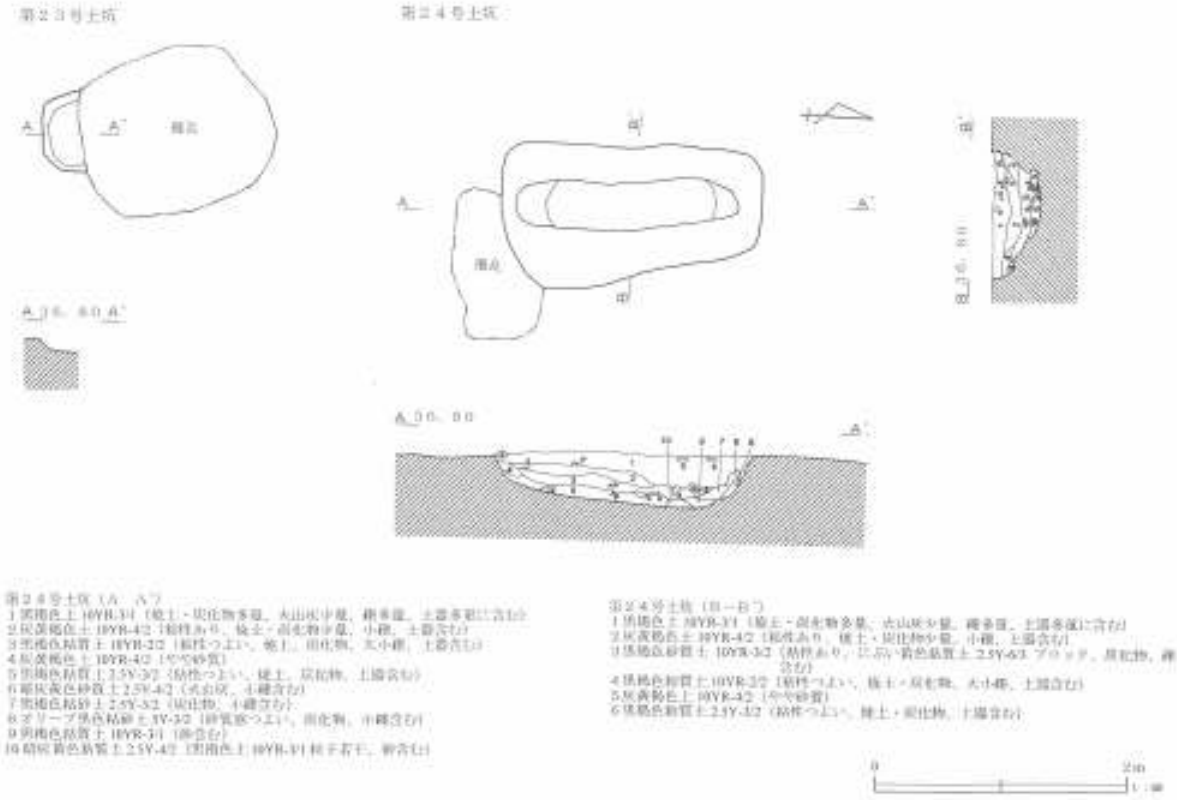
Ｂ・Ｃ－５・６グリッドから検出した。遺構は、第１号溝跡を壊していた。また、一部攪乱を受けていた。

平面プランはややくびれた長方形で、規模は長軸2.08m、短軸0.96m、深さ0.42mであった。

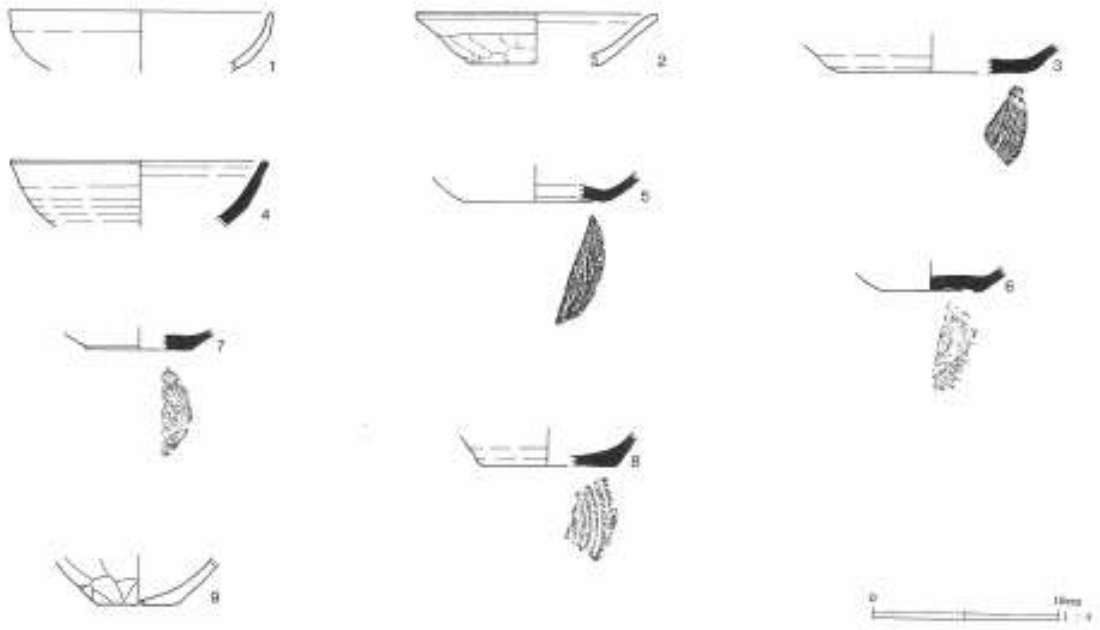
土坑の覆土には、多量の大小の川原石が含まれていたが、それにもかかわらず多量の土器が比較的良い状態で検出できた。

出土遺物は、土坑中一番の点数を誇り、須恵器坏・蓋・甕・壺、土師器坏・甕・台付甕、鉄製刀子などがあり、坏は比較的良好な遺存状態で出土した。

時期は、９世紀前半から末にかけてで、９世紀後半の遺物が最も出土した。



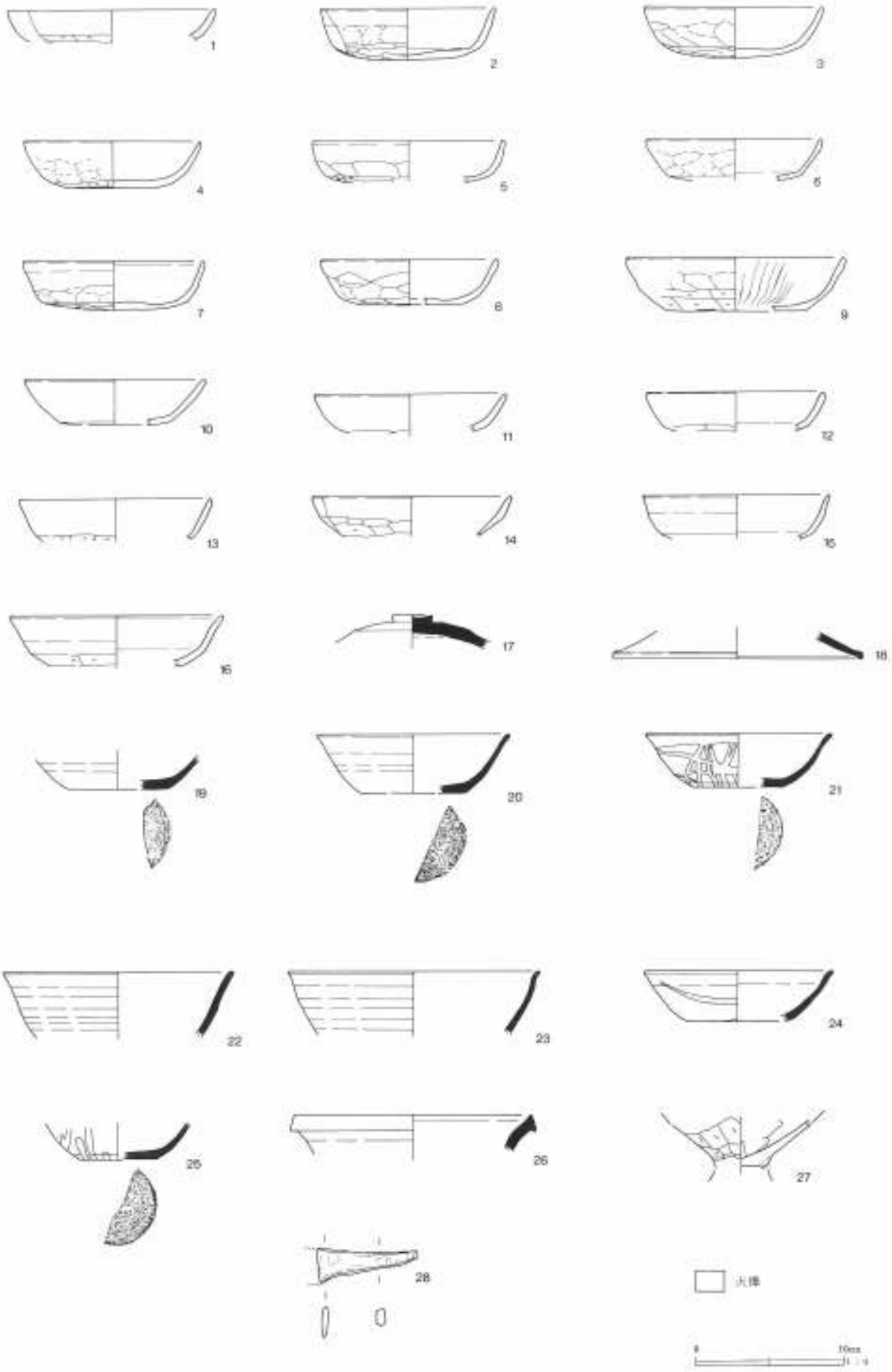
第20図　第23･24号土坑



第21図　土坑出土遺物(1)

第５表　土坑出土遺物観察表（第21図）

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	SK05	坏	口径(13.9) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部から底部へラケズリ(摩滅著しく不明)。 口縁部はほぼ直立する。体部は内湾する。	黒色粒子、褐色粒子、雲母含む。	外面:褐色7.5YR-5/4、橙色5YR-6/6 内面:橙色5YR-6/6	不良	口縁の10%	
2	SK06	坏	口径(12.7) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ヨコナデ。体部外面下半は指頭圧痕残る。底部はヘラケズリ。 口縁部・体部は大きくハの字に開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、石英含む。	外面:橙色5YR-6/6、にぶい黄橙色10YR-7/4 内面:橙色5YR-6/6	普通	20% (口縁の30%)	
3	SK19	坏	残存高1.5 底径(10.0)	内外面回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。底径は大きい。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質わずか含む。	外面:灰白色5Y-7/1 内面:灰黄色2.5Y-6/2	良好	底部破片	南比企産
4	SK10	坏	口径(13.4) 残存高3.5	内外面回転ナデ。 口縁部はやや開いて立つ。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子わずか、白色針状物質若干含む。	外面:暗灰黄色2.5Y-5/2、灰白色5Y-7/1、灰色5Y-6/1 内面:灰黄色2.5Y-6/2	良好	口縁の10%以下	南比企産
5	SK01	坏	残存高1.7 底径(7.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部は内湾ぎみに立ち上がる。底部はあげ底。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子多量含む。	外面:灰黄褐色10YR-5/2、黄褐色10YR-5/6 内面:にぶい黄橙色10YR-6/4	不良	底部の20%	
6	SK10	坏	残存高1.3 底径(5.5)	内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。体部は内湾ぎみに立ち上がる。	白色粒子、白色針状物質少量、細礫含む。	外面:灰色7.5Y-5/1 内面:黒色N-2/	良好	底部の50%	南比企産
7	SK10	坏	残存高1.0 底径(5.6)	内外面回転ナデ。底部回転糸切り。体部は大きく開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、雲母、細礫(長石)含む。	外面:灰色N-5/、灰色7.5Y-5/1 内面:灰色10Y-5/1	良好	底部の30%	末野産？
8	SK04	坏	残存高1.8 底径(7.2)	内外面回転ナデ。底部回転糸切り。体部はやや開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、雲母、細礫含む。	外面:黒褐色2.5Y-3/1、暗灰黄色2.5Y-4/1 内面:黄灰色2.5Y-4/1	普通	底部の25%	末野産？
9	SK22	甕	残存高2.4 底径(4.3)	胴部外面縦方向のヘラケズリ。底部付近横方向のヘラケズリ。内面ナデ。底部外面ヘラケズリ。 底径は小さい。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母、細礫含む。	外面:橙色2.5YR-6/8、明赤褐色2.5YR-3/6、褐色7.5YR-4/3、にぶい橙色5YR-7/4 内面:橙色2.5YR-6/8、橙色7.5YR-6/6、赤褐色5YR-4/6	やや不良	底部の25%	



第22図　第24号土坑出土遺物

第６表　第24号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(13.0) 残存高2.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部は開いて立ち上がる。体部は内湾する。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母、長石含む。	外面：明赤褐色2.5YR-5/8 内面：明赤褐色2.5YR-5/6	普通	口縁の15%	
2	坏	口径(11.6) 器高3.5 底径9.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部は若干外反する。体部はやや内湾ぎみ。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、雲母含む。	橙色5YR-6/6、明赤褐色5YR-5/6	良好	40%	
3	坏	口径11.9 器高3.4 底径9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はややハの字に開いて立つ。底部は平底ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子多量、雲母含む。	外面：明赤褐色2.5YR-5/6 内面：橙色2.5YR-6/8、明赤褐色2.5YR-5/8、にぶい黄橙色10YR-6/2、にぶい褐色7.5YR-5/4	良好	85%	
4	坏	口径(11.8) 器高3.1 底径7.8	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はハの字に開く。体部は内湾する。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母多量含む。	明赤褐色5YR-5/6	良好	25%	
5	坏	口径(12.8) 残存高2.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに開く。体部は内湾する。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、雲母、石英含む。	橙色5YR-6/6・7.5YR-7/6	やや良好	20%	
6	坏	口径(11.7) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ(摩滅著しく不明)、内面ナデ。 口縁部は大きくハの字に開いて立ち上がる。底部は平底と思われる。	白色粒子、赤褐色粒子多量、黒雲母含む。	外面：明赤褐色5YR-5/8、橙色5YR-6/6 内面：橙色7.5YR-6/6	やや不良	15% (口縁の20%)	
7	坏	口径12.1 底径9.7 器高3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はゆるやかなＳ字状でやや開いて立ち上がる。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母、石英含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4、灰褐色5YR-4/2	良好	55%	
8	坏	口径(11.8) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はハの字に開いて立ち上がる。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母、石英含む。	外面：橙色5YR-6/8、明赤褐色5YR-5/8 内面：明赤褐色5YR-5/8、橙色5YR-7/8	やや不良	25%	
9	坏	口径(14.5) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕残る。下半ヘラケズリ。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。内面に放射状暗文。 口縁部は開いて直立し、体部は内湾する。 底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母多量含む。	明赤褐色5YR-5/8	良好	20%	
10	坏	口径(12.0) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面摩滅著しく不明。内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部は大きくハの字に開いて立ち上がる。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母、石英含む。	にぶい橙色7.5YR-6/4、にぶい褐色7.5YR-5/4	普通	20%	
11	坏	口径(12.9) 残存高2.6	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。 口縁部はハの字に大きく開いて立ち上がる。 体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面：にぶい赤褐色7.5YR-6/4 内面：にぶい橙色7.5YR-6/4	普通	10%	

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
12	坏	口径(11.8) 残存高2.6	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみにハの字に開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	にぶい橙色7.5YR-6/4、明赤褐色5YR-5/6	やや不良	口縁の10%	
13	坏	口径(12.8) 残存高2.8	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部は外方へ開いて直立する。底部は平底と思われる。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母少量、石英含む。	外面:にぶい黄橙色10YR-6/4、明褐色7.5YR-5/6、灰褐色7.5YR-5/2 内面:橙色7.5YR-6/6	やや不良	15% (口縁の20%)	
14	坏	口径(13.3) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はハの字に開いて立ち上がる。体部はくの字に屈曲する。	黒色粒子、赤褐色粒子、雲母多量含む。	明赤褐色5YR-5/6	やや不良	口縁の10%	
15	坏	口径(12.5) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや外反する。体部は内湾する。	赤褐色粒子多量、雲母、細礫含む。	外面:橙色5YR-6/8 内面:黄橙色7.5YR-7/8	やや不良	口縁の20%	
16	坏	口径(14.3) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上半ナデ、下半ヘラケズリ、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部は外反する。底部は平底と思われる。	白色粒子、黒色粒子、雲母含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4	良好	20%	
17	蓋	つまみ径2.7 残存高2.3	甲部外面右回転ヘラケズリ。その他内外面回転ナデ。 つまみはナデつけ。つまみは環状つまみ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母少量、長石、石英含む。	褐灰色10YR-6/1	やや不良	20%	末野産？
18	蓋	口径(16.8) 残存高1.8	内外面回転ナデ。 口縁端部は丸みをもつ。	白色粒子、黒色粒子、石英含む。	外面:灰黄色2.5YR-7/2、浅黄色2.5Y-7/3 内面:黄灰色2.5Y-4/1、灰黄色2.5Y-7/2	不良	口縁の10%以下	末野産？
19	坏	底径(6.7) 残存高2.3	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り。 体部はやや内湾ぎみに大きく開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、雲母少量、小礫含む。	灰白色N-7/ 灰色N-6/	良好	底部の25%	
20	坏	口径(12.8) 残存高3.9	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り。 口縁部はやや外反する。体部はやや内湾する。	白色粒子、黒色粒子含む。	外面:灰色N-6/ 内面:灰色N-5/	良好	40%	末野産？
21	坏	口径(12.4) 残存高3.6	内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り。 口縁部は外反する。体部は内湾する。	白色粒子、白色針状物質少量、長石、小礫含む。	外面:灰色N-6/、暗灰色N-3/、青灰色5PB-5/1、紫灰色5P-5/1 内面:灰色N-5/	良好	40%	南比企産 外面に火だすき痕
22	埦	口径(15.4) 残存高4.5	内外面回転ナデ。 口縁部はわずかに開いてほぼ直立する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母、長石、石英、小礫(片岩礫)含む。	灰白色N-7/	やや不良	口縁の10%以下	高台脚か? 末野産
23	坏	口径16.9 残存高4.3	内外面回転ナデ。 口縁端部は大きく外反する。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、長石、石英含む。	外面: 灰オリーブ色5Y-6/2、灰色N-6/ 内面:灰色N-6/	良好	口縁の10%以下	末野産？
24	坏	口径(12.6) 残存高3.4	内外面回転ナデ。 口縁端部は大きく外反する。体部はやや内湾ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質若干、長石、小礫含む。	青灰色5B-6/1、灰色N-5/	良好	35%	南比企産 外面に火だすき痕
25	坏	残存高2.4 底径(5.0)	内外面回転ナデ、底部外面右回転糸切り。 体部は大きく内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、白色針状物質若干、石英、小礫含む。	外面: 灰白色N-7/、灰色N-6/・N-4/ 内面:灰色N-6/、灰白色N-7/	良好	30%	南比企産 外面に火だすき痕

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
26	甕	口径(16.0) 残存高2.6	内外面回転ナデ。	白色粒子、小礫、長石含む。	外面:褐灰色10YR-4/1 内面:褐灰色5YR-4/1	良好	口縁の10%	末野産？
27	台付甕	残存高3.2	胴下半部外面斜め方向ヘラケズリ、底部外面横方向のヘラケズリ、内面木口状工具によるナデ、脚台部内面ナデ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母非常に多く含む。	明褐色7.5YR-5/6、にぶい褐色7.5YR-5/4	普通	胴下半部破片	
28	刀子	残存長6.8 最大幅2.2 最大厚1.1	刀子の茎部と思われる。					

3 ピット

ピットは、総数にして５基検出した。ピットは調査区中央に散在して検出された。出土遺物としては、検出されたピットは少なく、概ね平安時代の所産と考えられる遺物が出土したが、細片が多く時期を特定するに足る資料はなかった。

以下各ピットごとに詳細を記載する。

第１号ピット（第23図）

Ｄ－２グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は長軸0.42m、短軸0.37m、深さ0.12mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第２号ピット（第23図）

Ｄ－３グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は長軸0.56m、短軸0.49m、深さ0.20mであった。床面は東隅にさらにピット状の掘り込みがあり、２段であった。

出土遺物は、土師器甕破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第３号ピット（第19図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第３・10号土坑を壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.40m、短軸0.29m、深さ0.18mであった。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、９世紀後半と考えられる。

第４号ピット（第19図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は、第６号土坑を壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.37m、短軸は残存長で0.25m、深さ0.26mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号ピット（第18図）

Ｃ－４グリッドから検出した。遺構は、第17号土坑を壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.65m、短軸0.40m、深さ0.28mであった。

ピットの覆土には、炭化物がブロック状に含まれていた。

出土遺物は、土師器坏破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第23図　第１・２号ピット

4　溝跡

溝跡は、調査区東部で２条検出し、第１号溝跡、第２号溝跡と呼称した。北部で２条に分岐しており、互いの重複関係は土層断面観察から認められず、同時期に存在していたと考えられる。このことは、出土遺物からも裏付けられる。

以下各溝跡ごとに記載する。

第１号溝（第24～29図、第７表）

Ａ・Ｂ－５、Ｃ・Ｄ－４・５、Ｅ－４グリッドから検出した。北はＡ－５グリッドから始まり南はＥ－４グリッドまでやや東に傾きほぼ真っ直ぐに南北へ走っていた。また、Ｂ－４とＢ－５グリッド境で第２号溝跡と接続していた。

規模は、全長19.30m、幅1.88～4.72m、深さ0.64～1.4mであった。溝幅は、北端のＢ－５グリッド付近で最大幅をもち、それ以南は幅が狭まりほぼ同じであった。断面形状は、溝幅の広い箇所が緩やかな逆台形状で浅く床面幅も広い。溝幅の狭い箇所はＶ字状で深いものであった。また、溝跡の西側がゆるい傾斜の傾向が認められた。

覆土中には、砂や礫が多量に含まれおり、溝幅の広い箇所は黄色または黄褐色粘質土を取り除くと地山である砂礫混じりの層があり、その層中で止まっていた。また、溝幅の狭い箇所は前述の土の下層に砂と礫混じりの層が堆積しており、それを取り除くと砂の地山が存在し、その層中で止まっていた。

出土遺物は、本遺跡の出土量の７割ほどを占め非常に多かった。須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕・台付甕などが出土し、特に須恵器坏の占める割合は高く、次いで土師器坏・須恵器甕であった。

時期は、８世紀前半から10世紀後半及び11世紀までに及ぶが、９世紀代が中心で特に９世紀後半の遺物が多くみられた。

第２号溝跡（第24・29図、第７表）

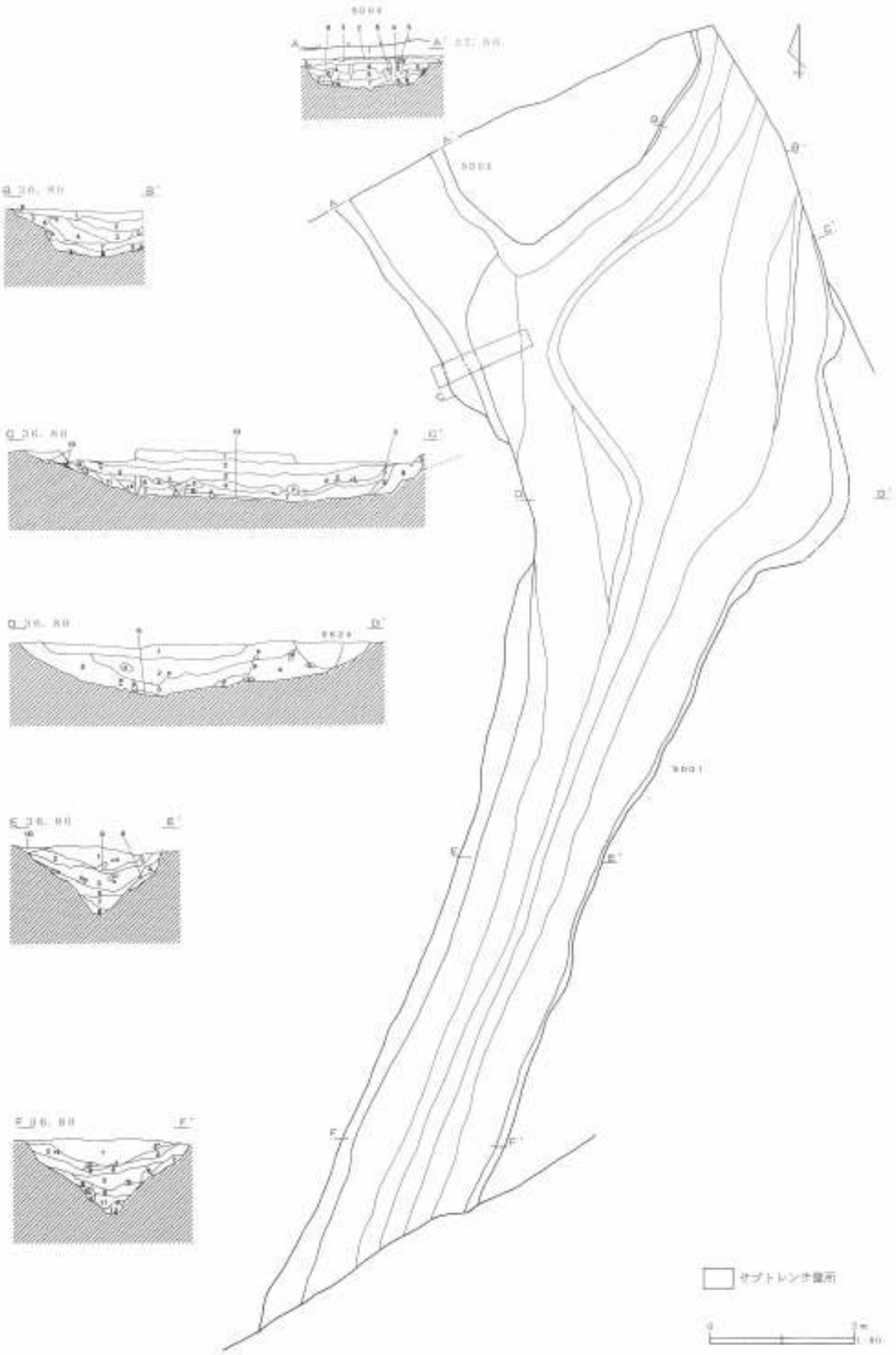
Ｂ－４グリッドから検出した。やや西に傾き真っ直ぐに南北に走り、第１号溝跡と接続していた。

規模は、全長4.24m、幅1.50～1.74m、深さ0.38mであった。

溝跡の覆土は、やはり第１号溝跡と同様に小礫混じりのもので、黄褐色またはにぶい黄色粘質土を取り除くと地山である砂礫混じりの層中で止まっていた。

出土遺物は、少なく須恵器坏・甕、土師器坏・甕などが出土した。

時期は、第１号溝跡と同時期の９世紀後半代と考えられる。



第24図　第1・2号溝跡

第2層遺物（A～A'）
1 鉄釘
2 灰色土 10Y-5/1（酸化鉄多量に含む）
3 黒褐色土 10YR-3/2【遺物包含層】（灰色土 10Y-5/1 混じり、酸化鉄多量、小礫、土器含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1（オリーブ黒色土 5Y-6/1 粒子少量、炭土、焼土物、酸化鉄少量、小礫少量、土器含む）
5 黒褐色土 2.5Y-3/2（火山灰若干、土器含む）
6 にぶい黄褐色土 2.5Y-6/4（シルト質、かたくしまる、黒褐色土 10YR-3/1 若干混じる）
7 黄褐色粘質土 2.5Y-5/3（シルト質、小礫若干含む）
8 にぶい黄褐色粘質土 2.5Y-6/3（シルト質、小礫含む）

第1層遺物（B～B'）
1 灰黄褐色土 10YR-4/2（黒褐色土 10YR-3/2 ブロック多量、火山灰若干、焼土、炭化物、土器含む）
2 黒色土 10YR-2/1（暗灰黄色土 2.5Y-5/2 ブロック・淡黄色粘砂土 2.5Y-7/3 ブロック少量、火山灰ごく若干、焼土、炭化物含む）
3 黒色土 2.5Y-2/1（中や粘性あり、締まり、暗灰黄色土 2.5Y-5/2 ブロック・粒子少量、焼土多量、炭化物含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1（中や粘質、小礫、焼土、炭化物、土器含む）
5 黒褐色粘質土 10YR-3/1（砂と礫を多量に含み、ざらざらした感じ）
6 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（1cm 小礫多量、土器含む）
7 黒褐色粘砂土 2.5Y-3/1（砂と礫を多量に含みざらざらした感じ、黄褐色粘質土 2.5Y-5/3 ブロック・黒色土 2.5Y-6/1 ブロック含む）
8 黒褐色砂質土 2.5Y-3/1（砂を多量に含む）（ドロドロ中やや粘性あり、黄褐色粘質土、2.5Y-5/3 混じる、炭礫、土器含む）

第1層遺物（C～C'）
1 灰黄褐色土 10YR-4/2（砂礫多量、火山灰若干、焼土、土器含む）
2 暗褐色土 10YR-3/3（砂礫少量、火山灰若干、土器含む）
3 黒褐色土 10YR-3/1（にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/4 ブロック・粒子少量、砂礫多量、土器含む）
4 黒褐色土 2.5Y-3/2（中や粘性あり、にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/3 粒子少量、砂礫若干、土器含む）
5 灰黄褐色土 10YR-4/2（中や粘性あり、砂礫多量に含む）
6 黒褐色土 10YR-3/2（砂多量、小礫、土器含む）
7 にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/3（シルト質、小礫若干、土器含む）
8 黒褐色砂質土 10YR-3/2（砂礫少量含む）
9 にぶい黄褐色砂質土 10YR-4/3（砂礫多量、土器含む）
10 オリーブ黄色粘質土 5Y-6/3（砂礫多量に含む）
11 黒褐色土 2.5Y-3/2（砂礫多量に含む）
12 黒褐色土 10YR-3/2（砂礫多量に含む）
13 暗灰黄色砂質土 2.5Y-5/2（礫若干含む）

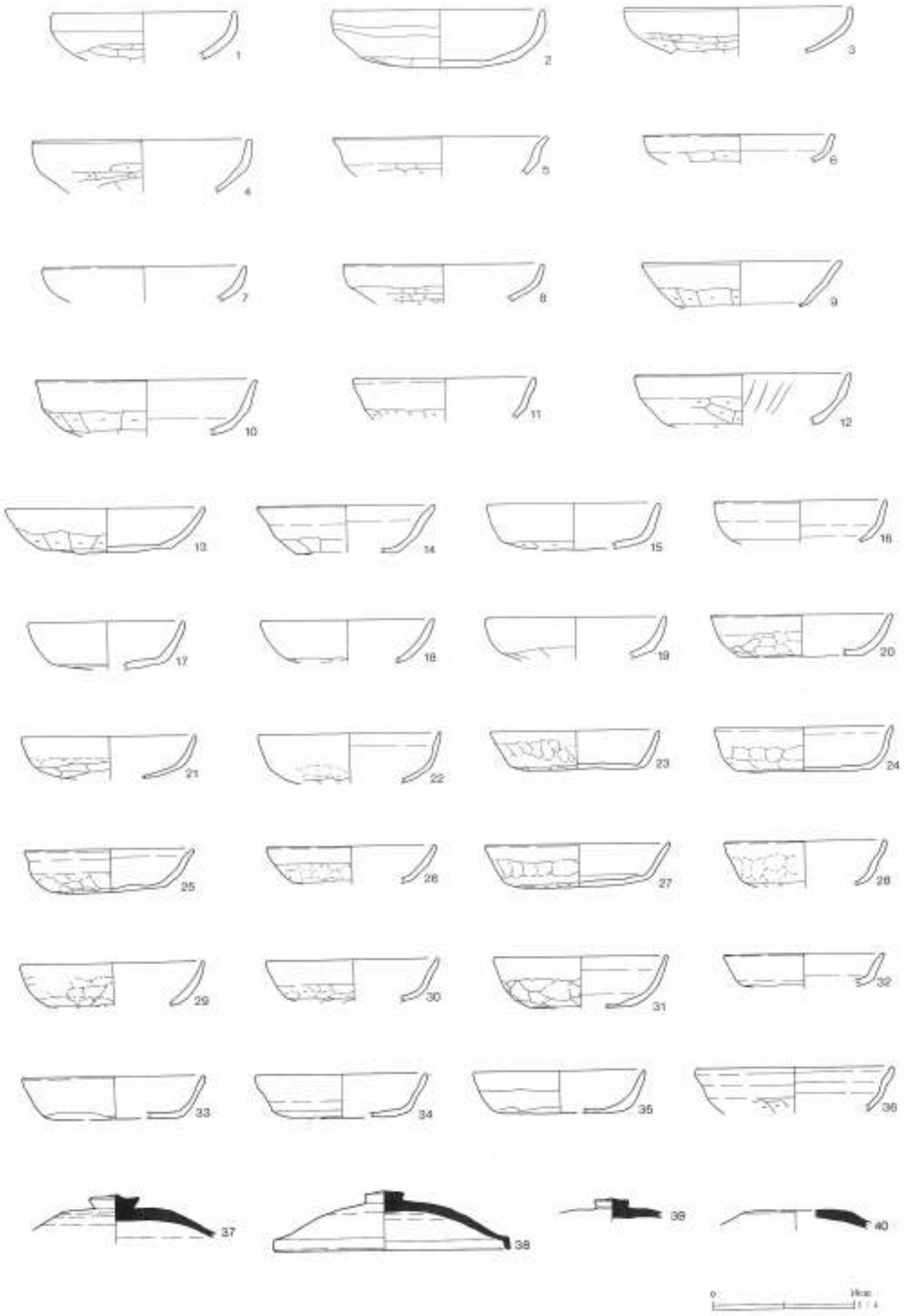
第1層遺物（D～D'）
1 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（灰色土 10YR-5/1 ブロック多量、黒褐色土 7.5YR-3/4 粒子少量、火山灰多量）（火山灰多量に含む）
2 暗褐色土 10YR-3/3（黄褐色土 10YR-4/6 ブロック多量、火山灰多量、礫、土器含む）
3 黒褐色粘土 2.5Y-5/4
4 暗褐色土 10YR-3/3（粘性あり、焼土物多量、礫多量、土器含む）
5 褐色土 10YR-4/4（黒褐色土 5YR-4/8 粒子少量、暗黒色砂砂 10YR-3/4、火山灰多量、炭化物、土器含む）
6 黒褐色土 2.5Y-3/1（小礫含む）

第1層遺物（E～E'）
1 黒褐色土 10YR-3/2（黒褐色土 10YR-3/1 ブロック、にぶい黄色土 2.5Y-6/3 ブロック少量、火山灰多量、小礫、土器含む）
2 にぶい黄褐色土 10YR-5/4（黒褐色土 10YR-3/1 ブロック若干、火山灰少量、礫、土器含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/3（黒褐色土 2.5Y-3/1 粒子少量、灰白色シルト 7.5Y-7/1 粒子若干、火山灰若干、焼土、小礫含む）
4 灰オリーブシルト 5Y-6/2
5 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2（粘性つよい、青灰色粘土 5PB-6/1 ブロック若干、酸化鉄少量含む）
6 灰黄褐色砂質土 10YR-4/2（砂と小礫を多量に含みざらざらした感じ）
7 暗灰黄色砂 2.5Y-4/2（酸化鉄少量、土器含む）
8 灰白砂礫土 5Y-8/1（青灰色粘土 5PB-6/1 ブロック多量、酸化鉄少量含む）
9 欠番
10 欠番

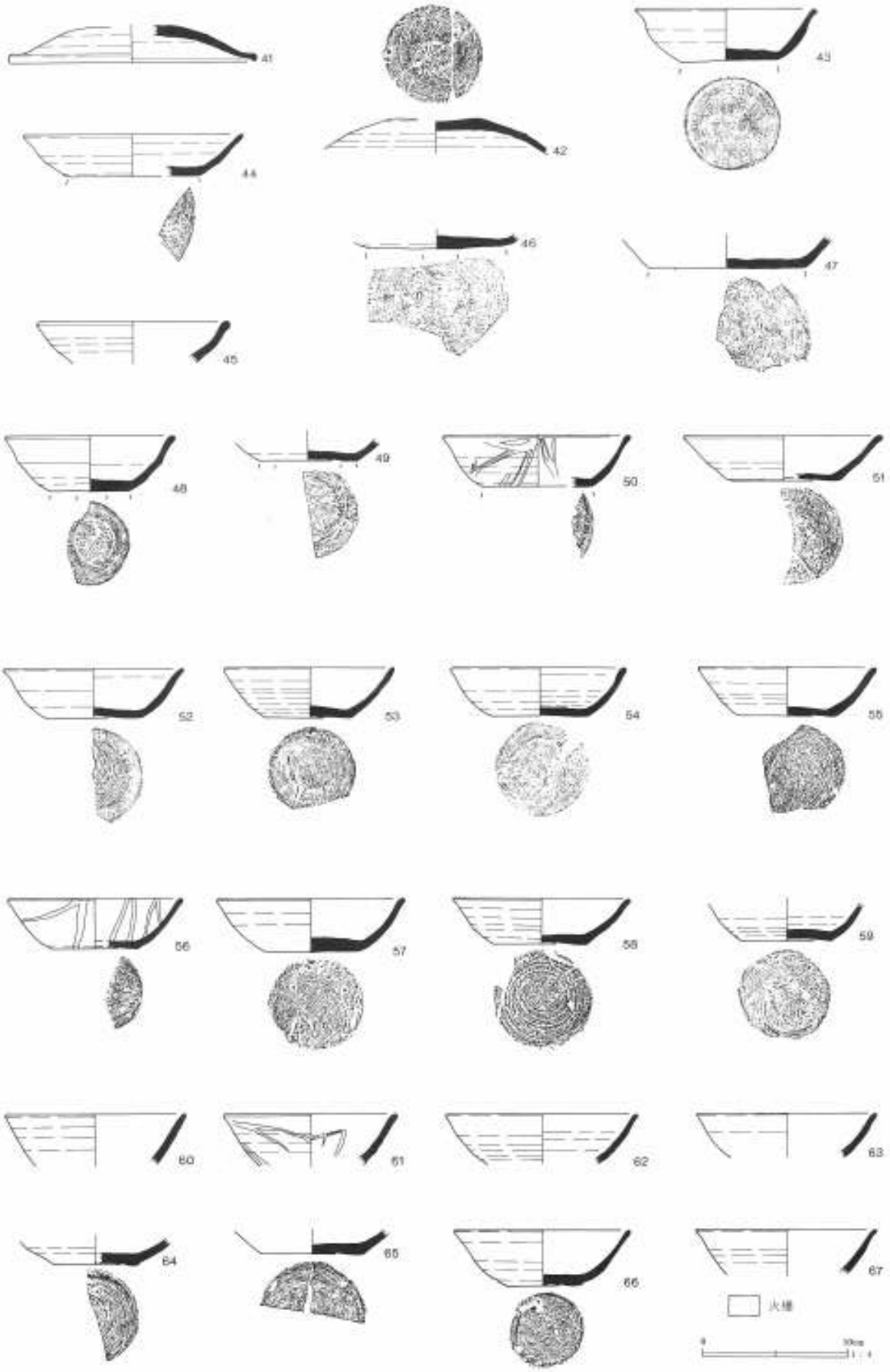
第1層遺物（F～F'）
1 黒褐色土 10YR-3/2（黒褐色土 10YR-3/1 ブロック・黒色土 10YR-2/1 ブロック多量、にぶい黄色土 2.5Y-6/3 ブロック少量、火山灰多量、焼土、炭化物、小礫含む）
2 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（火山灰若干、炭化物、土器含む）
3 暗灰黄色砂質土 2.5Y-4/2（灰白色 2.5Y-4/1 混じる、火山灰少量、焼土、炭化物含む）
4 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（火山灰少量、炭化物含む）
5 褐色土 10YR-4/4（火山灰少量含む）
6 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（黄褐色土 10YR-5/6 粒子少量含む）
7 暗灰黄土 10YR-4/1（砂質）
8 褐色土 10YR-4/4（やや粘性あり、橙色土 7.5YR-6/8 粒子少量、炭化物少量含む）
9 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（やや粘性あり）
10 黒色土 10YR-4/6（やや粘性あり、酸化鉄少量含む）
11 灰黄色砂礫 10YR-4/2（黄褐色土 10YR-5/6 ブロック少量、酸化鉄少量含む）
12 灰黄褐色土 10YR-4/2（粘性あり、酸化鉄塊多量、土器含む）

第7表　溝跡出土遺物観察表（第25～29図）

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	SD01	坏	口径(12.8) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、底部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに立つ。体部は内湾する。	黒色粒子、雲母含む。	外面：橙色5YR-6/6 内面：橙色5YR-6/6、にぶい橙色7.5YR-6/4	不良	口縁の25%	
2	SD01	坏	口径14.8 器高4.1	口縁部内外面ヨコナデ、体部・底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに立つ。体部は内湾する。底部は丸底ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、雲母含む。	外面：橙色5YR-7/6 内面：にぶい橙色7.5YR-7/4、橙色7.5YR-6/6	不良	60%	全体に摩滅激しく調整よみとりづらい。
3	SD01	坏	口径(15.8) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに立つ。体部はやや内湾する。	黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母、石英含む。	橙色5YR-6/8	やや不良	20%	
4	SD01	坏	口径(15.0) 残存高3.7	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部は直立する。体部は口縁部からくの字に屈曲する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	橙色5YR-6/6	普通	口縁の15%	
5	SD01	坏	口径(15.0) 残存高2.8	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部は大きく外反する。	白色粒子、赤褐色粒子多量、黒雲母含む。	橙色5Y-6/6	やや良好	口縁の10%	
6	SD01	坏	口径(13.3) 残存高2.1	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや外反する。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面：橙色7.5YR-6/6、明褐色7.5YR-5/6 内面：橙色7.5YR-6/6、暗褐色7.5YR-3/3	やや良好	口縁の10%	
7	SD01	坏	口径(14.2) 残存高2.4	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ？（摩滅著しく不明）、内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに開いて立つ。体部は内湾する。	白色粒子、褐色粒子、黒雲母、石英含む。	外面：橙色5YR-6/8 内面：橙色5YR-6/6	やや不良	20% （口縁の25%）	

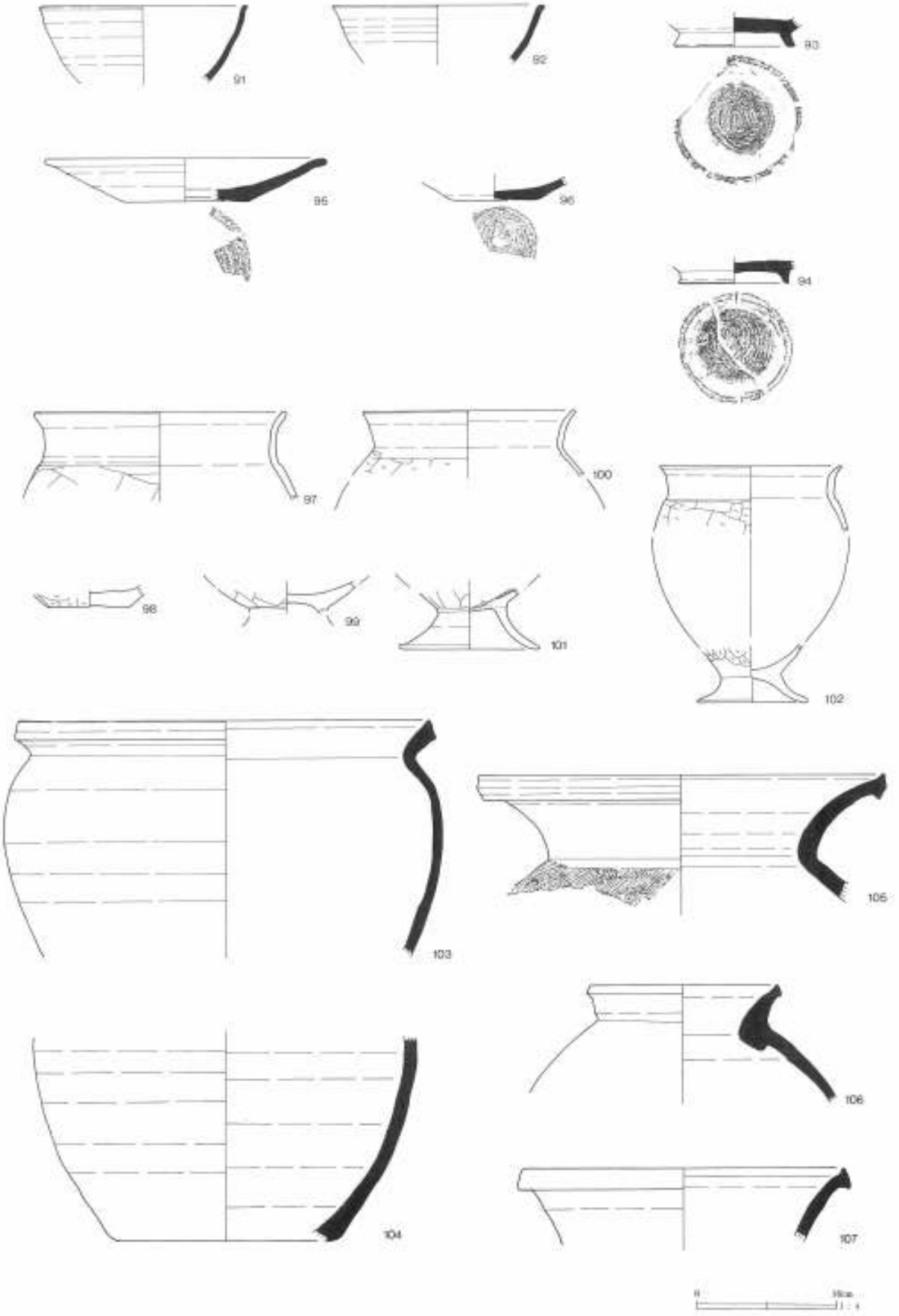


第25図　溝跡出土遺物（1）

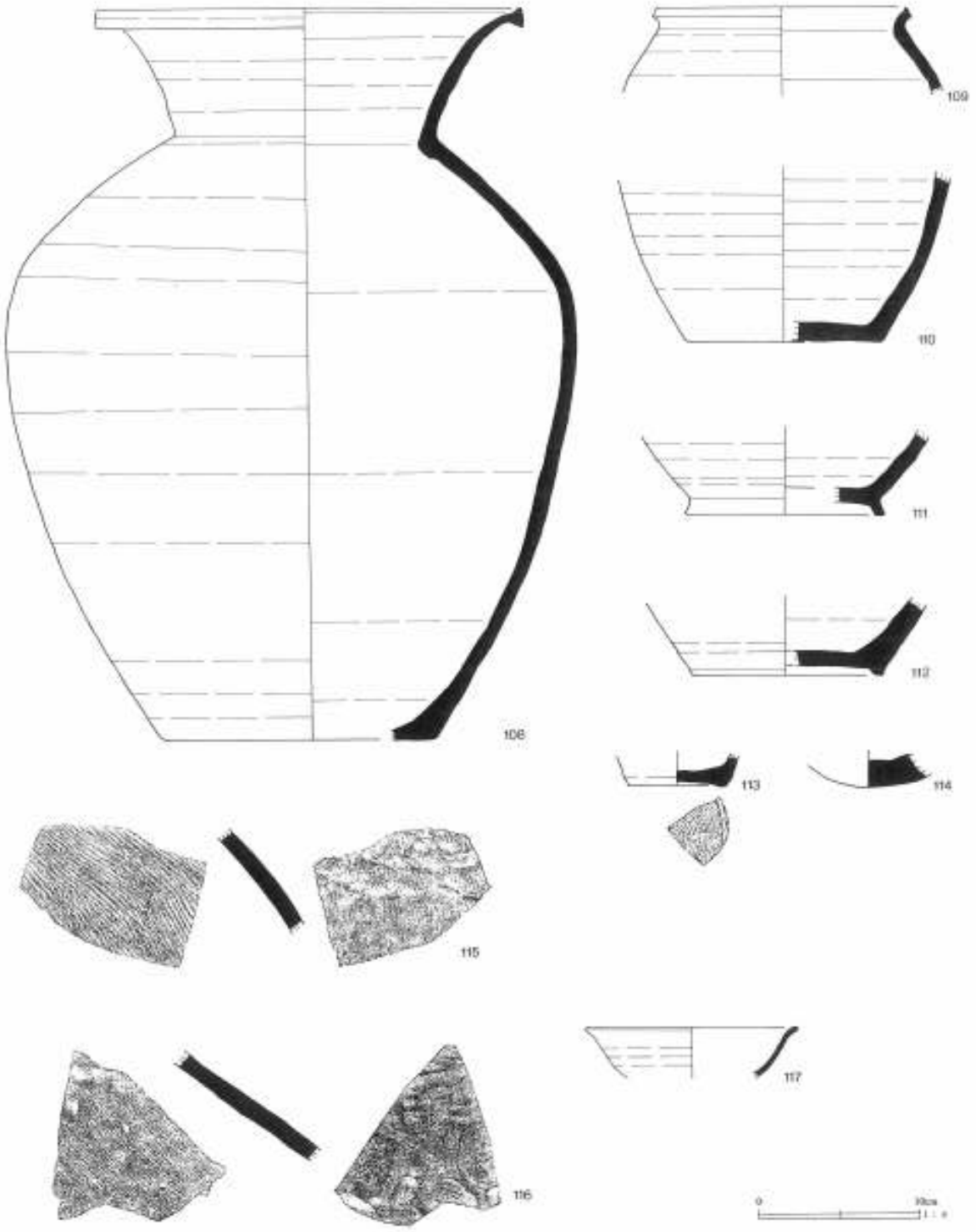


第26図　溝跡出土遺物（2）

第27図　溝跡出土遺物（３）



第28図　溝跡出土遺物（4）



第29図　溝跡出土遺物（5）

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
8	SD01	坏	口径(14.0) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや開いて立つ。体部は口縁部からくの字に屈曲して直線的である。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、雲母含む。	橙色7.5YR-6/6 明褐色7.5YR-5/6	良好	口縁の10%	
9	SD01	坏	口径(13.9) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部・底部外面ヘラケズリ、体部内面ヨコナデ。 口縁部は大きく開いて立つ。底部は平底？	白色粒子、黒色粒子、雲母、石英含む。	外面：にぶい褐色7.5YR-5/4 内面：にぶい橙色7.5YR-6/4、橙色7.5YR-6/6	普通	口縁の15%	
10	SD01	坏	口径(15.4) 残存高3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや外反して立つ。体部は屈曲して底部へと移行する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、黒雲母含む。	橙色5YR-6/6、明赤褐色5YR-6/5	やや不良	口縁の20%	
11	SD01	坏	口径(12.7) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや開いて立ちＳ字状を呈する。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	明赤褐色5YR-5/6	良好	15% (口縁の25%)	
12	SD01	坏	口径(15.2) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部・底部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。内面に放射状暗文有り。 口縁部はやや開いて立つ。体部は口縁部からくの字に屈曲する。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母、石英含む。	外面：明赤褐色5YR-5/6 内面：橙色5YR-6/6	良好	口縁の10%	
13	SD01	坏	口径(13.9) 器高3.1 底径(9.0)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ？(摩滅著しい) 口縁部は大きくハの字に開く。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面：褐色7.5YR-4/3、明赤褐色5YR-5/6 内面：褐色5YR-4/6	良好	45%	
14	SD01	坏	口径(12.2) 器高3.4 底径(6.9)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部は大きく開きＳ字状を呈する。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、黒雲母多量含む。	外面：橙色5YR-6/6、にぶい橙色7.5YR-7/4 内面：橙色5YR-6/6	普通	口縁の20%	
15	SD01	坏	口径(11.7) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや開いて直立する。底部は平底ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	明赤褐色5YR-5/6	普通	20% (口縁の25%)	
16	SD01	坏	口径(12.0) 残存高2.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや開きぎみに直立する。 体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、黒雲母含む。	明赤褐色5YR-5/6	良好	口縁の10%	
17	SD01	坏	口径(10.9) 残存高3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや開いて立つ。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母多量含む。	外面：橙色5YR-6/6 内面：橙色7.5YR-6/6	不良	25%	
18	SD01	坏	口径(12.1) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。 口縁部は開いて立つ。体部はやや内湾ぎみ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母、石英含む。	外面：明赤褐色5YR-5/6、明褐色7.5YR-5/6 内面：明褐色7.5YR-5/6	やや不良	20% (口縁の25%)	
19	SD01	坏	口径(12.5) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに立つ。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面：明赤褐色5YR-5/6、褐色7.5YR-4/3 内面：橙色5YR-6/6、暗褐色7.5YR-3/3	普通	口縁の20%	

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
20	SD01	坏	口径(12.7) 器高2.9	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕残る)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや開いて立つ、体部は内湾する、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	外面:明赤褐色5YR-5/6、赤褐色5YR-4/6 内面:明赤褐色5YR-5/6	良好	20% (口縁の25%)	
21	SD01	坏	口径(12.3) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部は開いて立つ、体部は内湾する、底部は丸底ぎみ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子含む。	明赤褐色2.5YR-5/6	良好	25% (口縁の35%)	
22	SD01	坏	口径(12.7) 残存高3.5	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕残る)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや開いて直立する、体部は内湾する。	黒色粒子、雲母含む。	外面:橙色7.5YR-6/6、明褐色7.5YR-5/6 内面:橙色7.5YR-6/6	普通	口縁の15%	
23	SD01	坏	口径11.8 器高2.7 底径9.4	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部・体部は開いて立つ、底部は平底。	白色粒子、黒雲母含む。	にぶい赤褐色5YR-5/4、黒褐色5YR-2/1	良好	60%	
24	SD01	坏	口径(12.4) 器高3.1 底径(9.6)	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや外反して立つ、体部は内湾する、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	外面:にぶい赤褐色5YR-5/3 内面:にぶい橙色5YR-6/4	良好	40%	
25	SD01	坏	口径11.8 器高3.0 底径8.2	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部は外反して立つ、体部は内湾する、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、黒雲母含む。	外面:橙色2.5YR-6/6 内面:橙色5YR-6/6	良好	70%	
26	SD01	坏	口径(11.7) 残存高2.6	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部は大きく開いて立ち、端部は丸みをもつ、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子少量、黒雲母含む。	外面:明褐色7.5YR-5/8、褐色7.5YR-4/6 内面:明褐色7.5YR-5/6、褐色7.5YR-4/6	良好	20% (口縁の25%)	
27	SD01	坏	口径12.8 器高3.1 底径9.4	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部は大きく開いて立つ、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面:暗赤褐色5YR-3/3 内面:にぶい赤褐色5YR-4/6、にぶい赤褐色5YR-4/3 底部:黒色5YR-3/1	良好	50%	
28	SD01	坏	口径(11.2) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや内湾して立ち、体部にかけてS字状を呈する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	橙色7.5YR-6/6	良好	15% (口縁の25%)	
29	SD01	坏	口径(12.9) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。 口縁部はやや開いて立ち、端部はとがる、体部は内湾する、底部は平底?	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	明赤褐色2.5YR-5/6	良好	35%	
30	SD01	坏	口径(12.1) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ? (摩滅著しい)。 口縁部はやや外反ぎみに開いて立つ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面:明赤褐色2.5YR-5/8 内面:明赤褐色2.5YR-5/8、橙色5YR-6/6	不良	35% (口縁の50%)	
31	SD01	坏	口径(12.0) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ(指頭圧痕のこる)、内面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はやや開いて立つ、体部は内湾する、底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	明赤褐色5YR-5/6	良好	40%	

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
32	SD01	坏	口径(11.2) 残存高2.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ？(摩滅著しい)。内面ナデ。 口縁部はやや外反して立つ。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子含む。	橙色5YR-6/6	やや不良	口縁の25%	
33	SD01	坏	口径(12.8) 残存高3.0	口縁部・体部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 口縁部はやや開いて立つ。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、黒雲母含む。	橙色5YR-6/6	良好	20% (口縁の25%)	
34	SD01	坏	口径(11.9) 器高3.1	口縁部・体部内外面ヨコナデ。底部外面ナデ・ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾して開いて立つ。 底部は平底。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母、石英含む。	外面：明赤褐色5YR-5/6 内面：橙色5YR-6/6	良好	口縁の20%	
35	SD01	坏	口径(11.9) 器高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。　体部外面ナデ。内面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ？(摩滅著しい)。内面ヨコナデ。 口縁部は開いて立ち上がる。体部は内湾する。底部は平底。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母、石英含む。	外面：橙色5YR-6/6 内面：橙色7.5YR-6/8	やや不良	口縁の25%	
36	SD01	坏	口径(13.8) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 口縁部は開いて立ちS字状を呈する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子多量、黒雲母、雲母含む。	外面：橙色5YR-6/6、橙色7.5YR-6/6 内面：にぶい橙色7.5YR-7/4、橙色5YR-6/6	良好	口縁の20%	
37	SD01	蓋	つまみ径3.5 残存高3.1	甲部外面回転ヘラケズリ。他の内外面回転ナデ。 甲部は平坦で直線的に口縁部へ移行する。つまみは擬宝珠形。	白色粒子、黒色粒子、大礫（φ6㎜大）含む。	外面：黄灰色2.5Y　-6/1 内面：灰色7.5Y-6/1、黄灰色2.5Y-6/1	良好	70%	
38	SD01	蓋	つまみ径2.7 口径16.5 器高4.1	甲部外面回転ヘラケズリ。他の内外面回転ナデ。 甲部は高く、内湾して口縁部へと移行する。口縁部は下へ折れる。つまみは擬宝珠形。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質少量、長石含む。	灰色N-6/、灰オリーブ色7.5YR-5/2、黄灰色2.5YR-4/1	良好	80%	南比企産
39	SD01	蓋	つまみ径2.3 残存高1.3	甲部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。 甲部は平坦である。つまみは擬宝珠形。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質、雲母少量含む	外面：灰色N-6/ 内面：黄灰色2.5Y-5/1	良好	甲部破片	南比企産
40	SD01	蓋	残存高1.3	甲部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 甲部は平坦で、口縁部へと直線的に移行する。	白色粒子、黒色粒子、片岩含む。	外面：灰白色2.5Y-7/1、黄灰色2.5Y-6/1 内面：灰白色2.5Y-7/1、灰色N-4/・5Y-6/1	不良	甲部の40%	末野産
41	SD01	蓋	口径(17.0) 残存高2.6	甲部回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 甲部は比較的高く、やや内湾して口縁部へと移行する。口縁端部は短く下へと折れる。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、長石含む。	灰色5Y-5/1・7.5YR-6/1、にぶい黄褐色10YR-5/4	普通	60%	
42	SD01	蓋	残存高2.5	甲部回転糸切り、他は回転ナデ。 甲部はやや内側にへこみ、口縁部へと内湾して移行する。	白色粒子、黒色粒子、礫（φ4㎜大）含む。	灰色5Y-6/1・5Y-5/1	やや良好	60%	つまみ脱落痕有り
43	SD01	坏	口径12.3 器高3.6 底径6.5	内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。 口縁部はやや外反する。体部は内湾する。底部は肉厚。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、白色針状物質若干、石英、長石、礫含む。	灰白色10YR-7/1、にぶい黄橙色10YR-7/2 口縁部：灰色5Y-5/1	良好	80%	南比企産
44	SD01	坏	口径(15.0) 器高2.9 底径(9.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。 口縁部は大きくハの字に開く。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質ごくわずか、石英、礫（φ5㎜大）含む。	灰色N-6/ 口縁部：灰色N-5/	良好	40% (口縁の45%)	南比企産
45	SD01	坏	口径(12.9) 残存高2.9	内外面回転ナデ。 口縁部は開いて立つ。体部はやや内湾する。	白色粒子含む。	青灰色5B-5/1、褐灰色5YR-4/1	良好	口縁の25%	

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
46	SD01	坏	底径9.4 残存高1.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 底径大きい。底部肉厚。	白色粒子、白色針状物質ごくわずか含む。	灰色N-6/	良好	底部の60%	南比企産
47	SD01	坏	底径(10.7) 残存高2.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 体部は大きく開いて直線的に立つ。 底径大きい。	白色粒子、長石、石英含む。	灰色N-6/	良好	底部の30%	
48	SD01	坏	口径(11.4) 器高3.9 底径(5.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 口縁部はやや外反してハの字に開いて立つ。体部はやや内湾する。底部肉厚。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質、長石含む。	灰白色N-7/、口縁部:灰色N-6/	良好	40%	南比企産
49	SD01	坏	残存高1.5 底径6.7	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 体部はやや内湾する、底部は上げ底。	白色粒子、白色針状物質若干、石英含む。	灰色N-6/	良好	底部の55%	南比企産
50	SD01	坏	口径(12.7) 残存高3.5 底径(7.5)	内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。 口縁部はやや外反する。体部は内湾する。	白色粒子、白色針状物質若干、長石含む	灰色N-6/、暗灰色N-3/ 口縁部一部:灰色N-5/	良好	35% (口縁の40%)	南比企産 内外面に火だすき痕。
51	SD01	坏	口径(13.6) 残存高3.1 底径(7.9)	内外面回転ナデ。底部外面調整不明(摩滅著しい)。 口縁部は端部がやや外反し、大きくハの字に開いて立つ。底部は若干上げ底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、長 石、細 礫含む。	灰黄色2.5Y-6/2、黄灰色2.5Y-6/1	不良	50%	末野産
52	SD01	坏	口径(12.5) 器高3.5 底径(6.6)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 口縁部はやや外反する。体部は内湾する。底部は上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	灰色N-6/、青灰色5B-6/1 口縁部:灰色N-4/	良好	50%	南比企産
53	SD01	坏	口径(11.6) 器高3.5 底径5.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部はハの字に大きく開いて立つ。 体部はやや内湾ぎみ、底部肉厚。	白色粒子、黒色粒子含む。	黄灰色2.5YR-6/1、灰黄色2.5Y-6/2 底部:灰色7.5Y-5/1	良好	30% (底部の100%)	
54	SD01	坏	口径(11.9) 器高3.4 底径6.6	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部は開いて立つ。体部はやや内湾する。	白色粒子、白色針状物質含む。	灰褐色5Y-4/2 灰色N-4/、灰褐色5YR-4/1 口縁部付近:灰色10Y-5/1	良好	45%	南比企産
55	SD01	坏	口径(12.2) 器高3.4 底径(6.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部・体部は直線的にハの字に開いて立つ。底部は若干上げ底。	白色粒子、細礫含む。	灰色N-6/ 口縁部一部:灰色N-4/	良好	40%	
56	SD01	坏	口径(12.0) 器高3.5 底径(6.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部はやや内湾する。底部は上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質わずか、長石、黒雲母わずか含む。	灰色N-5/・N-4/、灰白色10YR-7/1	良好	30%	南比企産 内外面に火だすき痕。
57	SD01	坏	口径(12.7) 器高3.7 底径6.7	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部は直線的に開いて立つ。体部は内湾する。底部肉厚。	白色粒子、白色針状物質含む。	黄灰色2.5Y-6/1、灰黄色2.5YR-6/1	良好	60% (底部の100%)	南比企産
58	SD01	坏	口径(12.1) 器高3.1 底径6.5	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部はやや外反する。体部は内湾する。底部は若干上げ底。	白色粒子、褐色粒子、長石、細礫含む。	黄灰色2.5Y-4/1 底部:灰褐色5YR-4/2 口縁部付近:灰色7.5Y-5/1	良好	65%	
59	SD01	坏	残存高2.6 底径6.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は大きく内湾する。底部は若干上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質多量、細礫含む。	外面:青灰色10BG-6/1 内面:青灰色5B-5/1・5B-6/1	良好	底部の100%	南比企産

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
60	SD01	坏	口径(12.4) 残存高3.5	内外面回転ナデ。 口縁部・体部は大きくハの字に直線的に開く。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	にぶい黄褐色10YR-5/3、褐灰色10YR-4/1	やや不良	15% (口縁の25%)	
61	SD01	坏	口径(11.9) 残存高3.6	内外面回転ナデ。 口縁部はやや外反する。体部は直線的。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	灰色N-6/・N-5/	良好	10% (口縁の25%)	南比企産 内外面に火だすき痕。
62	SD01	坏	口径(13.2) 残存高3.3	内外面回転ナデ。 口縁部はやや外反する、体部はやや内湾する。	白色粒子、白色針状物質ごくわずか含む。	灰白色2.5YR-8/2	不良	10% (口縁の15%)	南比企産
63	SD01	坏	口径(12.3) 残存高3.0	内外面回転ナデ。 口縁部はやや外反する、体部は内湾する。	白色粒子、白色針状物質多量、長石含む。	灰褐色5YR-4/2、黒褐色2.5Y-3/1	良好	20% (口縁の35%)	南比企産
64	SD01	坏	残存高2/0 底径(5.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部はやや内湾する。底部は上げ底。	白色粒子、黒色粒子、雲母含む。	灰色N-6/	良好	底部の50%	
65	SD01	坏	残存高1.7 底径7.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部は直線的に開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子含む。	灰赤色2.5YR-4/2、褐灰色5YR-5/1	良好	底部の50%	
66	SD01	坏	口径12.1 器高3.8 底径5.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁部はやや外反する。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質わずか含む。	灰色5Y-6/1・5Y-5/1・N-4/	良好	45%	南比企産
67	SD01	坏	口径(12.5) 残存高3.1	内外面回転ナデ。 口縁部は外反する。体部は直線的。	白色粒子、黒色粒子、長石、雲母、小礫若干含む。	灰色N-6/	良好	口縁の25%	
68	SD01	坏	口径(12.5) 残存高3.9 底径(6.6)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁部は外反する。体部は内湾。	白色粒子、白色針状物質含む。	黄灰色2.5Y-6/1、灰色2.5Y-6/1	良好	50%	墨書 内面「益」 外面「誠」 南比企産
69	SD01	坏	口径11.5 器高3.4 底径5.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁部はやや外反する。体部は内湾する。	白色粒子、赤褐色粒子、長石含む。	暗青灰色5PB-4/1、灰色N-5/ 底部:灰色5Y-6/1	良好	45%	
70	SD01	坏	口径12.5 器高3.7 底径6.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁端部は大きく外反する。体部は内湾する。底部は上げ底。	白色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	暗青灰色5B-4/1、青灰色5B-6/1	良好	60%	
71	SD01	坏	口径12.8 器高4.0 底径5.7	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁部は外反する。体部は直線的。 底部は若干上げ底。	白色粒子、黒色粒子、長石含む。	灰色N-6/・N-5/	良好	40%	
72	SD01	坏	口径11.3 器高3.6 底径5.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部はやや内湾する。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質若干、雲母含む。	オリーブ灰色2.5GY-6/1、灰色N-5/・N-4/	良好 (堅緻)	90%	南比企産 内外面に火だすき痕。
73	SD01	坏	口径(12.8) 残存高3.6 底径(6.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。口縁部は外反する。体部は大きく内湾する。	白色粒子、黒色粒子含む。	灰色N-5/・N-6/	良好	20% (口縁の10%)	
74	SD01	坏	口径(12.3) 残存高3.2	内外面回転ナデ。 口縁部は外反する。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子含む。	外面:黄灰色2.5Y-5/1 内面:にぶい黄色2.5Y-6/3	不良	20% (口縁の25%)	

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
75	SD01	坏	口径(12.2) 器高3.4 底径5.9	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁端部は大きく外反する。体部はやや内湾する。	白色粒子、黒色粒子、長石、雲母、細礫含む。	褐灰色5YR-4/1、青灰色5B-5/1	良好	40% (底部の100%)	
76	SD01	坏	残存高1.1 底径(5.3)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 底部は若干上げ底。	白色粒子、白色針状物質若干、石英含む。	灰白色10Y-7/1	良好	底部破片	南比企産
77	SD01	坏	残存高0.8 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、黒色粒子、雲母少量、細礫含む。	外面:灰色5Y-6/1・5Y-6/2 内面:灰色5Y-6/1	やや不良	底部破片	
78	SD01	坏	残存高0.8 底径6.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 底部は若干上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質ごくわずか含む。	灰色N-5/・N-4/	良好	底部破片	南比企産
79	SD01	坏	残存高1.2 底径5.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は大きく開いて内湾して立つ。	白色粒子、褐色粒子、雲母少量含む。	にぶい黄色2.5Y-6/3、灰黄色2.5Y-6/2	やや良好	底部の100%	
80	SD01	坏	残存高1.4 底径5.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は大きく開いて立ち上がる。	白色粒子含む。	灰色N-5/ 底部一部:灰色N-4/	良好	底部破片	
81	SD01	坏	残存高1.2 底径(6.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は内湾する。底部はやや上げ底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、長石、雲母、細礫(片岩)含む。	にぶい黄褐色10YR-5/4 底部:灰黄褐色10YR-5/2	やや不良	底部破片	末野産
82	SD01	坏	口径(11.5) 器高4.1 底径(5.8)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部・体部は直線的に開いて立つ。	白色粒子、黒色粒子、長石、雲母少量、細礫含む。	灰黄色2.5Y-6/2、にぶい黄橙色10YR-6/3	不良	40%	
83	SD01	椀	口径14.7 器高5.4 底径8.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。 口縁端部は外反する。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、白色針状物質少量、細礫含む。	黄褐色2.5YR-5/3、黄灰色2.5Y-6/1、灰色N-5/ 口縁部一部:暗灰黄色2.5Y-5/2	良好	50%	南比企産
84	SD01	椀	口径(16.6) 器高6.6 底径(7.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部は直線的。体部はやや内湾する。 底部は肉厚。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子含む。	灰黄褐色10YR-6/2、黄灰色2.5Y-6/1	不良	40%	
85	SD01	椀	器高3.9 底径(6.8)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は大きく内湾する。底部はやや上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質少量含む。	外面:灰オリーブ色5Y-5/2、灰色N-6/・N-5/ 内面:灰色N-6/、灰オリーブ色5Y-4/2	良好	30% (底部の50%)	南比企産
86	SD01	坏	残存高3.3 底径5.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部はやや内湾する。底部は肉厚。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母少量、長石、細礫含む。	灰白色2.5Y-7/1、にぶい黄橙色10YR-6/3	不良	35%	
87	SD01	高台椀	口径(11.2) 器高4.5 底径7.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。高台ナデツケ。 口縁部は直線的に立ち上がる。体部は内湾する。	白色粒子含む。	青灰色5B-6/1、暗灰色N-3/	良好	25%	
88	SD01	高台椀	口径(15.3) 器高7.8 底径8.0	内外面回転ナデ。底部外面調整不明(摩滅著しい)。高台ナデツケ。 口縁部は外反する。体部は内湾する。 高台はハの字に開く。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、長石、雲母少量含む。	外面:黄灰色2.5Y-5/1、灰黄色2.5Y-6/2 内面:にぶい黄褐色10YR-5/3	不良	60%	末野産

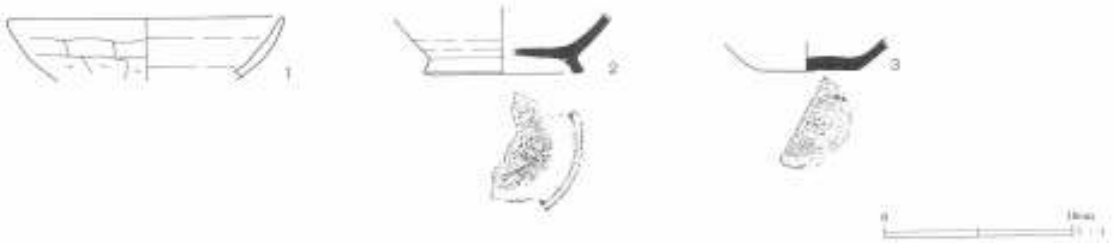
番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
89	SD01	高台皿	残存高5.3 底径(8.5)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 高台ナデツケ。 体部は内湾する。高台はハの字に開く。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、長石、黒雲母、金雲母、細礫含む。	外面:褐灰色10YR-4/1・10YR-6/1 内面:にぶい黄橙色10YR-6/3、灰黄褐色10YR-6/2	不良	40%	
90	SD01	高台皿	残存高4.6 底径8.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 高台ナデツケ。 体部はやや内湾する。底部はやや上げ底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母少量含む。	外面:灰黄褐色10YR-4/2、褐灰色10YR-5/1 内面:灰色5Y-6/1・5Y-4/1	普通	35%	
91	SD01	椀	口径(14.5) 残存高5.5	内外面回転ナデ。 口縁部は外反する。体部はやや内湾する。	白色粒子、長石含む。	灰色N-4/	良好	20%	高台椀か?
92	SD01	椀	口径(14.9) 残存高4.1	内外面回転ナデ。 口縁端部は外反する。体部はやや内湾する。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質少量含む。	外面:黄褐色2.5Y-5/3、灰オリーブ色7.5Y-6/2 内面:灰色N-6/	良好	20% (口縁の25%)	高台椀か? 南比企産
93	SD01	高台皿	残存高2.0 底径7.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 高台ナデツケ。 高台はハの字に開く。底部肉厚。	白色粒子、赤褐色粒子少量含む。	外面:灰色N-5/ 内面:灰色7.5Y-5/1 底部:暗灰黄色2.5Y-5/2、灰黄褐色10YR-5/2	良好	底部破片	
94	SD01	高台皿	残存高1.6 底径7.9	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 高台ナデツケ。 高台端部がとがる。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子含む。	外面:にぶい黄橙色10YR-6/4 内面:にぶい黄橙色10YR-5/4 底部:にぶい褐色7.5YR-5/4	不良	底部破片	
95	SD01	皿	口径(19.7) 残存高3.0 底径(8.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 口縁部は外反する。体部は直線的。	白色粒子、黒色粒子、細礫(φ2～3mm大)含む。	外面:灰色N-6/・5Y-6/1 内面:褐灰色10YR-5/1、灰色5Y-6/1	やや良好	25%	
96	SD01	皿	残存高1.6 底径(5.8)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 体部は直線的に開いて立ち上がる。	白色粒子、黒色粒子、長石含む。	灰色N-5/	良好	底部の50%	
97	SD01	甕	口径(17.9) 胴部径(17.1) 残存高6.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面斜め方向のヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はコの字状を呈する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面:橙色2.5YR-6/8、明赤褐色5YR-5/6 内面:橙色2.5YR-6/8・5YR-6/6	良好	口縁の30%	
98	SD01	甕	残存高1.6 底径5.8	胴部下半部・底部外面横方向のヘラケズリ、内面ナデ。 底径は小さく平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、雲母含む。	外面:明赤褐色2.5YR-5/8・5YR-5/6、黒褐色10YR-3/2 内面:灰白色7.5YR-8/2、にぶい橙色7.5YR-7/4	良好	底部の70%	

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
99	SD01	台付甕	残存高2.2	胴部下半部外面斜め方向のヘラケズリ、内面ナデ。脚台部内外面ヨコナデ。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、雲母含む。	外面:暗褐色10YR-3/3、にぶい赤褐色5YR-4/4、暗赤褐色5YR-3/3 内面:橙色5YR-6/8、明赤褐色5YR-5/8、にぶい黄橙色10YR-6/4	やや良好	胴下半部・底部破片	
100	SD01	台付甕	口径(14.9) 頸部径(14.0) 残存高4.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面横方向のヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部はややコの字状。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子含む。	外面:黒褐色10YR-2/2、褐色7.5YR-4/4、暗褐色7.5YR-3/4 内面:にぶい赤褐色5YR-4/4、暗褐色5YR-3/3	良好	口縁の80%	
101	SD01	台付甕	残存高4.2 脚台高2.6 脚台底径9.8	胴下半部外面縦方向のヘラケズリ、内面木口状工具によるナデ。脚台部内外面ヨコナデ。 脚台部裾は大きくハの字に開く。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子黒雲母含む。	外面:明赤褐色5YR-5/6、橙色5YR-6/6 内面:黒色7.5YR-2/1、褐色7.5YR-4/3 脚台部:明赤褐色2.5YR-5/8、明赤褐色5YR-5/8、橙色7.5YR-6/6	普通	脚台部の90%	
102	SD01	台付甕	口径(12.8) 頸部径(12.1) 脚台高1.8 脚台底径7.7 器高(16.9)	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面横方向ヘラケズリ。胴下半外面縦方向のヘラケズリ、内面ナデ。脚台部内外面ヨコナデ。 口縁部はコの字状。脚台部低く、大きく外反し裾へと移行する。	白色粒子、黒色粒子、雲母含む。	外面:暗褐色7.5YR-3/3、黒色10YR-2/1、暗赤褐色5YR-3/3 内面:黒褐色10YR-3/2、褐色7.5YR-4/3、暗褐色7.5YR-3/3	良好	口縁の25%及び脚台部のほぼ100%	
103	SD01	甕	口径(29.3) 頸部径(27.5) 残存高17.0	内外面回転ナデ。 口縁部は大きく外反して開き、端部は上下方向に延びる。胴部は丸みをもち上半に最大径をもつ。	白色粒子、黒色粒子、褐色の4×4mm の角礫、白色の4×4mm の角礫含む。	外面:灰オリーブ色5Y-6/2・5Y-5/2 内面:灰色7.5Y-5/1、灰オリーブ色5Y-6/2	普通	口縁の80%	
104	SD01	甕	残存高14.6 底径(16.5)	内外面回転ナデ？(摩滅著しい)。 胴部は丸みをもつ。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子含む。	外面:明黄褐色2.5Y-6/6、にぶい黄色2.5Y-6/3、灰白色2.5Y-7/1 内面:灰白色2.5Y-7/1、灰黄色2.5Y-7/2	普通	胴下半部破片	
105	SD01	甕	口径(28.8) 頸部径(19.2) 残存高9.5	口縁部内外面回転ナデ。胴上半部外面平行叩き目、内面ナデ。 口縁部は大きく外反し、端部は上下方向に延びる。端面は山状を呈する。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質若干、雲母、長石、礫含む。	外面:灰色N-5/、灰黄色2.5Y-7/2、淡黄色2.5Y-7/3 内面:淡黄色2.5Y-7/4、灰白色2.5Y-8/1・N-7/	良好	口縁の25%	南比企産
106	SD01	甕	口径13.4 頸部径12.1 残存高8.4	内外面回転ナデ。 口縁部はやや外反し、端部は上下方向に延びる。短い頸部。胴部は大きく丸みをもつ。	白色粒子、黒色粒子含む。	外面:灰白色N-7/、灰色N-6/・N-5/ 内面:灰色N-6/・N-5/、オリーブ黒色5Y-3/2、明黄褐色2.5Y-7/6	良好	口縁の90%	頸部内外面ともに剥離がかる。

番号	遺構名	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
107	SD01	甕	口径(22.8) 残存高5.4	内外面回転ナデ。 口縁部はやや外反し、端部は上下方向に延びる。	白色粒子、雲母、石英、長石含む。	外面:灰色N-4/ 内面:灰色N-5/	良好	口縁の10%	
108	SD01	壺	口径26.4 頸部径16.5 胴部最大径36.7 器高45.9 底径(17.0)	内外面回転ナデ(摩滅著しい)。 口縁部は外反し、端部は上下方向に延びる。胴部は上半に最大径をもち、丸みをもち底部へと移行する。底部は平底。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、細礫含む。	淡黄色2.5Y-8/2、灰白色2.5Y-7/1	やや不良	70%	
109	SD01	甕	口径(15.6) 頸部径(15.4) 残存高5.5	内外面回転ナデ。 口縁部は外反し、端部は上下方向に延びる。胴部はやや丸みをもつ。	白色粒子、黒色粒子含む。	外面:灰色N-6/ 内面:灰色N-5/、灰オリーブ色5Y-6/2	良好	口縁部破片	
110	SD01	甕	残存高10.9 底径(12.3)	胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。胴部はやや丸みをもつ。底部は平底。	白色粒子、細礫含む。	外面:灰褐色7.5Y-5/2、褐灰色7.5Y-4/1、灰赤色2.5YR-4/2、灰褐色7.5YR-6/2 内面:青灰色5PB-5/1、暗青灰色5PB-4/1、灰オリーブ色5Y-5/2	やや良好	底部の50%	
111	SD01	甕	残存高5.9 底径(11.8)	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。 高台はややハの字に開く。	白色粒子含む。	外面:灰色N-4/ 内面・底部:青灰色5PB-5/1	良好	底部破片	
112	SD01	甕	残存高4.8 底径(12.0)	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。 胴下半部は直線的に開いて立ち上がる。高台は低い。	白色粒子、黒褐色粒子、白色針状物質、細礫含む。	外面:灰色N-5/・N-6/ 内面:灰白色N-7/	良好	底部の25%	南比企産
113	SD01	瓶	残存高2.0 底径(6.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 底部はやや上げ底。肉厚。	白色粒子、細礫含む。	灰色N-4/	やや不良	底部の25%	
114	SD01	壺	残存高2.1	底部は丸底。肉厚	白色粒子、黒色粒子含む。	外面:灰黄色2.5Y-7/2、オリーブ黒色10Y-3/2、オリーブ黄色5Y-6/3 内面:灰黄色2.5Y-7/2	良好	底部破片	外面に自然釉かかる。
115	SD01	甕	厚さ0.8~0.9	外面平行叩き目。内面ナデ。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	外面:暗灰色N-3/ 内面:灰色N-4/	良好	胴部破片	南比企産
116	SD01	甕	厚さ0.8~1.0	外面平行叩き目。内面ナデ。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質含む。	外面:灰色N-5/ 内面:灰色N-6/	良好	胴部破片	南比企産
117	SD02	坏	口径(13.2) 残存高3.1	内外面回転ナデ。 口縁部は大きく外反する。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子雲母、細礫(長石)含む。	外面:褐灰色10YR-4/1、灰色N-5/、にぶい黄褐色10YR-4/3 内面:黒褐色7.5YR-3/2、褐7.5YR-4/4	良好	30%(口縁の45%)	末野産

5　表土剥ぎ・グリッド出土遺物

重機による表土除去の際に出土した遺物および遺構外グリッド遺物を掲載する（第30図、第８表）。



第30図　表土剥ぎ・グリッド一括遺物

第８表　表土剥ぎ・グリッド一括遺物観察表（第30図）

番号	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(14.5) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 口縁部はやや内湾ぎみに開いて立ち上がる。体部は内湾する。	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	橙色5YR-6/6	普通	10% (口縁の25%)	表土剥ぎ遺物
2	高台坏	残存高3.2 底径(8.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、高台ナデツケ。 体部は開いて立ち上がる。高台はハの字に開く。	白色粒子、黒色粒子、6×7㎜大の片岩礫、9×2㎜大の長石含む。	外面：灰色N-4/ 内面：灰色N-5/	良好	底部の50%	末野産 遺跡一括遺物
3	坏	残存高1.7 底径(5.3)	内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。体部はやや内湾する。底部はやや上げ底。	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質若干、石英含む。	にぶい赤褐色5YR-4/3	良好 (窯焼)	底部破片	南比企産 B-2グリッド遺物

V 調査のまとめ

（1）出土遺物について

不二ノ腰遺跡からは、奈良時代から平安時代、つまり８世紀前半から９世紀末、そして10世紀後半及び11世紀にかけて遺物及び住居跡３軒、溝跡２条、土坑、ピットが検出され、遺物のほとんどが住居跡、溝跡から出土している。そのおおよそ内訳は住居跡約２割、溝跡約７割である。ここでは、住居跡および溝跡から主体的に出土した須恵器・土師器の様相から４期に区分し、時期および変遷について見ていきたいと思う。

１期

第１号溝跡からの遺物がこの時期に当たる。

わずかであるが、土師器坏、須恵器の坏・蓋が出土している。土師器の坏は、口縁部が直立もしくはやや内湾ぎみに立ち上がる丸底のものである。須恵器の坏は、口径・底径とも大きく、底部が丸みをもち、調整は全面回転ヘラケズリである。須恵器の蓋は、つまみが擬宝珠形で比較的扁平化していない（「かえり」に関しては欠損品しか認められなかったので不明）。

時期は、土師器、須恵器の坏の特徴から考え８世紀前葉としておきたい。

Ⅱ期

第２号住居跡、第１号溝跡の遺物がこの時期に当たる。

第２号住居跡は土師器が主体的に出土しているだけである。土師器の坏は口縁部が「く」の字に屈曲するタイプである。また、土師器の甕は、破片のみで確証に乏しいが、口縁部が外側に「く」の字に屈曲するものと考えられる。さらに、第１号住居跡カマド袖に使用されていた土師器甕もこの特徴を示し、胴部上半に最大径をもつ。この甕は、補強材用途で使用されていた。

第１号溝跡からはわずかながら須恵器坏・蓋が出土している。坏は、底部の調整が回転糸切り後外周回転ヘラケズリのものが主体である。蓋は、擬宝珠形のつまみだが扁平になり、かえりがなく下方へ折れ曲がるものである。胎土中に特徴的に白色針状物質をもつ南比企産のものが増えてくる。

時期は、土師器の年代を中心に考え８世紀中葉から末としておきたい。

Ⅲ期

第１号住居跡、第１号溝跡の主体出土遺物がこの時期となり、本遺跡の主体となる時期である。

須恵器は出土量も多く、また、器種も豊富で蓋・坏を中心に、甕、瓶などが出土している。坏の口径は12cm大が中心で、底部の調整は回転糸切り離し後の無調整である。また、体部は底部から直線的に口縁部に至るものである。椀も高台椀も含めて特徴的に見られるようになる。Ⅲについても、次のⅣ期とともに出現している。須恵器の生産地は、白色針状物質が特徴的に含まれていることから南比企産と思われるものが多い。蓋は、つまみ部分が欠損しているものが多いが環状形のつまみが多い。

土師器は、坏が主体的に出土しており、平底化が進み、体部が指頭圧痕調整によるものが主体となっている。甕は、口縁部が「コ」の字状となるものである。

時期は、須恵器坏および土師器甕の特徴から、９世紀初頭から中葉としておきたい。

Ⅳ期

第３号住居跡、第１号溝跡の主体出土遺物、第２号溝跡がこの時期にあたり、本遺跡おいてⅢ期に次いで主体をなす時期である。

須恵器は、Ⅲ期に引き続き坏が多量に出土しており、器種も豊富である。坏の口径は12cm大が中心で、底部の調整は回転糸切り離し後の無調整が主流をなしている。体部が膨らみをもち、口縁部がやや外反もしくは外反するものである。また、高台坏が増加傾向にある。そして、酸化焔焼成のものもみられる。蓋はつまみのないタイプが出現している。

土師器は、坏の出土量が減少傾向にあり、須恵器坏が主体的になりつつある。底部はさらに平底化が顕著である。甕は、「コ」の字状の口縁部である。また、小型台付甕もみられ、これも「コ」の字状の口縁である。

時期は、須恵器坏の特徴などから９世紀後葉から末としておきたい。

以上が、本遺跡から主体的に出土した遺物を中心に遺構とからめて時期的な変遷を見てきたものである。これらの時期以降の遺物もわずかではあるが見られる。しかし、本遺跡の核となる時期は、９世紀と考えてよいだろう。

（２）住居跡について

ここでは、今回の調査によって検出された住居跡について考えていきたい。

住居跡の検出は少なく、３軒に止まった。この少ない情報から得られる事柄について述べていきたいと思う。

各々前述の分類時期に１つずつ当てはまる。第２号住居跡は位置が単独であるが、第１号住居跡と第３号住居跡は、重複関係にあり近接した位置にある。時期的には互いに第２号住跡・第１号住居跡・第３号住居跡と近い関係にあると考られる。

また、住居跡の主軸方向も第２号住居跡が一番東に傾き、第１号住居跡と第３号住居跡はほぼ同じような傾きであり第２号住居跡とはわずかではあるが傾きが浅い。しかし、互いにさほどの違いはない。

出土遺物からも見てみると、第２号住居跡は遺物量が少なく明確な時期は不明であるが、口縁部が「く」の字状を呈すと考えられる土師器甕の破片が出土していることからⅡ期とした。一方、第１号住居跡・第３号住居跡は、土師器甕の主体が「コ」の字状の口縁部である特徴が共通している。ただし、第１号住居跡からも「く」の字状口縁の土師器甕が、カマド袖の補強材および第３号住居跡と重複する付近で出土していることや、カマド焚き口出土の土師器坏の特徴がⅡ期の特徴に似ていることから、遺物においても近い関係にあると考える。

以上のように今回の調査は、集落のほんの一部が検出されたに過ぎず、現状では集落の実態は、ほとんど分からない状態である。

（３）第１号住居跡のカマドについて

今回調査した不二ノ腰遺跡の住居跡の中で、第１号住居跡のカマドは特徴的であった。それは、カマドの壁材に拳大ないしはそれ以上の大きさの川原石を使用していたことである。

カマドの焚き口に近い部分および袖に残存していたもので、約３段の川原石を小口を揃えてあたかも古墳の石室のように積み上げていた。それは、いずれも被熱により赤色化しており芯材としての補強材

ではなく、直接カマドの壁として使用されていたという意味合いの方が強いと考えられる。これは、焚き口に近い部分にのみ施されていたことから、実際の火の使用によってその熱量で壁が劣化するのを防ぐ手だてとしたのであろう。

また、荒川は近世の初め、寛永６年(1629)の関東郡代伊奈忠治による新川の掘削によって現在の河道になるまで、古代からの１千年の間にも洪水の度に何度となく流れを変えている。ちょうど本遺跡の集落が存在していた当時は、熊谷市の観音山及び三ヶ尻地区の南をとおり、久保島地区の北をへて、蛇行して上奈良地区・下奈良地区の南、上中条の北をとおり利根川へと流れていた。広瀬地区は、久保島のすぐ南に位置し、現在とは違い北側に荒川が流れていたことになる。現在は、荒川の流路に本遺跡が直線距離にして約 1.5km という近い場所に立地している（河川敷までの距離は0.8km）。よって、このカマドが構築された要因は、これらの立地環境や地山自体に川原石等の礫を含んでいることから施工できたと考えられる。いわば生活の知恵ともいえる産物であると考えられる。

そこで、不二ノ腰遺跡第１号住居跡のような、川原石を壁状にカマドに使用している例を近隣で探してみた。しかし、類例がほとんど探せず対岸の川本町の鹿島平方裏遺跡の住居跡のカマドに川原石使用例が見られた。

遺跡は、川本町の江南町と隣接する東端に位置し、荒川右岸の河岸段丘上に立地する。発掘調査により奈良・平安時代の住居跡24軒、土坑４基、集石遺構１基、溝跡１条が検出されている。遺跡の地山は灰褐色シルト層及び砂礫層で、住居跡は北部・中央部・南部と３群に分かれるが、その北部と南部の一群は砂礫層を掘り抜いている。これらの住居跡の内第11・16・18号住居跡は、カマドに川原石が補強材として使用されていた。

（１）第11号住居跡

主軸はほぼ北、規模は東西7.2m、南北7.2m の正方形のプランを呈する。確認面は砂礫層及びシルト層で、覆土は小礫を含む黒褐色シルト層が堆積する。

カマドは、北壁中央やや東よりにあり、両縁に川原石が積まれていて、カマド全面では立てられており、煙道寄りでは最大２段に木口積みされていたようである。

時期は、８世紀前葉、本報告のⅠ期にあたる。

（２）第16号住居跡

主軸はほぼ北、規模は南北4.3m、東西5.5m のほぼ正方形のプランを呈する。確認面は砂礫層で、覆土は上層に礫を含まない黒色砂質土、下層に小礫を含む黒褐色土層が堆積する。

カマドは、北壁中央にあり、両縁に川原石や土器破片が補強材として使用されており、川原石は立てられていたようである。

時期は、９世紀中葉から後葉、本報告のⅣ期にあたる。

（３）第18号住居跡

主軸はほぼ北、規模は南北3.9m、東西3.5m のほぼ正方形のプランを呈する。確認面は砂礫層で、小礫を多量に含む黒褐色土層が堆積する。

カマドは、北壁中央やや東よりにあり、両縁に川原石が左側で３段、右側で４段木口積みに積まれ補強されていたようである。

時期は、10世紀後半である。

以上であるが、本遺跡とは荒川を挟んで対岸の立地であり、地山に砂礫層及びシルト層をもち、非常に環境的に似かよっている。やはり近くで供給される材料をうまく利用した例をして挙げられる。また，時期的にも共通する。しかし、これらの川原石は補強材としての使用例で本遺跡例のような壁的イメージではない。

一方，広く石材を使用する例に範囲を拡げてみてみると、石材としては緑泥片岩・結晶片岩・安山岩・凝灰岩・砂岩等の使用例があるようである。緑泥片岩のような板状の石材使用例は、その石材を産出する周辺地域に出土例が分布するし、砂岩などを例にとってみてもそれを産出する近隣地域に多いように見受けられる。緑泥片岩等の片岩系石材使用例については、荒川上流域にも分布が見られ、近くでは本遺跡と荒川を挟んで、江南台地南縁辺に立地する江南町塩西遺跡（川本町の南に位置する）の11世紀前半代の住居跡（23号住居跡）のカマドで見られる。また、補強材としてではなく、直接カマドの上部施設として石が組まれていたものと見受けられるようである。川本町百済木遺跡の８世紀初頭の住居跡（Ｂ区２号住居跡）のカマドは凝灰岩の切石をカマドの焚き口付近の両壁に据え置き使用していた。この石材は被熱を受け赤色化しており、芯材にして粘土を被覆して使用されていたと考えられるが、直接カマドの壁に使用されていた可能性もある。（川本町教育委員会村松篤氏の御教示による）

以上のように、石材にとらわれず見てみると、その土地土地で手に入れられる材料を、巧みに利用しているという事象を読みとることができる。しかし、本遺跡のような石材を直接壁としてではなく芯材として利用しているというのが主流のようである。

今回は、住居跡で特に目についた事象について考えてみたが、今後はこのような事象をさらなる情報の蓄積で考えていきたいと思う。

引用・参考文献

『熊谷市史』前編　熊谷市　1963

『新編　埼玉県史』資料編１　1980

『新編　埼玉県史』資料編２　1982

『新編　埼玉県史』資料編３　1984

大里郡市文化財担当者会「大里地域の遺跡Ⅰ」『埼玉考古』第29号　埼玉考古学会　1992

小久保徹他『三尻天王＋三尻林(1)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1983

高山清司「三ヶ尻上古遺跡」『埼玉県土器集成』４　埼玉考古学会　1976

鈴木敏昭他『横間栗遺跡』熊谷市教育委員会　1999

木戸春夫『根絡・横間栗・関下』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995

中島宏他『池守・池上』埼玉県教育委員会　1984

鈴木孝之『北島遺跡』Ⅳ　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998

吉田稔他『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1991

滝瀬芳之他『上敷免遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1993

田中広明『新屋敷東・本郷前東』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第111集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1992

岩瀬　譲『前・居立』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第151集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995

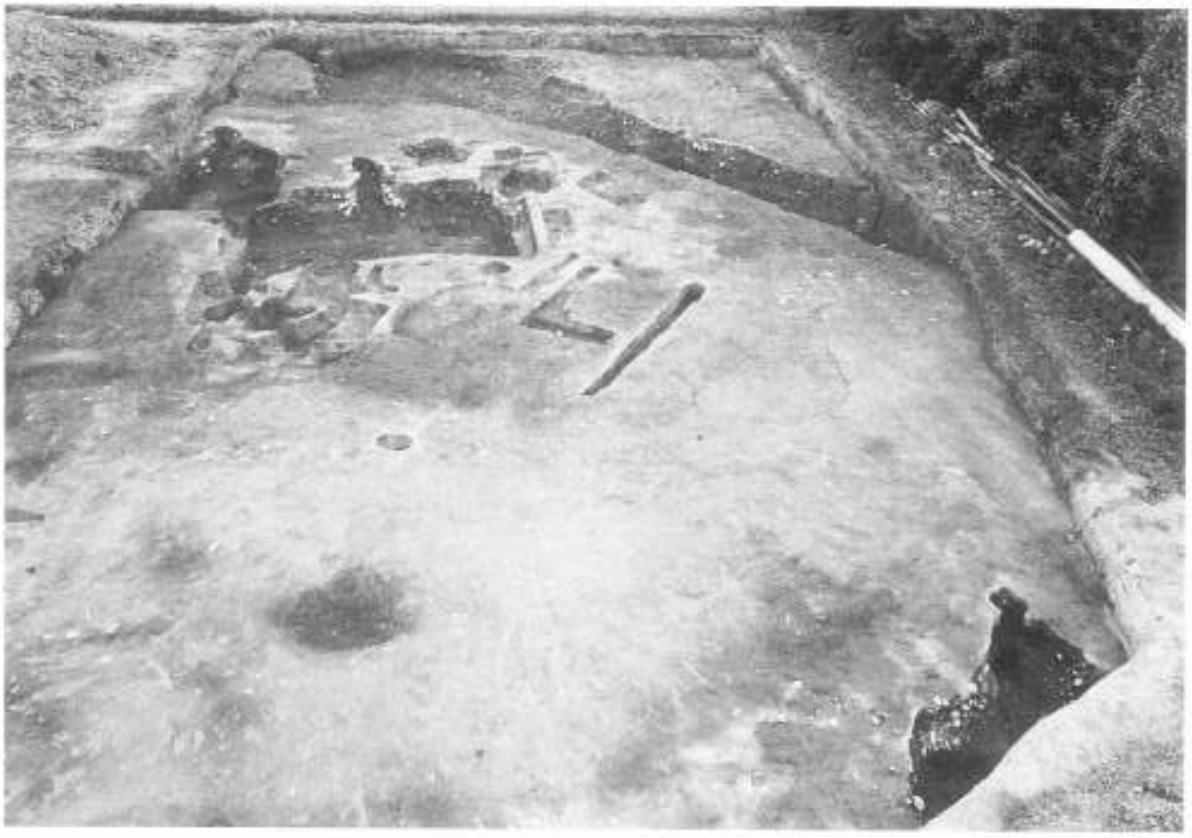
磯崎　一『新田裏・明戸東・原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989

大屋道則『清水上遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第152集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1994

寺社下博他『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』熊谷市教育委員会　1979
寺社下博他『天神遺跡』熊谷市教育委員会　1988
寺社下博『中条遺跡群Ⅲ　権現山古墳・常光院東遺跡』熊谷市教育委員会　1982
滝瀬芳之『東川端遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1990
増田逸朗他『横塚山古墳』埼玉県遺跡調査会　1971
山川守男『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995
鯨持和夫『ウツギ内・砂田・柳町』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第126集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1993
寺社下博『天神下・土用ヶ谷戸遺跡』熊谷市教育委員会　1984
寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度　埼玉県教育委員会　1982
金子正之『三尻遺跡群　黒沢館・樋ノ上遺跡』熊谷市教育委員会　1985
小川良祐他『樋の上遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1986
坂野和信他『樋の上／皇山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第205集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
金子正之『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』熊谷市教育委員会　1982
金子正之『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』熊谷市教育委員会　1984
中村倉司『下辻遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1987
川口　潤『本郷前東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第78集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
利根川章彰他『新ヶ谷戸』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第９集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1982
権田宣行『天神前遺跡』熊谷市教育委員会　1992
寺社下博「熊谷市籠原裏遺跡の調査」『第20回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他　1987
『埼玉県古代寺院調査報告書』埼玉県県史編さん室　1982
星間孝志他「北武蔵における古瓦の基礎的研究Ⅰ」『研究紀要』　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1986
吉野　健『西別府廃寺（第２次）』熊谷市教育委員会　1994
大場磐雄・小沢國平「新発見の祭祀遺跡」『史跡と美術』第338号　1963
富田和夫『在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第220集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
浅野晴樹『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
中村倉司『北島遺跡』Ⅱ　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
大谷　徹『北島遺跡』Ⅲ　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集　財埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1991
『埼玉の館城跡』埼玉県教育委員会　1968
『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会　1988
金子正之『三尻遺跡群　若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』熊谷市教育委員会　1986
金子正之『三尻遺跡群　社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』熊谷市教育委員会　1986
吉野　健『西方遺跡』熊谷市教育委員会　1989
『中世の熊谷の武士たち』熊谷市立図書館　1998
村松　篤『鹿島平方裏遺跡発掘調査報告書』川本町遺跡調査会報告書第３集　川本町遺跡調査会　1995
新井　崩『塩西遺跡Ⅱ』江南町文化財報告第９集　江南町教育委員会　1989
新井壽郎「熊谷の地形と地質」『ムサシトミヨと熊谷の自然－くまがや自然図鑑Ⅱ－』熊谷市立図書館　1999

写 真 図 版

図版 1



不二ノ腰遺跡全景（西から）

不二ノ腰遺跡全景（北から）

図版 2

第 1 号住居跡

第 1 号住居跡遺物出土状況（1）

第 1 号住居跡遺物出土状況（2）

第 1 号住居跡遺物出土状況（3）

第 1 号住居跡カマド（正面）

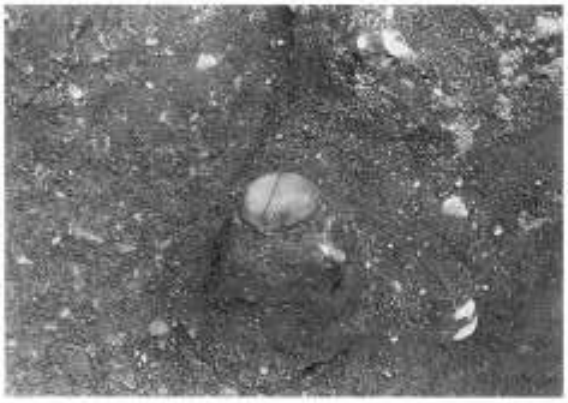
第 1 号住居跡カマド（左壁）

第 1 号住居跡カマド（右壁）

第 1 号住居跡カマド遺物出土状況

第 2 号住居跡

第 3 号住居跡



第 3 号住居跡遺物出土状況

第 1 号土坑

第 2 ～14号土坑、第 3 ・ 4 号ピット

第15～17号土坑、第 5 号ピット

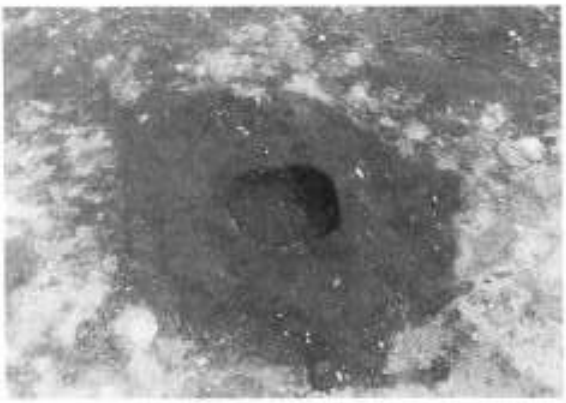
第18～22号土坑

第23号土坑

図版４

第24号土坑

第24号土坑遺物出土状況



第１号ピット

第２号ピット

第１・２号溝跡（北から）

第１号溝跡（北から）

第１号溝跡遺物出土状況（1）

第１号溝跡遺物出土状況（2）

第８図－１

第８図－２

第８図－11

第16図－３

第22図－２

第22図－３

第22図－５

第22図－７

第25図－２

第25図－13

図版 6

第25図－21

第25図－23

第25図－24

第25図－25

第25図－27

第25図－31

第 8 図－18

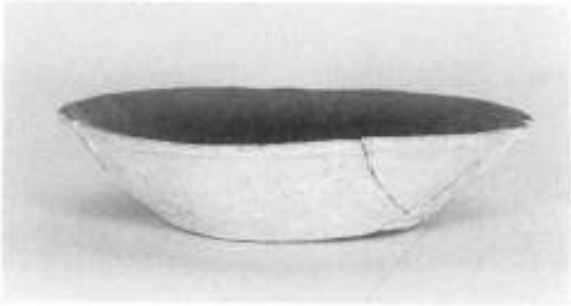
第 8 図－19

第22図－20

第22図－21

第22図－24

第26図－43



第26図－51

第26図－52

第26図－54

第26図－55

第26図－56

第26図－66

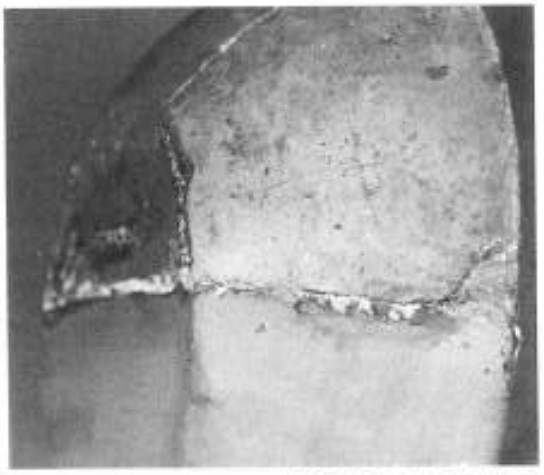
第27図－69

第27図－70

図版８

第27図－68

墨書「益」第27図－68

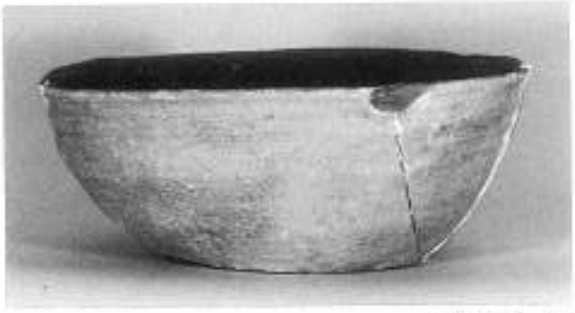


墨書「誠」第27図－68

第27図－71

第27図－72

第27図－82



第27図－83

第27図－84

第27図－88

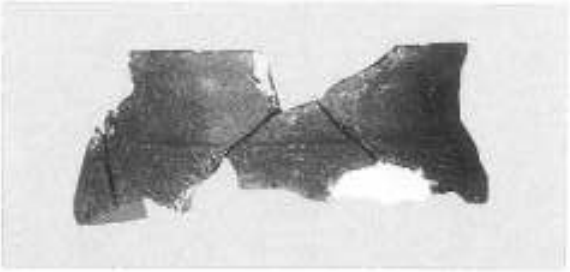
第25図－37

第25図－38

第26図－41

第 9 図－27

第 9 図－28



第28図－97

第16図－15

図版10

第28図－103

第28図－105

第28図－106

第29図－110

第29図－108

第17図－20

第22図－28

報告書抄録

ふりがな	ふじのこしいせき
書名	不二ノ腰遺跡
副書名	平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	吉野　健
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会
所在地	〒360-8601　埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1　TEL 048-524-1111
発行年月日	西暦2000(平成12)年3月31日

所収遺跡名(ふりがな)	所在地(ふりがな)	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯(°′″)	東経(°′″)	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
不二ノ腰遺跡(ふじのこしいせき)	埼玉県熊谷市大字広瀬字不二ノ腰106番の一部(さいたまけんくまがやしおおあざひろせあざふじのこしいちぶ)	11202	118	36°8′56″	139°21′27″	19990407～19990528	367.52	通信用鉄塔建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
不二ノ腰遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代	住居跡　3軒 土坑　24基 ピット　5基 溝跡　2条	土師器 須恵器 鉄製品 石製品	

平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
不二ノ腰遺跡
平成12年３月31日発行
発　行／埼玉県熊谷市教育委員会
印　刷／株式会社　博　文　社

さくらのまち"熱海"